

ふじみ野市文化財調査報告 第13集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 12

TAKI SITE
滝遺跡第20・21地点

NAGAMIYA SITE
長宮遺跡第41地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第62地点

NAEMAHICASHIKUBO SITE
苗間東久保遺跡第26地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市文化財調査報告 第13集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 12

TAKI SITE
滝遺跡第20・21地点

NAGAMIYA SITE
長宮遺跡第41地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第62地点

NAEMAHIGASHIKUBO SITE
苗間東久保遺跡第26地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることが出来ます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えようと、改めてこの地域の繋がりがや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、民間の開発業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長職務代理者 高山 稔

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、発掘調査5件の報告書である。
2. 民間開発を原因として行なった5ヶ所の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行った。

遺跡名・地点名	委託者	協定期間
滝遺跡第20地点	星野正巳・吉野長	平成24年5月17日～平成27年3月31日
滝遺跡第21地点	横山誠治	平成24年6月18日～平成26年3月31日
長宮遺跡第41地点	代表 宮寺聖治	平成24年6月11日～平成26年3月31日
松山遺跡第62地点	柳川嗣於	平成24年7月23日～平成26年3月31日
苗間東久保遺跡第26地点	團壠井不動産	平成22年6月22日～平成26年3月31日

3. 調査組織

調査主体者 ふじみ野市教育委員会

担当課 生涯学習課文化財保護係（～2013年3月31日）

生涯学習課上福岡歴史民俗資料館文化財保護係（2013年4月1日～）

教育長 矢島秀一（2010.3.19～2014.3.18） 文化財保護係調査担当者 高崎直成（～2013.3.31）

教育長職務代理者 高山 稔（2014.3.19～3.31）

鍋島直久

生涯学習部長 綾部 誠（2012.4.1～2013.3.31）

庶務担当 岡健二（2013.4.1～）

教育部長 高山 稔（2013.4.1～）

園分英良

生涯学習課長 桜井信枝（2012.4.1～）

柳澤健司

生涯学習課主幹 坪田幹男（2013.4.1～）

発掘調査員補 越村 篤

文化財保護係長 橋本鶴人（2011.4.1～2013.3.31）

嘱託員 配島結華（2012.4.1～2013.3.31）

高崎直成（2013.4.1～）

臨時的任用職員 高橋京子

4. 本書作成の作業分担は事実報告及び遺構の執筆を高崎、遺物の執筆を笹森健一（ふじみ野市文化財保護審議会委員）が行った。また図版作成の一部と石器実測の一部を㈱東京航業研究所に委託した。報告書作成全般にわたり、鍋島、越村の協力を得た。

本文・挿図割付：高橋けい子 遺物接合・復元：中田藤子 土器実測・拓本：石垣ゆき子 石器実測：大久保明子

遺構・遺物トレース：小林登喜江 遺構写真：高崎直成、越村篤 遺物写真：大久保明子

図版作成：石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、鈴木千恵子、青山奈保美 松平静

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

会田明、阿部常樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、酒井智晴、笹森健一、佐藤啓子、佐藤良博、塩野賀一、鈴木清、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、鈴木雅樹、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓啓、堀善之、松本富雄、柳井章宏、埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館、㈱文化財COM、㈱アルケリサーチ、㈱東京航業研究所







6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉（敬称略）明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、壺岐久子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、金子君子、川中ひろみ、菊川繁子、小林こずい、西城満期子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、篠崎忠三（故人）、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、山内康代、米田昇三、若林紀美代

〈整理作業参加者〉（敬称略）青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平静

7. 出土土器について、下記の皆様から貴重な御教示を賜りました。記して謝意を表する次第です。(敬称略)
新井和之、大矢道則、金子直行、鈴木徳雄、高野博光、塚本師也、早坂廣人、和田晋治

凡 例

- 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - 縮尺は原則として
遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3 銭 1:1
 - 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高と同じ。
 - 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
攪乱  地山 (ローム)  焼土  粘土  朱  煤 
土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
 - 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。
- 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
- 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 12 目次

はじめに	1	第4章 長宮遺跡第41地点の本調査	36
例言	ii	Ⅰ 遺跡の立地と環境	36
凡例	iii	Ⅱ 本調査に至る経過と調査の概要	36
目次	iii	Ⅲ 遺構と遺物	42
挿図、表、写真図版目次	iv	第5章 松山遺跡第62地点の本調査	71
第1章 ふじみ野市の遺跡	1	Ⅰ 遺跡の立地と環境	71
Ⅰ ふじみ野市の立地と環境	1	Ⅱ 本調査に至る経過と調査の概要	71
Ⅱ 市内の遺跡	2	Ⅲ 遺構と遺物	80
第2章 滝遺跡第20地点の本調査	5	第6章 苗間東久保遺跡第26地点の本調査	84
Ⅰ 遺跡の立地と環境	5	Ⅰ 遺跡の立地と環境	84
Ⅱ 本調査に至る経過と調査の概要	5	Ⅱ 本調査に至る経過と調査の概要	84
Ⅲ 遺構と遺物	8	Ⅲ 遺構と遺物	92
第3章 滝遺跡第21地点の本調査	14	写真図版	97
Ⅰ 本調査に至る経過と調査の概要	14	抄録	128
Ⅱ 遺構と遺物	15		

挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	・・・	1	第35図	長宮遺跡第41地点J11号住居跡(1/60)	・・・	46
第2図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	・・・	3	第36図	長宮遺跡第41地点J11号住居跡 ^ア (1/30)、 遺物出土状況図(1/60)	・・・	47
第3図	滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)	・・・	5	第37図	長宮遺跡第41地点J12・J13号住居跡(1/60)	・・・	48
第4図	滝遺跡遺構分布図(1/2,000)	・・・	7	第38図	長宮遺跡第41地点J12・J13号住居跡遺物出土状況 図(1/60)、J13号住居跡 ^ア (1/30)	・・・	49
第5図	滝遺跡第20点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)	・・・	8	第39図	長宮遺跡第41地点J14号住居跡遺物出土状 況図(1/60)、 ^ア (1/30)	・・・	50
第6図	滝遺跡第20地点H30号住居跡・ 掘方・土層図(1/60)	・・・	9	第40図	長宮遺跡第41地点J15号住居跡遺物出土状況図(1/60)	・・・	51
第7図	滝遺跡第20地点H30号住居跡遺物出土状 況図(1/60)、竈・掘方(1/30)	・・・	10	第41図	長宮遺跡第41地点奥土・朽・井戸・ビット(1/60)	・・・	53
第8図	滝遺跡第20地点H30号住居跡竈遺物出土状況 図(1/30)、井戸・土坑・ビット(1/60)	・・・	11	第42図	長宮遺跡第41地点落とし穴・土坑・ビット(1/60)	・・・	54
第9図	滝遺跡第20地点H30号住居跡出土遺物(1/4)	・・・	12	第43図	長宮遺跡第41地点土坑(1/60)	・・・	55
第10図	滝遺跡第21地点遺構配置図(1/300)、ビッ ト拡大図(1/200)	・・・	14	第44図	長宮遺跡第41地点土坑・ビット(1/60)	・・・	56
第11図	滝遺跡第21地点H31A号住居跡(古住居) ①(1/60)	・・・	16	第45図	長宮遺跡第41地点ビット①(1/60)	・・・	57
第12図	滝遺跡第21地点H31A号住居跡土層図(古 住居)②(1/60)	・・・	17	第46図	長宮遺跡第41地点ビット②(1/60)	・・・	58
第13図	滝遺跡第21地点H31B号住居跡(新住居) ③(1/60)	・・・	18	第47図	長宮遺跡第41地点ビット③(1/60)	・・・	59
第14図	滝遺跡第21地点H31B号住居跡(新住居) ④(1/60)、炉・鍛冶炉・ビット(1/30)	・・・	19	第48図	長宮遺跡第41地点土坑・ビット・溝(1/60)	・・・	60
第15図	滝遺跡第21地点H31号住居跡・住居内ビッ ト土層説明	・・・	20	第49図	長宮遺跡第41地点土層説明	・・・	61
第16図	滝遺跡第21地点H31号住居跡遺物出土状 況図(1/60)	・・・	21	第50図	長宮遺跡第41地点J10号住居跡出土遺物①(1/4)	・・・	64
第17図	滝遺跡第21地点H31号住居跡竈1(1/30)	・・・	22	第51図	長宮遺跡第41地点J10号住居跡出土遺物②(1/4)	・・・	65
第18図	滝遺跡第21地点H31号住居跡竈2(1/30)	・・・	23	第52図	長宮遺跡第41地点J10号住居跡出土遺物③(1/4)	・・・	66
第19図	滝遺跡第21地点H32号住居跡遺物出土状 況図・溝1(1/60)	・・・	24	第53図	長宮遺跡第41地点J11号住居跡出土遺物(1/4)	・・・	67
第20図	滝遺跡第21地点井戸・土坑・ビット(1/60)	・・・	25	第54図	長宮遺跡第41地点J12-J15号住居跡出土遺物(1/4・2/3)	・・・	68
第21図	滝遺跡第21地点土坑・ビット(1/60)	・・・	26	第55図	長宮遺跡第41地点が穴・土坑・落とし穴・ビッ ト・溝・遺構外出土遺物(1/4・2/3)	・・・	69
第22図	滝遺跡第21地点土層説明	・・・	27	第56図	松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)	・・・	71
第23図	滝遺跡第21地点掘立柱建物跡(1/60)	・・・	28	第57図	松山遺跡遺構分布図(1/3,000)	・・・	74
第24図	滝遺跡第21地点ビット①(1/60)	・・・	29	第58図	松山遺跡第62地点遺構配置図(1/300)、 土層図(1/150)	・・・	75
第25図	滝遺跡第21地点ビット②(1/60)	・・・	30	第59図	松山遺跡第62地点J1号住居跡遺物出土状 況図(1/60)	・・・	76
第26図	滝遺跡第21地点溝・ビット(1/60)	・・・	31	第60図	松山遺跡第62地点が・掘方・トレンチ7中 央部単独出土土器遺物出土状況図(1/30)、 ビット(1/60)	・・・	77
第27図	滝遺跡第21地点H31号住居跡出土遺物 (1/4)	・・・	33	第61図	松山遺跡第62地点溝1・5・6(1/60)	・・・	78
第28図	滝遺跡第21地点H31・32号住居跡・井戸・ 土坑・溝出土遺物(1/4・1/1)	・・・	34	第62図	松山遺跡第62地点溝2・3(1/60)	・・・	79
第29図	長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)	・・・	36	第63図	松山遺跡第62地点J1号住居跡出土遺物(1/4・2/3)	・・・	81
第30図	長宮遺跡遺構分布図(1/3,000)	・・・	38	第64図	松山遺跡第62地点トレンチ7中央部単独出土 土器・溝・遺構外出土遺物(1/4・1/1)	・・・	82
第31図	長宮遺跡第41地点遺構配置図(1/300)、 土層図(1/150)	・・・	40	第65図	苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)	・・・	84
第32図	長宮遺跡第41地点土層図(1/150)、土層説明	・・・	41	第66図	苗間東久保遺跡第26地点遺構配置図(1/300)	・・・	84
第33図	長宮遺跡第41地点J10号住居跡(1/60)	・・・	44	第67図	苗間東久保遺跡遺構分布図(1/3,000)	・・・	86
第34図	長宮遺跡第41地点J10号住居跡 ^ア (1/30)、 遺物出土状況図(1/30・1/60)	・・・	45	第68図	苗間東久保遺跡第26地点6号住居跡遺物出土 状況図(1/60)	・・・	87
				第69図	苗間東久保遺跡第26地点土坑(1/60)	・・・	88
				第70図	苗間東久保遺跡第26地点ビット①(1/60)	・・・	89
				第71図	苗間東久保遺跡第26地点ビット②(1/60)	・・・	90
				第72図	苗間東久保遺跡第26地点ビット③・風倒木・ イモビツ(1/60)	・・・	91
				第73図	苗間東久保遺跡第26地点出土遺物①(1/4)	・・・	94
				第74図	苗間東久保遺跡第26地点出土遺物②(1/4・2/3)	・・・	95
				第75図	苗間東久保遺跡第26地点出土遺物③(1/4)	・・・	96

表 目 次

第1表	ふじみ野市遺跡一覧表	2	第14表	長宮遺跡第41地点J14号住居跡遺構一覧表	52
第2表	滝遺跡調査一覧表	6	第15表	長宮遺跡第41地点J15号住居跡ビット一覧表	52
第3表	滝遺跡古代住居跡一覧表	6	第16表	長宮遺跡第41地点遺構一覧表	52
第4表	滝遺跡第20地点遺構一覧表	9	第17表	長宮遺跡第41地点ビット一覧表	62
第5表	滝遺跡第21地点H31号住居跡ビット一覧表	30	第18表	長宮遺跡第41地点出土石器一覧表	70
第6表	滝遺跡第21地点遺構一覧表	30	第19表	松山遺跡調査一覧表	72
第7表	滝遺跡第21地点ビット一覧表	32	第20表	松山遺跡住居一覧表	73
第8表	長宮遺跡調査一覧表	37	第21表	松山遺跡第62地点J1号住居跡ビット一覧表	80
第9表	長宮遺跡住居跡一覧表	39	第22表	松山遺跡第62地点遺構一覧表	80
第10表	長宮遺跡第41地点J10号住居跡遺構一覧表	47	第23表	苗間東久保遺跡調査一覧表	85
第11表	長宮遺跡第41地点J11号住居跡遺構一覧表	51	第24表	苗間東久保遺跡住居一覧表	85
第12表	長宮遺跡第41地点J12号住居跡ビット一覧表	51	第25表	苗間東久保遺跡第26地点遺構一覧表	93
第13表	長宮遺跡第41地点J13号住居跡遺構一覧表	52	第26表	苗間東久保遺跡第26地点出土石器一覧表	96

写真図版目次

写真1	滝遺跡第20地点(1)	97	写真17	長宮遺跡第41地点(7)	113
写真2	滝遺跡第20地点(2)	98	写真18	長宮遺跡第41地点(8)	114
写真3	滝遺跡第20地点(3)	99	写真19	長宮遺跡第41地点(9)	115
写真4	滝遺跡第21地点(1)	100	写真20	長宮遺跡第41地点(00)	116
写真5	滝遺跡第21地点(2)	101	写真21	長宮遺跡第41地点(01)	117
写真6	滝遺跡第21地点(3)	102	写真22	長宮遺跡第41地点(02)	118
写真7	滝遺跡第21地点(4)	103	写真23	長宮遺跡第41地点(03)	119
写真8	滝遺跡第21地点(5)	104	写真24	松山遺跡第62地点(1)	120
写真9	滝遺跡第21地点(6)	105	写真25	松山遺跡第62地点(2)	121
写真10	滝遺跡第21地点(7)	106	写真26	松山遺跡第62地点(3)	122
写真11	長宮遺跡第41地点(1)	107	写真27	苗間東久保遺跡第26地点(1)	123
写真12	長宮遺跡第41地点(2)	108	写真28	苗間東久保遺跡第26地点(2)	124
写真13	長宮遺跡第41地点(3)	109	写真29	苗間東久保遺跡第26地点(3)	125
写真14	長宮遺跡第41地点(4)	110	写真30	苗間東久保遺跡第26地点(4)	126
写真15	長宮遺跡第41地点(5)	111	写真31	苗間東久保遺跡第26地点(5)	127
写真16	長宮遺跡第41地点(6)	112			

第1章 ふじみ野市の遺跡

1 ふじみ野市の立地と環境

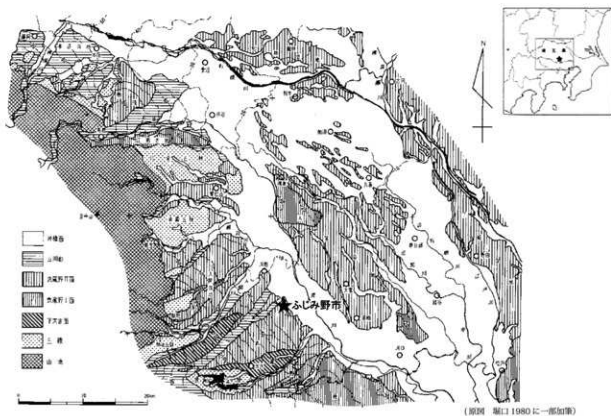
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地に接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していることがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地

（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに観察する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤岡江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が

丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に對峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

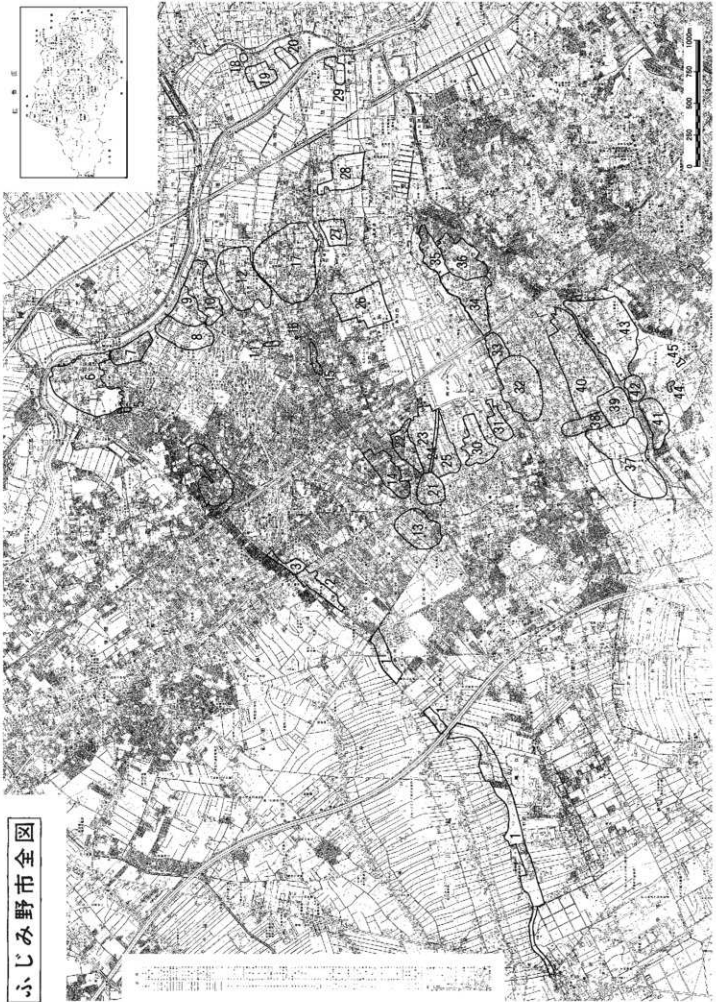
川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ岡遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代・古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ岡舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福道遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の堀跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗圃東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	浄輝寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の前庭跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の前庭跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027



ふじみ野市全図

第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落し穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐高遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前前方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現わ

れ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐高遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。

またハケ遺跡からは区帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、鐵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄輝寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ぼせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地藏院の江川南遺跡、旧富岡村の寺院跡である浄輝寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である造兵廠東京工廠福岡工場（通称火工廠）の跡地で、防壁土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水橋などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

第2章 滝遺跡第20地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出した武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中・近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡(1981年の変更増補で滝遺跡と合併)で古墳時代前期と後期の住居跡を

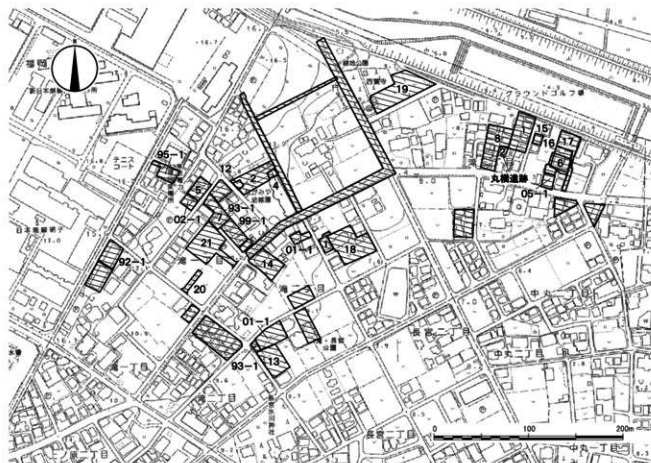
検出以来21ヶ所で調査が行われている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構(集石を伴う)である。

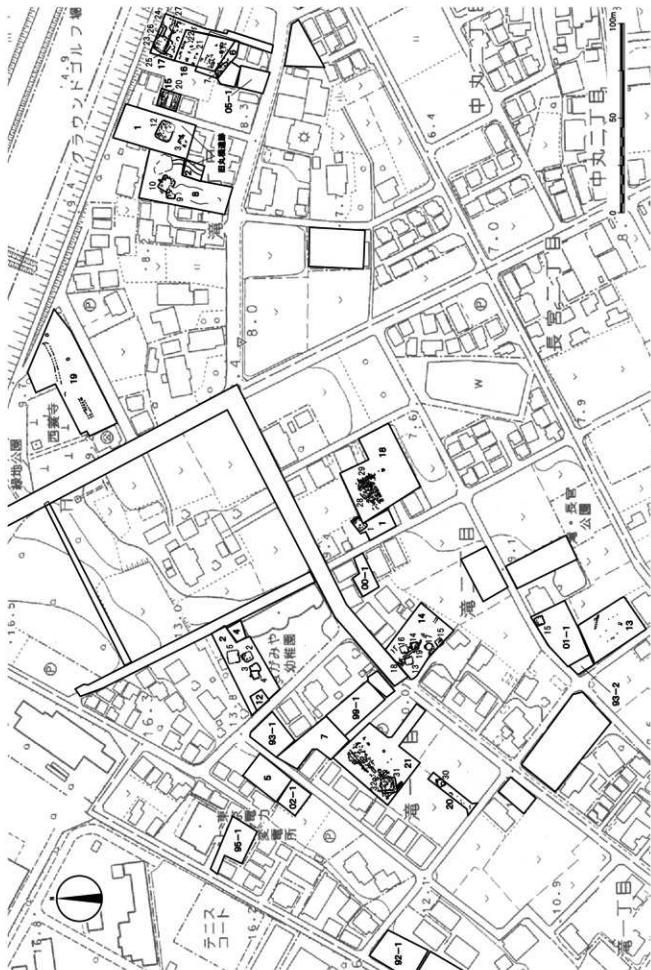
II 調査に至る経過と調査の概要

調査は道路築造に伴うもので、原因者より2012年4月10日付で「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構等の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年5月9日から11日まで行った。幅約3mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、平安時代の住



第3図 滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)



第4図 滝道跡遺構分布図 (1/2,000)

居跡、井戸、土坑、ピット等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

地表面から遺構確認面までの深さは約110cmであるが、雨水浸透井戸等の掘削で開発による遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2012年5月17日から5月24日まで行い、検出した奈良時代住居跡1軒、時期不明の井戸2基、土坑2基、ピット7基を調査した。

Ⅲ 遺構と遺物

① H30号住居跡

【位置】遺跡の南西部に位置し、住居跡全体の約3/4を検出した。北東角を土坑1に、南西部を井戸2によって壊されている。

【形状・規模】南東角部分は調査区域外に張り出す。

主軸方位はN-75°-E、東壁の南側に竈を備える。

平面形態は隅丸方形、規模は主軸の東西方向4.1m×南北3.9m、確認面からの深さ5cmである。

【竈】住居跡東壁の南側に構築される。南半分は調査区域外である。左側の袖は灰褐色粘土で構築され、壁から40cm突出し、幅45cm、高さ18cmを測る。煙道部分は壁から奥へ20cm粘土が伸びている。竈中央は深さ10cmほどの窪みがあり、奥が良く焼け焼土面がみられる。竈の左側手前には平面楕円形で93×64cm、深さ10cmの浅い窪みがあり、土製の支脚が出土している。

【貼床・周溝】厚さ1～4cmの貼床がみられる。周溝

は北東壁の一部と竈の前部分で途切れる。幅5～15cm下幅2～6cm深さ2.8～8.2cmである。

【遺物出土状況・出土遺物】竈内と竈周辺部の床面から出土する。

【時期】出土遺物から9世紀。

②井戸

井戸1は調査区中央北側に位置する。南側半分を検出したが試掘調査のため全容は不明である。検出部の平面形態は半円形で、規模は確認面径140cmで、深さは地表面から約1.6m、確認面からは50cmまで確認した。時期は不明。

井戸2はH30号住居跡の南東部に位置し、住居を壊して構築されている。道路築造に際し確認面より下は保護されるため、井戸の半分を掘り下げたに留めた。底面は確認していない。平面形は東側がやや突出した円形を呈し、中段の形は隅丸の方形を呈するようである。212×188cm、深さは地表面から約2.2m、確認面からは120cmまで確認した。

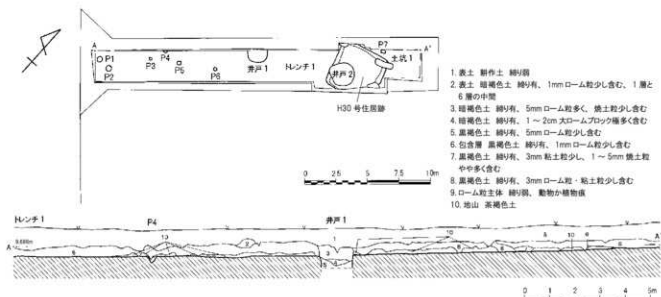
③土坑

土坑1は調査区の西端、H30号住居跡を壊して構築される。145×46cmの長方形、深さは確認面から5～10cmと浅い。

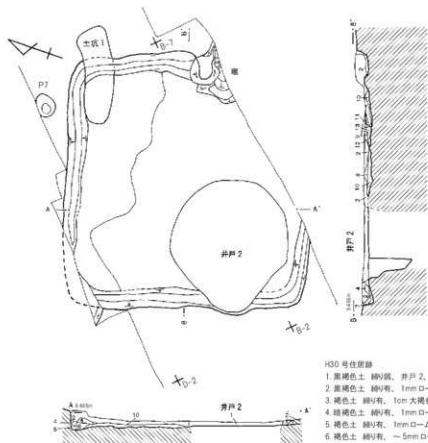
土坑2は調査区の北西側、H30号住居跡を壊して構築される。大部分は調査区外で形態不明。深さは32cmある。

④ピット

7基検出した。計測値等の詳細は第4表参照。



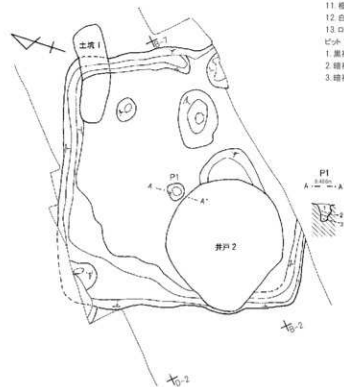
第5図 滝遺跡第20地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



H30号住居跡

- 1 黒褐色土 締り肌、井戸 2、1mmローム粒極少し含む
- 2 黒褐色土 締り肌、1mmローム粒・粘土粒・炭・1～2mm焼土粒少し含む
- 3 褐色土 締り肌、1cm大褐色ロームブロック・1mmローム粒・粘土粒少し含む
- 4 暗褐色土 締り肌、1mmローム粒・粘土粒・炭少し、1mm焼土粒極少し含む
- 5 褐色土 締り肌、1mmローム粒やや多く含む
- 6 褐色土 締り肌、～5mmローム粒多く、～3mm粘土粒多く、1mm炭少し、1mm焼土粒極少し含む
- 7 黄褐色土 締り肌、～3cm大ロームブロック主体、暗褐色土混入
- 8 暗褐色土 締り肌、～3mmローム粒・5cm大粘土多く、1mm焼土粒少し含む
- 9 白色粘土 締り肌、焼けた粘土も混入
- 10 黄褐色土 非常に硬く締る、ロームブロックと黒褐色土の混合土、一部焼土粒多量に含む、粘床
- 11 褐色に焼けた粘土 非常に硬い
- 12 白色粘土と褐色粘土とロームの混合土 非常に締り硬い、～5mm炭多く含む
- 13 ローム粒主体 締り肌

掘方



第 4 表 滝遺跡第 20 地点遺構一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	幅員 (cm)	長さ (cm)	深さ (cm)	備考
井戸 1	円形	140 × 70	124 × 63	37	
井戸 2	円形	210 × 187	120 × 182	112	土層 80③
土坑 1	長方形	150 × 43	143 × 35	17	土層
P1	方形	35 × 33	17 × 17	47	
P2	円形	54 × 50	18 × 18	78	土層
P3	円形	28 × 27	17 × 10	41	
P4	方形	30 × 20	15 × 11	35	
P5	方形	25 × 22	13 × 10	18	
P6	方形	41 × 31	4 × 2	35	
P7	円形	38 × 29	18 × 13	17	
埋戻内 P1	方形	27 × 27	14 × 12	34	土層

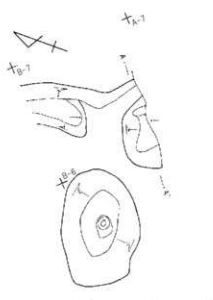
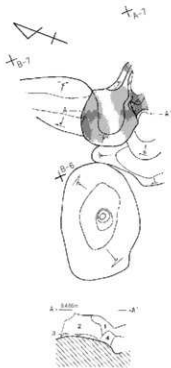
第 6 図 滝遺跡第 20 地点 H30 号住居跡・掘方・土層図 (1/60)

遺物出土状況図



遺

掘方

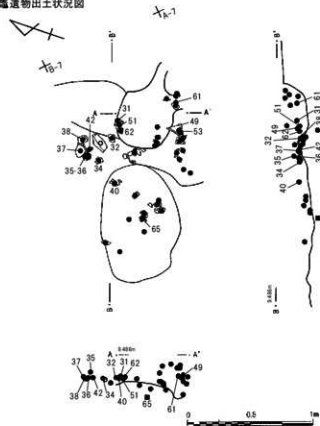


- 1 粘土 緑C緑、灰白色粘土に褐色に焼けた粘土粒が多量に入る
- 2 粘土 緑C緑、灰白色粘土
- 3 褐色土 緑C、地山ロームに粘土粒が多量に混入
- 4 灰褐色土 緑C弱、褐色土が混入、粘土と焼土の混和土

- 1 黄土 暗褐色土 緑C弱
- 2 耕作土 黒褐色土 緑C弱、1mmローム粒少し含む
- 3 黒褐色土 緑C弱、～3mm粘土粒、1mm焼土粒少し含む
- 4 暗褐色土 緑C弱、～3mm粘土粒多く、1mm炭・焼土粒少し含む
- 5 暗褐色土 緑C弱、～5mm粘土粒多く、1mm炭少し、～3mm焼土粒中や多く含む
- 6 暗褐色土 緑C弱、～3mm粘土粒多く、～3mm炭少し、～1cm焼土粒多く含む
- 7 暗褐色土 緑C弱、硬い、～3mm粘土粒多く、～1cm焼土粒多く含む
- 8 焼粘土ブロック 甕のアラジ
- 9 暗褐色土 緑C弱、～3mm粘土粒多く、～3mm焼土粒多く含む
- 10 暗褐色土 緑C弱、～3mm粘土粒少し、～3mm焼土粒多く含む
- 11 黒褐色土 緑C弱、～3mm粘土粒、～1mm焼土粒少し含む

第7図 滝道跡第20地点H30号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)

遺物出土状況図



井戸 1

1. 黄土 耕作土 締り固
2. 暗褐色土 締り有。5mm ローム粒多く、焼土粒少し含む
3. 暗褐色土 締り有。1 ~ 2cm 大ロームブロック様多く含む
4. 黄褐色土 締り有。5mm ローム粒少し含む
5. 包倉層 黒褐色土 締り有。1mm ローム粒少し含む
6. 地山 黒褐色土

井戸 2

1. 黒褐色土 締り固。1 ~ 2mm ローム粒・1mm 炭・1mm 焼土粒少し含む
2. 黒褐色土 締り有。1cm ロームブロック少し。~ 5mm ローム粒様多く含む
3. 黒褐色土 締り有。粘性やや有。~ 3mm ローム粒 ~ 3mm 少し含む
4. 黒褐色土 締り有。中~ 硬い ~ 3cm 大ロームブロックが少量混入。~ 3mm ローム粒多く含む

土坑 1

1. 暗褐色土 締り有。1mm 粘土粒・炭・焼土粒少し含む
2. 黒褐色土 締り有。~ 5mm ローム粒多く、~ 5mm 粘土粒・1mm 炭・焼土粒少し。葉片様少し含む
3. 黒褐色土 締り有。2層と同じでロームが極少
4. 褐色土 締り有。地山
5. 黒褐色土 締り有。1mm ローム粒・粘土粒・炭・1 ~ 2mm 焼土粒少し含む
6. 褐色土 締り有。1cm 大褐色ロームブロック・1mm ローム粒・粘土粒少し含む
7. 黄褐色土 締り有。~ 3cm 大ロームブロック主体。暗褐色土混入

ピット 1

1. 暗褐色土 締り有。1mm ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り有。硬い。1 ~ 2mm ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り有。2 ~ 10mm ロームブロック・粒様多く含む

ピット 2

1. 暗褐色土 締り有。1 ~ 3mm ローム粒多く含む
2. 暗褐色土 締り有。ローム粒様多く含む
3. 黄褐色土 締り有。硬い。ローム主体。黒褐色土混入
4. 黒褐色土 締り有。1 ~ 3mm ローム粒多く含む

ピット 3

1. 黒褐色土 締り固。1 ~ 5mm ローム粒 1 ~ 5mm 少し含む

ピット 5

1. 黒褐色土 締り有。1 ~ 3mm ローム粒少し含む
2. 黄褐色土 締り有。硬い。黒色土混入

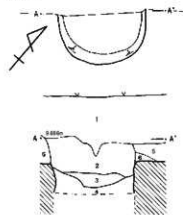
ピット 6

1. 黄褐色土と黒色土混入 締り固
2. 黒褐色土 締り有。1 ~ 3mm ローム粒少し含む
3. 黄褐色土 締り有。硬いロームとの混入土

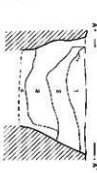
ピット 7

1. 黒褐色土 締りやや有。1mm ローム粒様少し含む
2. 褐色土 締り有。1cm 大ロームブロック混入

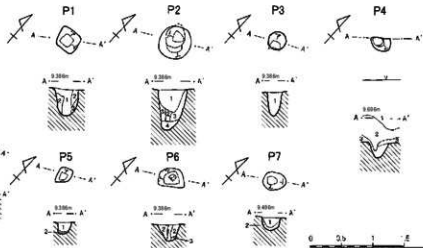
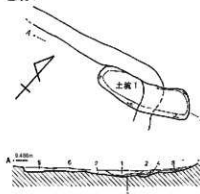
井戸 1



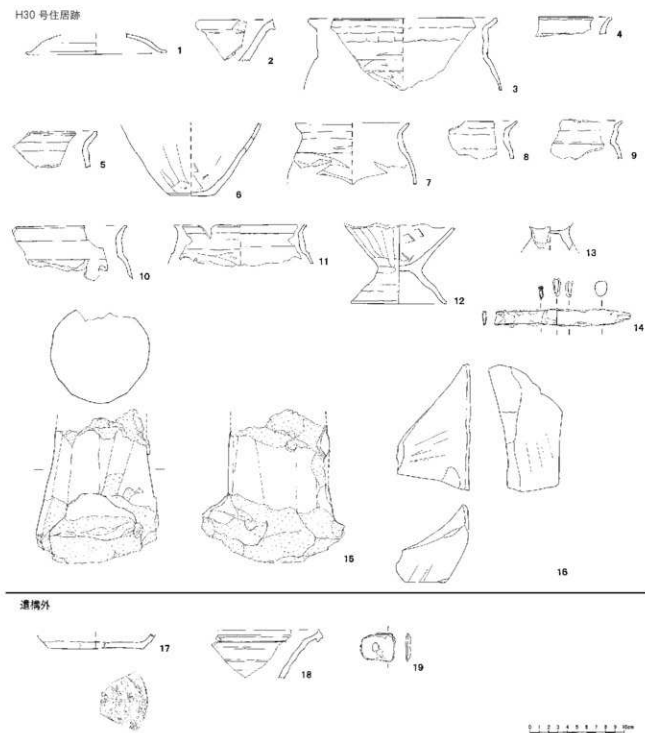
井戸 2



土坑 1



第 8 図 滝遺跡第 20 地点 H30 号住居跡窟遺物出土状況図 (1/30)、井戸・土坑・ピット (1/60)



第9図 滝遺跡第20地点H30号住居跡出土遺物(1/4)

⑤ H 30 号住居出土遺物

1 は、須恵器皿形土器。2 は、須恵器壺の口縁部破片。1/10 現存、推定口径 20 cm。内面に自然軸がかかる。1 mm ほどの小砂利を多量に含み、白色針状物質を多量に含む。3 は、コの字状甕の口縁部、現存 1/4 口径 20 cm。内面に輪積み痕。口唇部先端に一条の沈線を加える。4・5 も同類の口縁部破片で、1/10 以下の破片。4 は口唇部先端は丸く処理され、5 は一条の沈線が加えられている。6 は上記の底部。7 は、1/4 現存の小形台付き甕、口径 12 cm。8～11 も小形台付き甕、8 は口唇部内面に強い押圧痕がある。9 は口縁部外面に強い押圧痕があり、口唇部は短い。10 は、現存 1/10、口径推定 15 cm 弱。口唇部外湾は少ない。11 は、現存 1/7、口径推定 14 cm。カマド出土。12 は、小形台付き甕、現存 1/3、底径 10.2 cm。13 は、小形台付き甕の台部破片。

14 は鉄製の刀子。切先が欠ける。柄部には木質部が残存する。長さ 14.3 cm、刃巾 1.39～1.64 cm、厚さ 0.5 cm、ナカゴ長さ 7.7 cm。15 は、支脚の破片、上半が欠損。円形になるように巾 3～4 cm で上方から下方に面取りをし、下端に粘土を残し、カマド燃焼部に埋置したものの。

16 は砥石。鉄器の研磨用と思われ、図示した上面・両側面の 3 面は同じような湾曲をしている。

⑥ 遺構外出土遺物

17 は須恵器杯の底部破片。1/3 現存、底径推定 10 cm。底部全面回転ヘラ切り。底部側面も回転ヘラ削り。18 は須恵器壺の口縁部破片。1/10 現存、推定口径 20 cm。白色針状物質を多量に含む。後円部コの字状甕の口縁部。19 は鉄製鍛造品。右側は破断しているが、左側は縁が弧を描く。幅 2.9 cm、厚さ 0.35 cm。

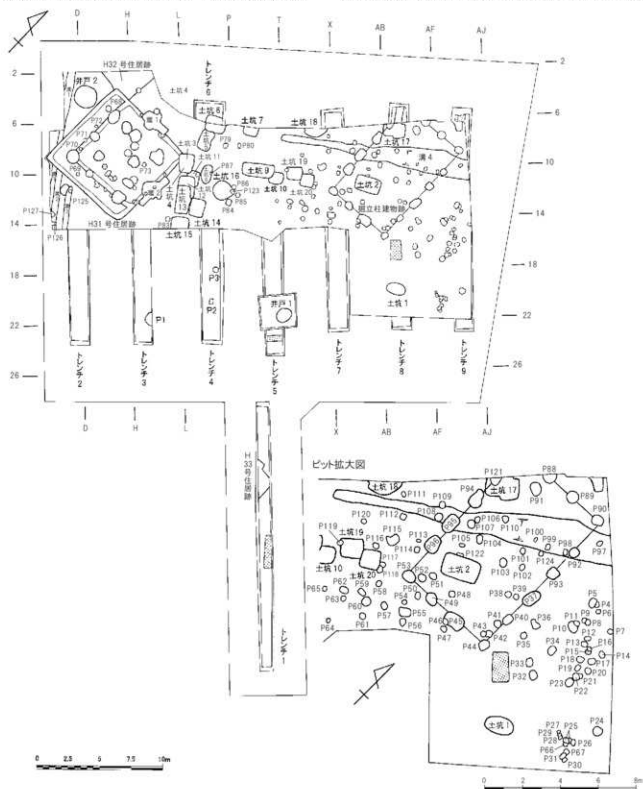
第3章 滝遺跡第21地点の本調査

I 本調査に至る経過と調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2012年4月11日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）がふじ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲

内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構等の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年5月11日から21日まで行った。幅約1～1.5m幅のトレンチ9本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、奈良・



第10図 滝遺跡第21地点遺構配置図 (1/300)、ピット拡大図 (1/200)

平安時代の住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、井戸2基、土坑20基、溝4条、ピット105基を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

地表面から遺構確認面までの深さは約70～80cmであるが、基礎の深さが1m以上におよび、開発による遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。なお、道路や駐車場については30cm以上の保護層が確保できるため、遺構保存の措置を取った。

本調査は2012年7月17日から8月25日まで行い、奈良・平安時代の住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、井戸2基、土坑20基、溝4条、ピットを調査した。なお、検出した住居跡3軒のうち2軒は保存の措置をとった。

Ⅲ 遺構と遺物

① H 31 号住居跡

【位置】遺跡の西部に位置し、住居跡全体を検出した。北西角でH32号住居と重複し、壊れている。また、北東角を土坑3に、南西部を溝1・2によって壊されている。住居は途中で南西部を一部埋め戻し、規模を縮小している。初期の住居跡をH 31 A号住居跡、縮小後住居跡をH 31 B号住居跡として報告する。

H 31 A号住居跡

【形状・規模】主軸方位はN-92°-E、北壁と東壁の中央に竈を2基備える。東壁の竈は途中で廃棄され（おそらく住居縮小の時点）竈の袖を壊して周溝が構築されている。

平面形態は方形、規模は主軸の東西方向7.8m×南北7.7m、確認面からの深さ50cmである。

【柱穴】P1、P6、P7、P8の4本を主柱穴とし、主柱穴間にもほぼ中間にP19、P11、P20、P21の柱が配置される。主柱穴間の距離は柱の中心でP1-P6が4.5m、P6-P7が4.7m、P7-P8とP8-P1は4.6mを測る。P19はP1から2.7m、P6から1.8mに位置し、P11はP6から2.9m、P7から1.8mに、P20はP7とP8の中間、P21もP8とP1の中間に位置している。

【貼床・周溝】壁際から1.6～1.8mほどまで深さ20～30cmの掘り方があり、厚さ5～10cmの貼床がみられる。なお、住居跡の北西部分は工事による影響がなく保存できるため、床面下の調査はしていない。周溝は竈2を埋めて構築されており、北側にある竈1

の前部分で途切れるほかは、全周する。幅25～42cm、下幅5～30cm、深さ18～20cmである。

【竈2】当該住居の竈は竈1・竈2いずれも可能性はあるが、竈2は前述のとおり裾部分が削られ周溝も廻っていることから、H 31 B号住居跡の時には使用されておらず、当該住居の竈と思われる。

竈の袖はないが、壁からの奥行きは95cm、幅130cm、内幅45cm、粘土は10～25cmの厚さがあり、表面は焼けて赤化している。堀方は奥行き85cm、幅82cm、確認面からの深さ69cmを測る。

竈の両側には長方形の浅い棚状遺構が備わり、白色粘土が充填している。右（南）側は横117cm、奥行き45cm、深さ10cm。左（北）側は横100cm、奥行き47cm、深さ15cmであるが、底面レベルは左右同じである。竈手前部分の焚口は、壁から手前に80cm、幅140cm、深面からの深さ19cmを測る。灰白色粘土で埋まった後、周溝が作られている。周溝内には棚状遺構の両端と竈の両端に径20～30cm、床面からの深さ57～62cmのピットが並んでいる。

H 31 B号住居跡

【形状・規模】主軸方位はN-2°-E、北壁の中央に竈を備える。H 31 A号住居跡の西と南を埋めて周溝を掘り直し縮小している。

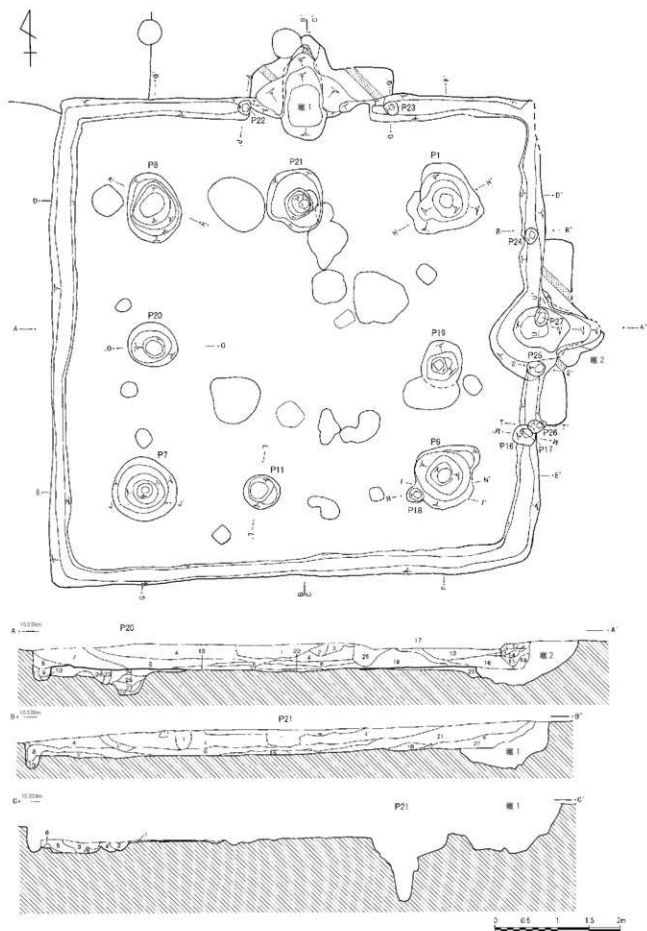
平面形態は方形、規模は主軸の南北方向6.4m×東西6.4m、確認面からの深さ50cmである。

【柱穴】H 31 A号住居跡のP1はそのまま使用し、新たにP2、P3、P4の4本を主柱穴としている。主柱穴間の距離は柱の中心でP1-P2が3.1m、P2-P3が3.3m、P3-P4が3.2m、P4-P1は3.3mを測る。

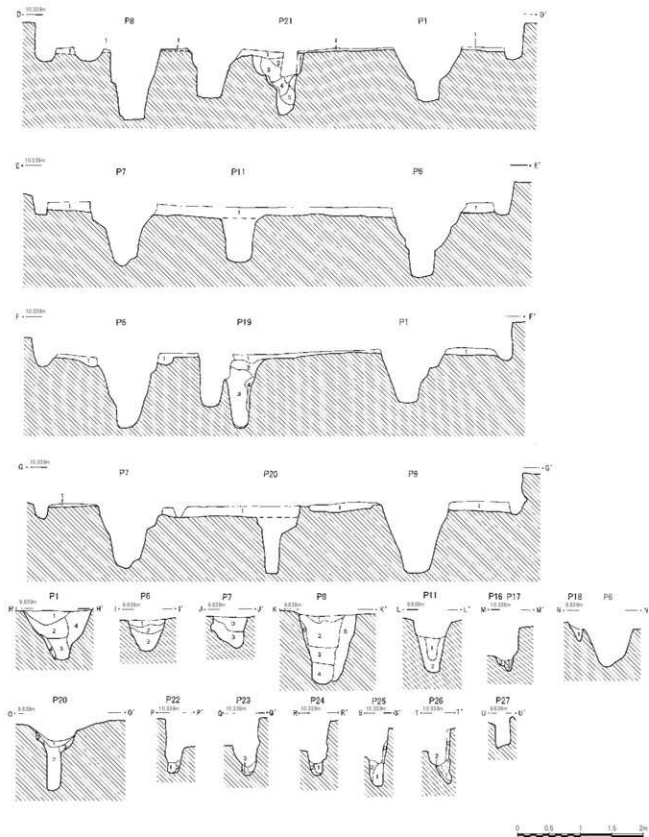
【貼床・周溝】厚さ5～10cmの貼床がみられる。周溝は西壁と南壁の1.3m内側に掘り直されており、竈Bも埋めて構築されている。竈Aの前部分で途切れるほかは全周する。幅30～45cm、下幅15～25cm、深さ15～18cmである。

【竈1】当該住居の竈は竈1と思われる。保存のため、竈の半載調査はしていない。

竈は袖が残る。袖端からの奥行きは135cm、壁からの奥行きは115cm、幅170cm、内幅60cm、粘土は20cm以上の厚さがあり、表面は焼けて赤化している。焚口は奥行き90cm、幅73cm、確認面からの深さ75cm、床面からの深さ27cmを測る。竈の右（東）



第11図 滝遺跡第21地点H31A号住居跡(古住居)①(1/60)



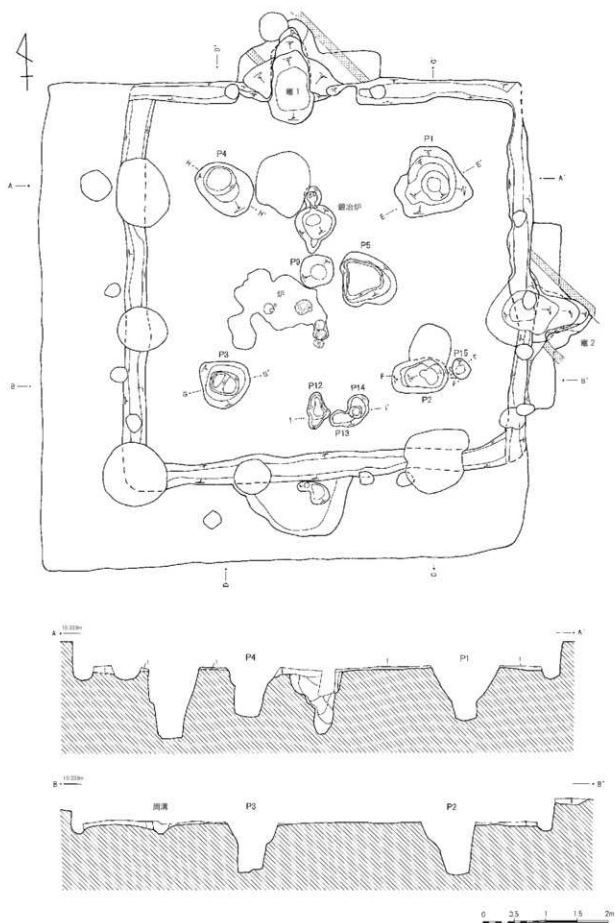
D-D'・E-E'・G-G'

- 1 粘土 非常に硬く締る、黒褐色土主体、1～3cm大ロームブロック極多く含む
- 2 黒褐色土 締り弱、1～3cm大ロームブロック極多く含む
- 3 締り弱、1～5cm大ロームブロック主体、褐色土混入
- 4 褐色土 締り弱、ローム粒主体
- 5 黄褐色土 締りやや弱、ローム主体、1cm大ロームブロック混入

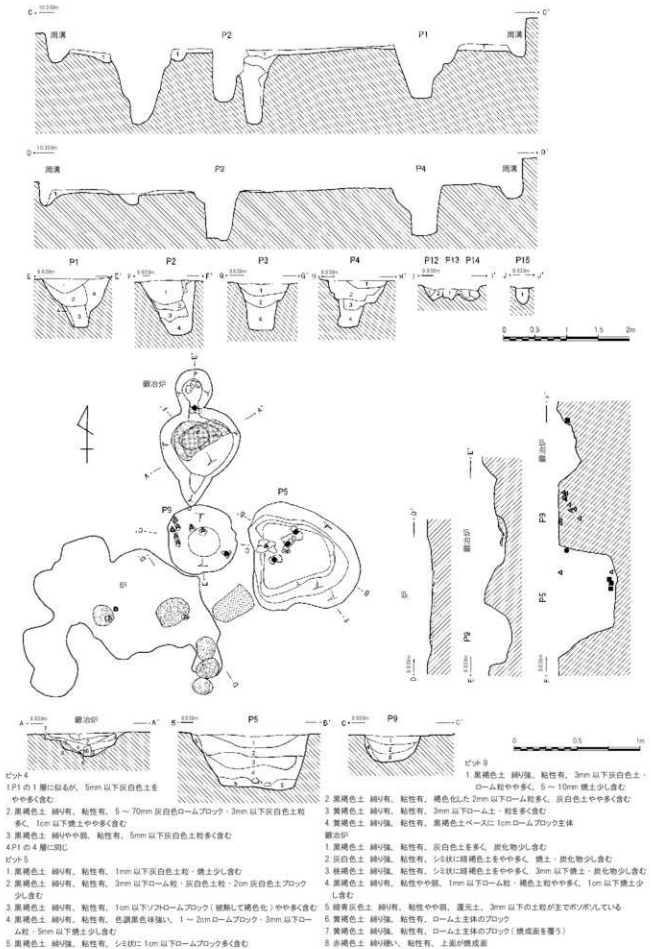
F-F'

- 1 粘土 黒褐色土 3mm以下黒色土・5mm以下灰白色土・機土やや多い
- 2 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、暗褐色土ベースに2cm以下ロームブロック主体
- 3 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、黒褐色土ベースに1cm以下ロームブロック・粒主体
- 4 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土ベースに2cm以下ロームブロック主体

第12図 滝道跡第21地点 H31A号住居跡土層図(古住居)②(1/60)



第13図 滝道跡第21地点 H31B号住居跡(新住居)③ (1/60)



第 14 図 滝遺跡跡第 21 地点 H31B 号住居跡 (新住居) ④ (1/60)、炉・鍛冶炉・ピット (1/30)

側には長方形の浅い棚状遺構が備わり、白色粘土が充填している。横100cm、奥行き55cm。竈左(西)側も55cmと幅広く粘土がある。周溝端部は棚状遺構の端と竈の端にそれぞれ径25cm、床面からの深さ41～45cmのビットがある。

【鍛冶関連遺構】当該住居には鍛冶炉が伴う。H31A号住居跡のP10を埋めた床面に鍛冶炉が造られている。鍛冶関連の遺構はa鍛冶炉b作業坑c小穴d作業場で構成され、小穴を中心に鍛冶炉と作業坑がL字形に配置し、作業場が小穴の南西に広がる。また小穴はH31B号住居跡のほぼ中心に位置する。

a鍛冶炉 炉は平面円形の東西両側に溝状の浅いビットが付随する。東側の溝から羽口が出土しており、送風口と思われる。西側には鉄滓が出土する浅いP9が隣接しており、西側の溝は掻き出し口と思われる。炉の底には厚さ4cmの還元土が堆積し、底面は硬く焼

け赤化する。炉内の土は炭化材や焼土を含む土の上に灰白色粘土が堆積するが、埋土と思われる。規模は溝を含めた南北長は110cm、炉部分の上端南北55cm×東西65cm、下幅48×45cm、還元面までの深さ18cm、掘り方の深さ21cm、焼土面45×30cm、還元面31×20cm。東側溝は上端32×29cm、下端25×15cm、深さ11cm。西側溝は上端25×24cm、下端15×12cm、深さ6cm。鉄滓が出土する。

b作業坑 鍛冶炉の南東45cmに作業坑(P5)がある。炉とビットの中心間距離は120cmである。平面形態は西側が幅広い台形を呈し、北西隅の方向に鍛冶炉、南西隅の方向に焼土面のある作業場が広がる。上端南北85×東西90cm、下端南北50×東西52cm、深さ46cm。壁はほぼ垂直で、底面も平坦である。羽口が出土した。

c小穴 P9は鍛冶炉の南に接し、炉とビットの中心

H31号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロックや多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層に同じ、1～3層は塊状
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・灰白色土粒や多く、5～15mmロームブロック・焼土ブロック含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm以下灰白色土粒多く含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、4層以下黒色塊状、3mm以下ローム粒・焼土粒少し含む
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、4層以下黒色塊状、3mm以下ローム粒・灰白色土粒、5～10mmロームブロック・灰白色土ブロック含む
 8. 黒褐色土 締り強、粘性有、5層以下2mm以下ローム粒多量含む、色調暗め
 9. 黒褐色土 締り強、粘性有、7層以下黒色塊状、2mm以下ローム粒少し含む
 10. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒少し含む
 11. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒や多く含む
 12. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・灰白色土粒・2～5mm焼土や多く含む、4層に似る
 13. 黒褐色土 締り強、粘性有、12層以下黒色味が弱く、3mm以下ローム粒・焼土や多く含む
 14. 黒褐色土 締り強、粘性有、シロに赤褐色土多量含む
 15. 黒褐色土 締り強、粘性有、13層に似る、3mm以下灰白色土粒多く含む
 16. 黒褐色土 締り強、粘性有、6層に似る、3～5mm焼土多く含む
 17. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、5～10mmロームブロックや多く含む
 18. 黒褐色土 締り強、粘性有、暗黄褐色ベースに5mm以下ロームブロック主体
 19. 黄灰色土 締り強、粘性有、灰白色粘土と黒褐色土が混ざり、20mmロームブロック・10mm焼土少し含む
 20. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・焼土、5mm以下シロ状の灰白色土や多く含む、鉄滓を伴う
 21. 灰褐色土 締り強、粘性有、黄色味ある3mm以下灰白色土粒多く、5～40mm灰白色土ブロック・3～30mm焼土や多く、3～80mmロームブロック少し含む
 22. 灰褐色土 締り強、粘性有、3mm以下灰白色土粒・焼土や多く含む
 23. 灰赤 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、3mm以下ローム粒や多く、10mmロームブロック少し含む
 24. 灰赤 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに20mm以下ロームブロック主体
 25. 灰赤 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下黒色土・ローム粒・焼土・10mm以下灰白色土や多く含む5mm厚層が、転圧を受けたが分層数枚重なる
 26. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに1.5cm以下ロームブロック・粒主体
 27. 黄褐色土 締り強、粘性有、5～20mmロームブロック・3mm以下ローム粒多く含む
 28. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土ベースに20mm以下ロームブロック主体
 29. 黄褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック・灰白色ブロック含む
- H31号住居跡内ビット
ピット1～3
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・灰白色土粒・3mm以下焼土や多く、5mm以下灰化物少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック・3mm以下ローム粒や多く、

3. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、10mm以下ソラ質ロームブロック多く含む
 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ロームを含む黄灰色土ベースに、5mm以下ローム粒主体、30mm以下ロームブロック多く含む
- ピット6～7
0. 黒褐色土 締り強、粘性有、0.5mm以下ローム粒少し含む
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む
 2. 黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土ベース、5～10mmロームブロック多く含む
 3. 黄灰色土 締り強、粘性有、20mm以下ロームブロックや多く含む
- ピット8
1. 灰白色粘土とローム・褐色土の混合土 締り強、粘性有、1.5～50mmロームブロック、灰白色土ブロック含む
 2. 黒色土1～30cm大ロームブロック・5mmローム粒の混合土 締りやや弱
 3. 締り弱、5～10mmローム粒主体土に黒色土混入、2～30cm大焼土ブロック含む
 4. 5～10mmローム粒主体土に褐色土混入、10mm大ロームブロック少し含む
 5. 暗褐色土 締りやや弱、～3mmローム粒多く含む
 6. 締りやや弱、5～10mm黄褐色土ローム主体
- ピット11
1. 黒褐色土 締り弱、1～30mmロームブロック・5mmローム粒多く含む
 2. 褐色土 締り強、ローム粒主体で10cm大ロームブロック多く含む
- ピット12～14
1. 暗褐色土 締り有、10mmローム粒多く含む
 2. 褐色土 締り強、ローム粒と暗褐色土の混合土、入口(内側)のビットが
- ピット15
1. 褐色土 締り強、～5mmローム粒多く含む、焼土粒・焼土粒多く含む
- ピット16・17
1. 白色粘土ブロック
 2. 黒褐色土 締り有、～3mmローム粒多く、～3mm焼土粒・焼土粒少し含む
 3. 黒褐色土 締り有、～3mmローム粒多く、～3mm焼土粒少し含む
- ピット18
1. 黒褐色土 締り有、10mmローム粒少し含む
- ピット20
1. 黒褐色土 締り強、10cm大ロームブロック多く含む
 2. 褐色土 締り強、ローム粒主体、黒色土・10cm大ロームブロックとの混合土
 3. 黄褐色土 締りやや弱、ローム主体
- ピット22～26
0. 黒褐色土 締り有、粘性有、10cm以下灰白色土や多く、シロ状に5～20mmロームブロック少し含む、P25では5mm以下焼土・黒色土粒少し含む
 1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、3mm以下灰白色土粒や多く、20mm以下焼土ブロック・3mm以下同程度少し含む
 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒や多く、P25では5mm以下焼土・3mm以下灰化物少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロックや多く
- ピット27・28
- 暗黄褐色土 締りやや弱、粘性有、3mm焼土少し含む

間距離は75 cmである。10 cm東に作業坑が有り、中心間距離は80 cmである。住居跡の中心に位置する。平面形態は円形で上端南北50×東西55 cm、下端南北25×東西25 cm、深さ25 cm。

d 作業場 鍛冶炉の南西160～200 cm、作業坑の西100～160 cmの距離の床面に焼土面が点在する。径15～25 cmの楕円形を呈し、周囲160 cmほどの範囲に鍛造薄片や焼土粒を含む土が硬く堆積する。



第16図 滝遺跡第21地点 H31号住居跡遺物出土状況図(1/60)

② H 32 号住居跡

調査区の西端 F-1 ~ J-1 グリッドに位置する。H 31 A 号住居跡の北西部分と壁が一部接しており、当住居跡の方が新しい。また、当住居南東角と H 31 B 号住居跡の北西角が接し、直交する。保存のため未調査であるが、確認のための試掘では床面まで確認面から 25 cm の深さがある。

③ 掘建柱建物跡

調査区西側に位置する。主軸方位は N-0°-E、5間×3間で桁行 9 m × 梁行 5.5 m の規模がある。桁行・梁行ともに柱の中心間は 1.75 ~ 2.0 m である。

④ 井戸

2 基検出した。井戸 1 は調査区中央に位置する。井

戸底はローム層であるが、底から 70 cm 上まで酸化面が確認できる。深さは確認面から 295 cm あり、中世陶磁器を検出した。

井戸 2 は調査区西端、H 31 A 号住居跡の 15 cm 西、H 31 B 号住居跡の 130 cm 西、H 32 号住居跡の 130 cm 南に位置する。H 31 B 号住居跡と H 32 号住居跡からは等距離である。保存のため南半分の途中までの調査である。堆積土層や出土遺物から時期は古代。

⑤ 溝

4 条検出した。溝 1 ~ 3 は調査区の北西隅、南北方向に並行して位置し、H 31 号住居跡より新しい。溝 1 は 11 m 検出し、上幅 35 ~ 65 cm、下幅 15 ~ 48 cm、確認面からの深さ 5 ~ 15 cm。溝 2 は 4.5 m 検出

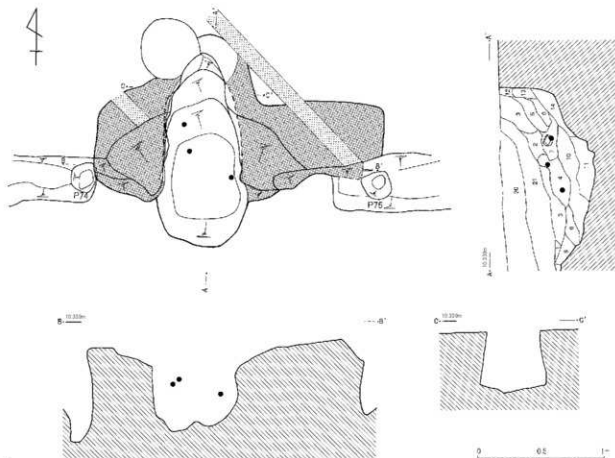


図 1

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、シミ状に 3mm 以下灰白色土粒やや多く、3mm 以下塵土少し含む
2. 黄色味有る灰白色土 粘り強、粘性有、シミ状に黒褐色土をやや多く含む
3. 黄色味有る灰白色土 粘り有、粘性有、シミ状に黒褐色土を少し含む
4. 赤褐色土 粘り強、粘性有、灰白色土・黒褐色土・黒褐色土が混ざる
5. 赤褐色土 粘り強、粘性有、3層土にシミ状の赤褐色土が多く混ざる
6. 赤褐色土 粘り強、粘性有、4層土に似る
7. 灰褐色土 粘りやや弱、粘性やや弱、シミ状に赤褐色土を含む
8. 黄色味有る灰白色土 粘り強、粘性有、黒褐色土をシミ状に、3 ~ 10mm 塵土やや多く含む

9. 黄灰色土 粘り強、粘性有、5 ~ 10mm 塵土・シミ状に 5 ~ 10mm 灰白色土やや多く含む
10. 黄灰色土 粘り強、粘性有、灰白色土・黄灰色土・3 ~ 10mm 塵土が混ざり、斑状を呈する
11. 黄灰色土 粘り有、粘性有、10層土に似るが粘り弱めで、黒褐色のローム土を少し含む
12. 黄灰色土 粘り有、粘性有、13層土にシミ状の赤褐色土が混ざる
13. 黄灰色土 粘り有、粘性有、灰白色土に黒褐色土が混ざる、やや赤褐色味が有る
14. 黒褐色土 粘り強、粘性有、シルト質、シミ状の 3mm 以下塵土やや多く含む
20. 黒褐色土 粘り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・塵土、5mm 以下シミ状の灰白色土やや多く含む、鉄滓を伴う
21. 灰褐色土 粘り強、粘性有、黄色味有る灰白色土（腐葉土と類似）3mm 以下粒多く、同 5 ~ 40mm 灰白色土ブロック・3 ~ 30mm 塵土やや多く、3 ~ 8cm ロームブロック少し含む

第 17 図 滝道跡第 21 地点 H31 号住居跡跡 1(1/30)

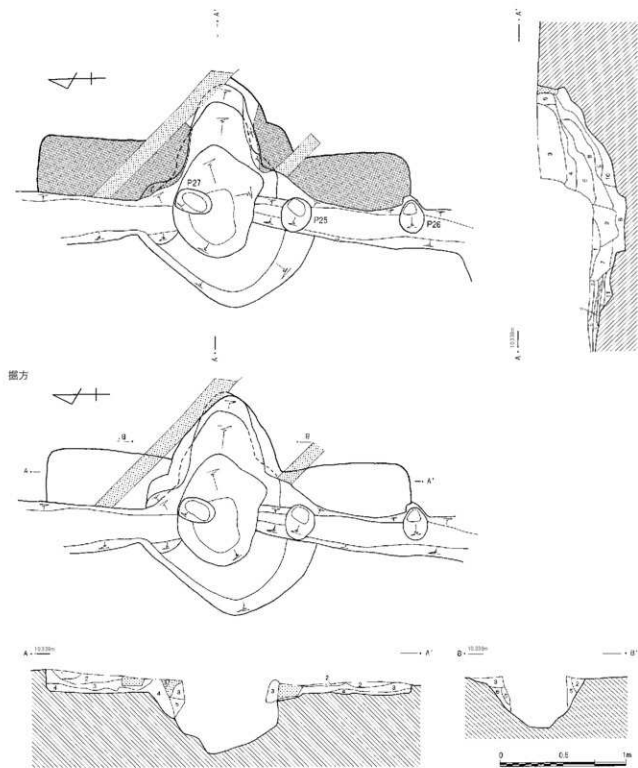


圖2 A-A'

- 1 黄灰色土 締り強。粘性有。15mm 黒褐色土炭灰に多く、5mm 以下ローム粒・2mm 以下灰白色土粒・3mm 以下焼土粒や中多く含む
- 2 黄灰色土 締り強。粘性有。ローム粒・焼土粒・灰白色土粒多く、各 1cm 以下ブロックやや多く含む
- 3 黄色味有る灰白色土 締り強。粘性有。シルトに黒褐色土・焼土少し含む
- 4 黄色味有る灰白色土 締り強。粘性有。焼土をシルトに含む。赤褐色色味有る。1cm 以下焼土ブロック・粒やや多く含む
- 5 赤褐色土 締り強。粘性有中弱。黄灰色土ペーシにスサ入りの焼土ブロック主体
- 6 黄褐色土 締り強。粘性有。黄灰色土と焼土が混ざる。1cm 以下焼土ブロック少し含む
- 7 黄灰色土 締り強。粘性有。3mm 以下灰白色土粒多く、5mm ~ 10mm ブロック・5mm 以下焼土やや多く含む
- 8 黄灰色土 締り強。粘性有。色調褐色味有る。5mm 以下焼土やや多く、1cm 以下灰白色土・3mm 以下黒色土粒少し含む
- 9 黄色味有る灰白色土 締り強。粘性有。気層に似る。焼土をシルトに含む。赤褐色味有る。1cm 以下焼土ブロック・粒やや多く含む
- 10 黒褐色土 締り強。粘性有。3mm 以下ローム粒やや多く、5mm 以下焼土少し含む
- 11 黄灰色土 締り強。粘性有。色調褐色味有る。3mm 以下焼土やや多く含む

粘床

- a 5mm 内外厚の黒褐色土と灰白色土が互層を成す
- b 黒褐色土 3mm 以下ローム粒・灰白色土粒少し含む
- c 黄褐色土 5mm 以下ローム粒・焼土多く含む
- d 黒褐色土 5mm 以下焼土やや多く含む
- e 黒褐色土 2mm 以下ローム粒多く、2mm 以下焼土少し含む

断面 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 締り有。～5mm 粘土粒。焼土粒含む
- 2 白色粘土主体 締り有。黒褐色土混入。～3mm 焼土粒多く含む
- 3 白色粘土 締り有。やんぱく質
- 4 黄褐色シルト土 サクサクする。締り有。硬い
- 5 粘土層が砂化したもの。橙白色を呈する。締り有
- 6 白色粘土層に赤化粘土が混入する

第18図 滝道跡第21地点 H31 号住居跡竈 2 (1/30)

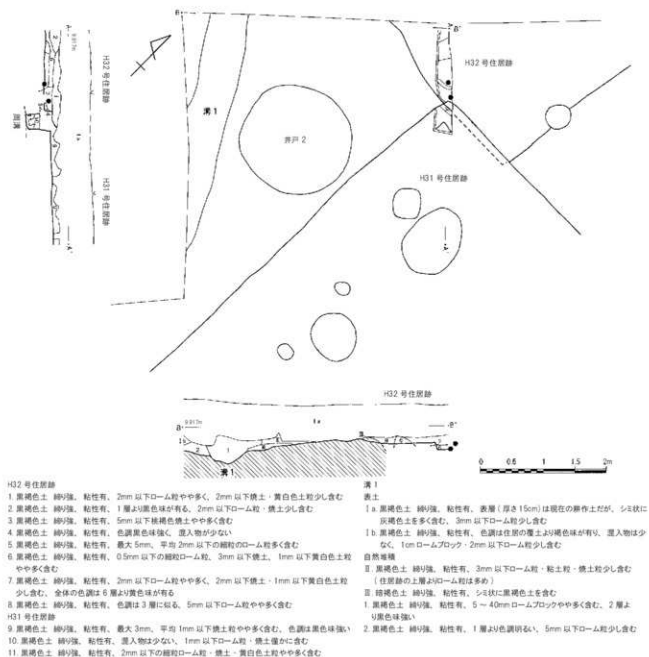
し、上幅 50 cm 前後、下幅 8～20 cm、確認面からの深さ 12～18 cm。溝 3 は 3.3 m 検出し、上幅 35 cm 前後、下幅 20～25 cm、確認面からの深さ 4 cm。

溝 4 は調査区の北東部、東西方向に位置する。15 m 検出し、西から東に向かって、幅広く深くなっている。上幅 50～195 cm、下幅 10～15 cm、確認面からの深さ 6～45 cm。断面は緩やかな「V」字形を呈する。

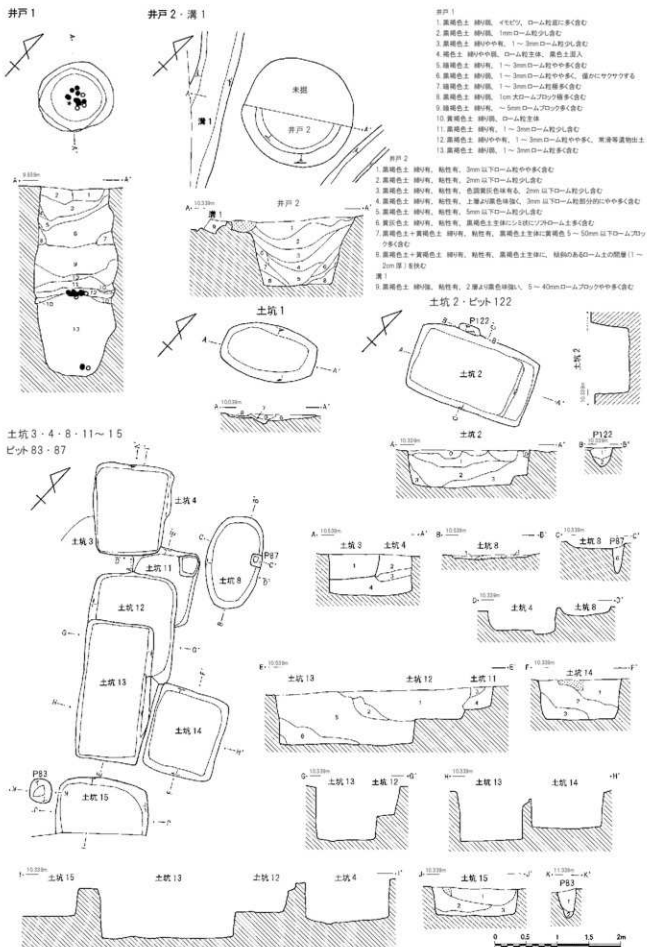
⑥土坑

20 基検出した。土坑 1 と土坑 8 は平面楕円形で浅く、堆積土層から時期は古代。土坑 16 は円形で出土遺物から近世。土坑 18 は溝状遺構の集合で不整形で時期不明。

残りの土坑は方形か長方形を呈し、重複しあう。土坑 4～6、11～15 は主軸方位が北北西、土坑 2、7～10、17、19、20 は東北東を示し、直交する。土層からは一方から一気に埋められた形跡が伺われる。出土遺物はないが、堆積土層から時期は古代ではなく中世以降。

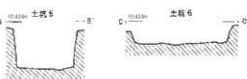


第 19 図 滝遺跡第 21 地点 H32 号住居跡遺物出土状況図・溝 1 (1/60)

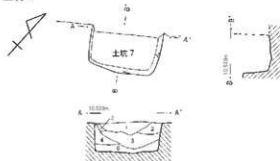


第20図 滝遺跡第21地点井戸・土坑・ピット (1/60)

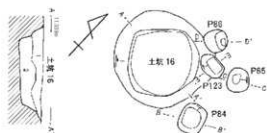
土坑5・6



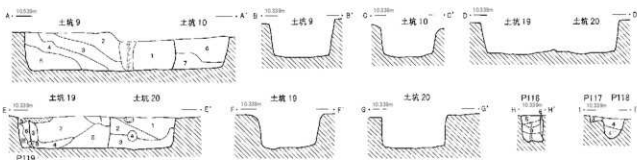
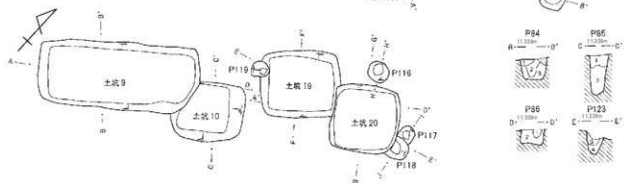
土坑7



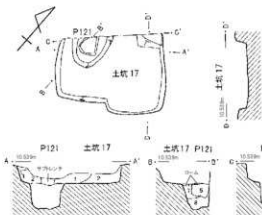
土坑16・ピット84～86・123



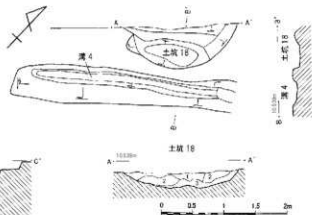
土坑9・10・19・20・ピット116～119



土坑17・ピット121



土坑18・溝4



第21図 滝道跡第21地点土坑・ピット (1/60)

土坑 2

1. 赤土 褐色土 3mm 以下ローム粒少し含む
1. 黒褐色土 砂質。粘性有。5～20mm ロームブロックや多く。3mm 以下ローム粒多く含む
1. 黒褐色土 砂質。粘性有。5～60mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒や多く含む。
上層よりローム粒少なめ
1. 黒褐色土 砂質。粘性有。5～15mm ロームブロック・5mm 以下ローム粒や多く含む。
上層よりローム粒少なめ

土坑 3・4

1. 黒褐色土 砂質有。～5mm ローム粒や多く含む
1. 黒褐色土 砂質有。礫。～3cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土 砂質有。～5mm ローム粒少し。～3mm 焼土粒種少し含む
1. 黒褐色土 砂質有。～3cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む

土坑 5・6

1. 黒褐色土主体 砂質やや有。～5mm ローム粒少し含む
1. 黒褐色土主体 砂質有。～5mm ローム粒多く含む
1. 黒褐色土主体 砂質有。1～2cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1～2cm 大ロームブロックや多く。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土主体 砂質やや有。～3cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む

土坑 7

1. 黒褐色土 砂質有。1cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土 砂質有。～5mm ローム粒少し含む
1. 黒褐色土 砂質有。1cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土 砂質有。～5mm ローム粒少し含む
1. 黒褐色土 砂質有。1～5cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む

土坑 8

1. 黒褐色土 砂質弱。～3mm ローム粒少し含む
- 土坑 9・10
1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1～5cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
 1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒多く含む
 1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1cm 大ロームブロック少し。～5mm ローム粒や多く含む
 1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1～2cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
 1. 黒褐色土主体 砂質やや有。1～5cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
 1. 黒褐色土主体 砂質有。1～3cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒種多く含む
 1. 黒褐色土主体 砂質有。1～5cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒多含む

土坑 12・13

1. 黒褐色土 砂質有。1～2cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
 1. 黒褐色土 砂質やや有。1cm 大ロームブロック少し。～5mm ローム粒多く含む
 1. 黒褐色土 砂質有。～3mm ローム粒。焼土粒少し含む
 1. 黒褐色土 砂質有。～5mm ローム粒少し含む
 1. 黒褐色土 砂質やや有。1～5cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
 1. 黒褐色土 砂質やや有。1～3cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
- 土坑 14
1. 黒褐色土 砂質やや有。1～3cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む
 1. 黒褐色土ローム粒の混合土 砂質やや有。1～5cm 大ロームブロック種多く含む
 1. 黒褐色土 砂質有。1～3cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒種多く含む

土坑 15

1. 黒褐色土 砂質弱。～5mm ローム粒多く含む
1. 黒褐色土 砂質やや有。1cm 大ロームブロック多。～5mm ローム粒種多く含む
1. 黒褐色土 砂質やや有。1cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒種多く含む

土坑 16

1. 黒褐色土 砂質有。～5mm ローム粒多。～5mm 粘土粒少し含む
1. 黒褐色土 砂質有。1～3cm 大ロームブロック。～5mm ローム粒。5cm 大暗褐色ブロック。
～5mm 焼土粒少し含む。近世陶磁器出土

土坑 17

1. 黒褐色土 砂質やや弱。粘性有。色調明るめ。5mm 以下ローム粒や多く含む
1. 黒褐色土 砂質強。粘性有。5～20mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒や多く含む

土坑 18

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。5mm 以下ローム粒少し含む
1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。7cm 大暗褐色ロームブロック(状)に多く含む
1. 暗褐色土 砂質有。粘性有。黒褐色土主体に7cm 大暗褐色ロームブロック多く含む

土坑 19

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。5～20mm ロームブロック。粒や多く含む
1. 暗褐色土 砂質有。粘性有。黒褐色土主体に5～30mm ロームブロックや多く。ローム粒多含む
1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。5～10mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒や多く含む
1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1～6cm ロームブロック多く含む。ローム粒は少ない
1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。3cm 以下ロームブロック。粒多く含む

土坑 20

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。2cm 以下ロームブロック・5mm 以下ローム粒や多く含む
1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 以下ロームブロック。粒多く含む
1. 黒褐色土 砂質強。粘性有。5～60mm ロームブロックや多く含む
1. 黒褐色土 砂質強。粘性有。5mm 以下ローム粒種かに含む

ピット 1

1. 黒褐色土 砂質有。3mm ローム粒多く含む
1. 褐色土 砂質有。ロームが塊状に混入

ピット 2

1. 黒褐色土 砂質弱。ローム粒が塊状に混入
 1. 暗褐色土 砂質弱。5mm ローム粒多く含む
 2. 暗褐色土ローム粒の混合土 砂質弱
- 土坑 1・ピット 4～67・87～126

I

1. 白色砂層
1. 暗褐色土 砂質強。5mm 以下ローム粒多く含む

II

1. 暗褐色土 砂質弱。ロームブロック主体

III

1. 暗褐色土 砂質弱。ロームブロック少し。5mm 以下ローム粒や多く含む

IV

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。色調明るめ。3mm 以下ローム粒少し含む

V

1. 黒褐色土 砂質やや弱。粘性有。5mm 以下ローム粒多含む

VI

1. 黒褐色土主体 砂質強。粘性有。ロームブロック多含む

VII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 以下ロームブロック。粒や多く多含む

VIII

1. 黒褐色土 砂質強。粘性有。3mm 以下ローム粒少し含む

IX

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック・5mm 以下ローム粒や多く含む

X

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。色調明るめ。1cm 以下ロームブロック。粒多含む

XI

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。3mm 以下ローム粒や多く含む

XII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。3mm 以下ローム粒や多く含む

XIII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。3cm 大ロームブロック・5mm 以下ローム粒多含む

XIV

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。ローム粒や多含む

XV

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XVI

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XVII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XVIII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XIX

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XX

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXI

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXIII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXIV

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXV

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXVI

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXVII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXVIII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXIX

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXX

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXXI

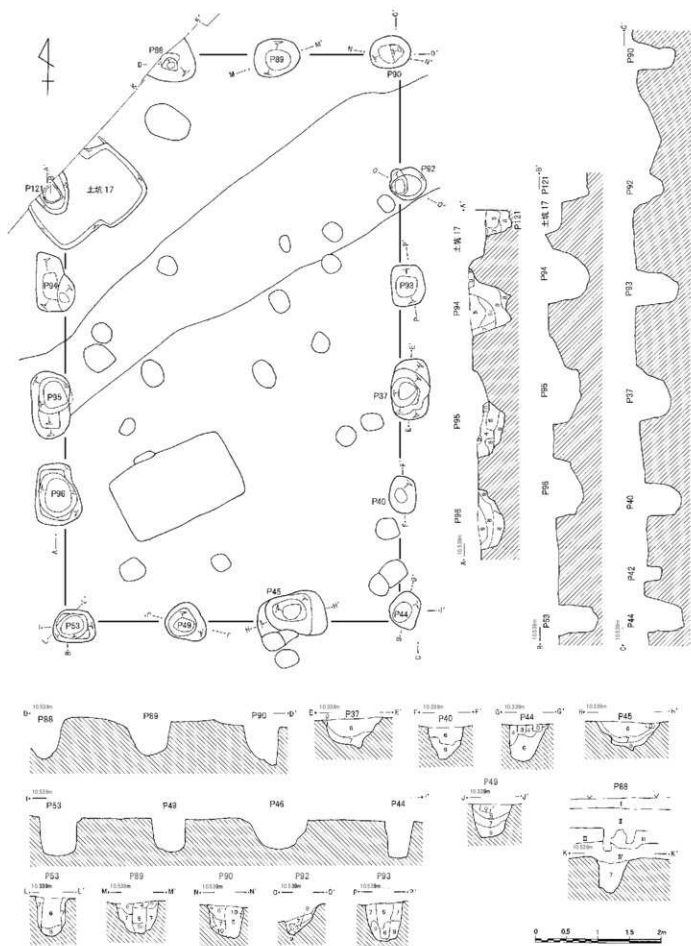
1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXXII

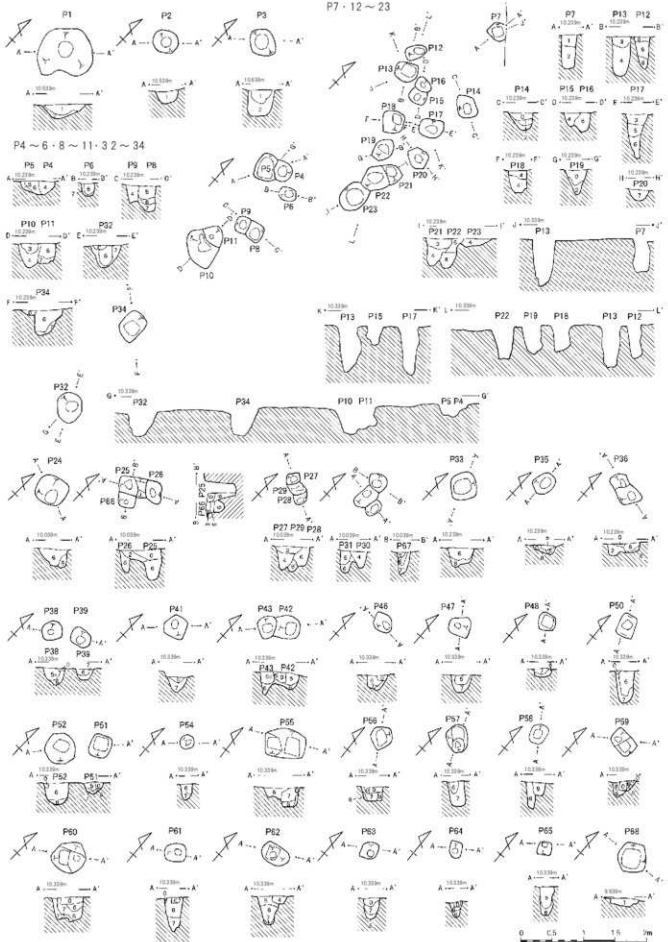
1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む

XXXIII

1. 黒褐色土 砂質有。粘性有。1cm 大ロームブロック多含む



第23図 滝道跡第21地点掘立柱建物跡 (1/60)



第24図 滝遺跡第21地点ピット① (1/60)

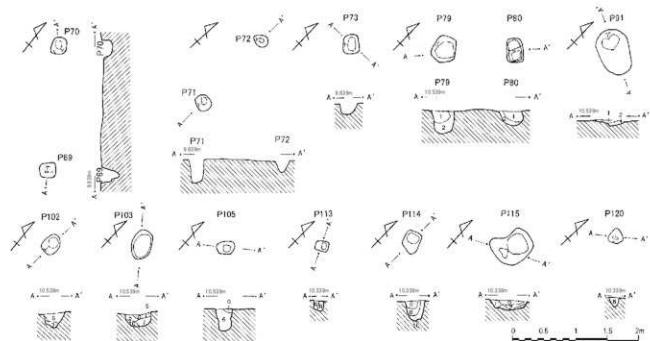
第5表 滝遺跡第21地点H31号住居跡ビット一覧表 (単位cm)

No.	平面形状	幅原長	長さ	深さ	備考
P1	半壁形	109 × 104	21 × 20	37	土壁
P2	楕円形	59 × 56	30 × 22	56	土壁 縁出溝
P3	円形	77 × 74	25 × 12	81	土壁
P4	円形	97 × 73	39 × 35	79	土壁
P5	円形	93 × 88	32 × 32	47	前口、縁出溝、土壁
P6	円形	120 × 103	23 × 21	111	土壁
P7	円形	103 × 97	11 × 9	102	
P8	円形	104 × 92	42 × 31	111	土壁
P9	円形	54 × 49	23 × 23	25	土壁 縁出溝
P10	円形	97 × 96	14 × 13	100	
P11	円形	58 × 55	26 × 25	89	
P12	半壁形	37 × 26	25 × 15	27	土壁
P13	半壁	121 × 26	129 × 15	115	
P14	半壁	106 × 37	12 × 11	25	
P15	円形	32 × 28	14 × 12	38	
P16	半壁	32 × 19	9 × 5	26	
P17	半壁	30 × 16	15 × 12	24	
P18	円形	24 × 23	11 × 9	37	
P19	半壁	32 × 16	15 × 14	113	土壁
P20	円形	121 × 30	28 × 23	112	
P21	半壁形	102 × 97	13 × 13	106	
P22	円形	22 × 20	15 × 12	29	
P23	円形	28 × 25	11 × 7	27	
P24	円形	21 × 19	8 × 8	20	
P25	円形	27 × 22	15 × 11	81	
P26	円形	25 × 19	19 × 16	38	土壁
P27	楕円形	30 × 18	21 × 11	39	

第6表 滝遺跡第21地点遺構一覧表 (単位cm)

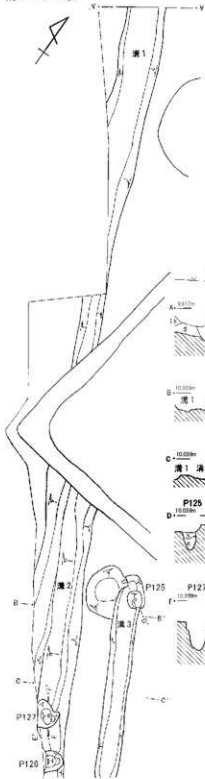
No.	平面形状	幅原長	長さ	深さ	備考
土壁 1	楕円形	150 × 88	123 × 63	11	
土壁 2	長方形	160 × 120	160 × 96	62	
土壁 3	半壁	75 × ---	--- × 9	40	
土壁 4	方形	140 × 118	120 × 112	87	土壁
土壁 5	長方形	156 × 103	145 × 98	61	土壁
土壁 6	半壁	157 × 167	145 × 160	30	縁出溝
土壁 7	半壁	113 × 61	101 × 53	40	土壁
土壁 8	楕円形	147 × 87	124 × 70	13	
土壁 9	長方形	257 × 109	226 × 85	63	
土壁 10	方形	112 × 94	80 × 73	52	縁出溝
土壁 11	半壁	115 × 104	110 × 92	39	
土壁 12	長方形	164 × 129	152 × 118	49	
土壁 13	長方形	218 × 118	210 × 91	81	土壁
土壁 14	方形	137 × 116	115 × 103	61	土壁
土壁 15	半壁	143 × 190	129 × 173	49	
土壁 16	円形	160 × 152	100 × 97	40	土壁、縁出溝
土壁 17	半壁	178 × 125	163 × 120	34	
土壁 18	半壁	183 × 63	83 × 30	34	
土壁 19	半壁	127 × 110	103 × 87	55	土壁
土壁 20	半壁	108 × 108	98 × 86	54	土壁、縁出溝

No.	平面形状	幅原長	長さ	深さ	備考
土壁 1	円形	120 × 110	80 × 74	29	土壁、右壁、縁出溝、溝
土壁 2	円形	176 × 170	176 × 100	10	土壁
P1	円形	86 × 73	23 × 23	23	
P2	円形	40 × 37	17 × 17	24	
P3	円形	42 × 39	24 × 21	44	土壁
P4	円形	32 × 30	18 × 15	23	
P5	円形	43 × 30	40 × 25	16	
P6	円形	27 × 22	10 × 10	24	
P7	円形	31 × 28	18 × 16	55	
P8	円形	30 × 28	18 × 15	45	
P9	円形	27 × 22	15 × 11	30	
P10	半壁	64 × 28	29 × 20	43	土壁
P11	円形	39 × 31	7 × 7	21	土壁
P12	楕円形	35 × 22	16 × 12	53	
P13	円形	35 × 32	22 × 19	75	
P14	円形	37 × 32	16 × 11	30	
P15	円形	29 × 21	13 × 10	29	縁出溝
P16	円形	27 × 21	16 × 7	32	
P17	円形	39 × 30	18 × 14	78	
P18	半壁	34 × 34	15 × 15	25	土壁
P19	円形	40 × 27	18 × 14	43	
P20	円形	33 × 31	15 × 11	22	
P21	半壁	33 × 22	15 × 14	44	
P22	円形	41 × 28	22 × 20	50	
P23	円形	36 × 28	27 × 26	14	
P24	円形	50 × 45	23 × 18	31	
P25	半壁	43 × 30	15 × 13	50	
P26	方形	34 × 28	14 × 8	39	
P27	方形	22 × 17	11 × 9	41	
P28	半壁	23 × 14	11 × 8	32	
P29	半壁	23 × 20	12 × 7	41	
P30	円形	26 × 18	17 × 10	29	縁出溝
P31	半壁	40 × 28	13 × 10	50	
P32	円形	49 × 39	20 × 17	35	
P33	円形	42 × 41	27 × 24	28	
P34	方形	46 × 35	23 × 21	44	土壁
P35	円形	38 × 30	20 × 14	17	
P36	半壁	50 × 30	14 × 12	25	
P37	長方形	95 × 60	28 × 25	53	
P38	円形	32 × 30	10 × 7	32	土壁
P39	円形	22 × 28	13 × 13	21	土壁
P40	円形	58 × 43	23 × 18	58	
P41	円形	35 × 34	14 × 11	29	
P42	円形	38 × 25	20 × 17	29	
P43	円形	34 × 30	16 × 14	30	土壁
P44	円形	18 × 18	18 × 16	61	土壁
P45	楕円形	109 × 73	30 × 24	49	土壁、溝
P46	円形	39 × 30	15 × 10	29	
P47	円形	35 × 32	10 × 8	35	
P48	円形	28 × 27	18 × 18	16	
P49	円形	87 × 60	29 × 21	57	土壁
P50	方形	35 × 28	15 × 13	52	



第25図 滝遺跡第21地点ビット② (1/60)

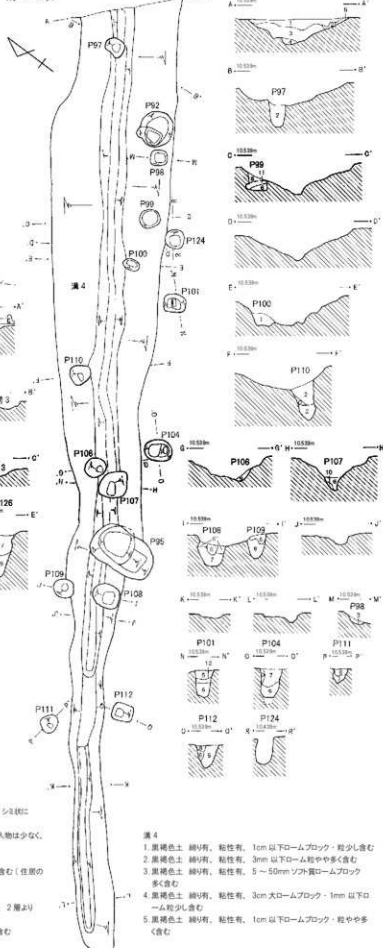
溝1～3・ピット



溝1

- 表土
1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、表層(厚さ15cm)は腐在の耕作土だが、シロ灰に灰褐色土を多く含む、3mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、色調は住居の層土より褐色味が有り、混入物は少なく、1cmロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
- 自然堆積
- Ⅰ 黒褐色土 粘り強、粘性有、3mm以下ローム粒・粘土粒・焼土粒少し含む(住居の上層が10cm前後は多め)
 - Ⅱ 暗褐色土 粘り強、粘性有、シミ状に黒褐色土を含む
 - Ⅲ 黒褐色土 粘り強、粘性有、5～40mm以下ロームブロックやや多く含む、2層より灰色味強い
 - Ⅳ 黒褐色土 粘り強、粘性有、1層より色調明64、5mm以下ローム粒少し含む

溝4・ピット



溝4

1. 黒褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 粘り有、粘性有、5～50mmソフト質ロームブロック多く含む
4. 黒褐色土 粘り有、粘性有、3cm大ロームブロック・1mm以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む

第26図 滝遺跡第21地点溝・ピット (1/60)

第7表 滝遺跡第21地点ビット一覧表 (単位:cm)

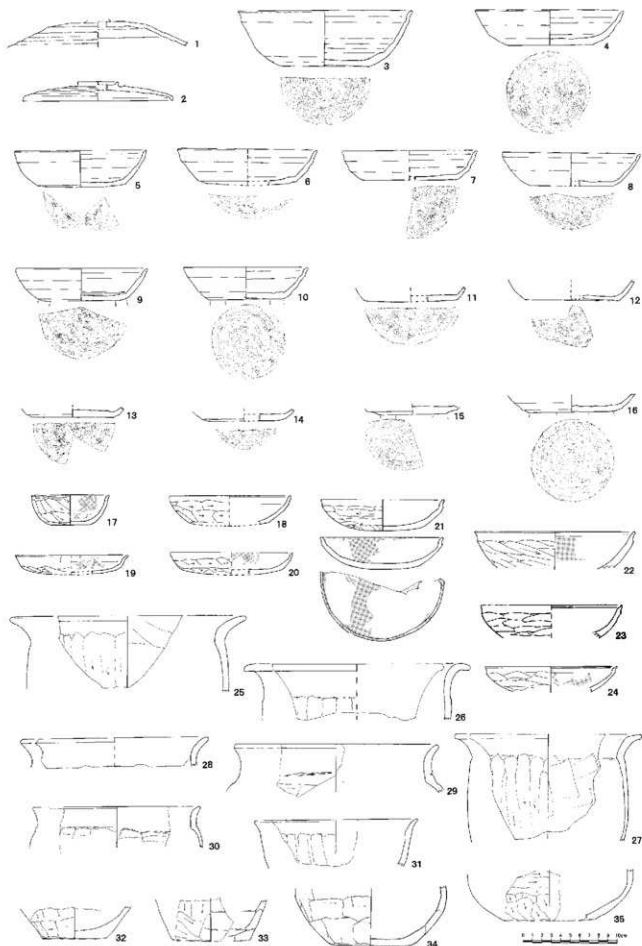
No.	平面的形状	縦径長	横径	深さ	備考
P51	円形	36 × 34	22 × 22	11	
P52	円形	46 × 47	23 × 19	41	
P53	方形	67 × 52	36 × 27	69	
P54	円形	23 × 22	9 × 8	25	
P55	円形	65 × 45	27 × 24	35	
P56	円形	37 × 31	23 × 16	24	
P57	円形	43 × 33	19 × 9	44	
P58	円形	32 × 27	13 × 14	46	
P59	長方形	43 × 29	9 × 8	26	
P60	円形	55 × 48	10 × 9	47	
P61	円形	34 × 30	11 × 10	57	土層
P62	円形	45 × 31	13 × 10	55	
P63	方形	27 × 26	11 × 11	30	
P64	方形	25 × 20	9 × 9	31	
P65	方形	22 × 21	9 × 7	51	
P66	方形	27 × 22	7 × 7	44	
P67	円形	30 × (25)	14 × 12	54	
P68	円形	47 × 45	32 × 29	21	
P69	方形	25 × 23	6 × 3	30	
P70	円形	23 × 22	13 × 10	11	
P71	円形	28 × 23	12 × 9	26	
P72	円形	25 × 19	9 × 7	18	
P73	円形	31 × 25	22 × 12	22	土層
P74		H31号住居跡P22に属家			
P75		H31号住居跡P23に属家			
P76		H21号住居跡P24に属家			
P77		H21号住居跡P25に属家			
P78		H21号住居跡P26に属家			
P79	円形	40 × 38	33 × 27	40	
P80	方形	38 × 25	15 × 12	25	
P81		H31号住居跡P27に属家			
P82					
P83	円形	29 × 25	15 × 16	40	
P84	方形	43 × 40	33 × 28	39	
P85	円形	36 × 34	14 × 13	70	土層
P86	円形	37 × 36	12 × 8	32	
P87	方形	19 × 13	9 × 8	43	
P88	不明	82 × (35)	12 × 8	47	
P89	円形	72 × 60	38 × 32	53	
P90	円形	65 × 51	7 × 6	69	

No.	平面的形状	縦径長	横径	深さ	備考
P91	円形	74 × 52	30 × 20	12	
P92	円形	56 × 55	22 × 14	37	土層
P93	方形	64 × 53	35 × 34	66	
P94	長方形	44 × 35	11 × 9	56	土層
P95	楕円形	105 × 60	42 × 36	43	
P96	長方形	100 × 71	54 × 41	42	
P97	円形	31 × 25	14 × 12	34	
P98	方形	29 × 24	18 × 14	3	
P99	円形	30 × 28	25 × 22	23	
P100	楕円形	26 × 16	18 × 7	24	
P101	方形	36 × 28	13 × 6	54	
P102	円形	33 × 26	17 × 16	27	
P103	円形	47 × 23	23 × 28	26	
P104	円形	49 × 36	11 × 6	55	
P105	円形	29 × 21	10 × 9	36	
P106	円形	33 × 30	11 × 10	27	
P107	円形	43 × 41	20 × 12	42	
P108	円形	44 × 37	19 × 19	48	
P109	円形	32 × 28	12 × 10	41	
P110	円形	32 × 31	12 × 7	61	
P111	円形	39 × 28	10 × 7	24	
P112	方形	33 × 29	12 × 11	38	
P113	方形	20 × 15	10 × 6	18	
P114	方形	34 × 26	19 × 14	21	
P115	長方形	63 × 47	17 × 11	18	
P116	円形	34 × 32	18 × 15	45	土層
P117	不明	150 × 24	15 × 10	12	埋藏層
P118	不明	34 × (27)	17 × 14	26	
P119	円形	28 × 24	12 × 10	48	
P120	円形	23 × 21	9 × 4	17	
P121	不明	63 × (47)	25 × 25	46	
P122	不明	25 × (12)	12 × (3)	28	
P123	円形	42 × 27	27 × 16	24	
P124	円形	30 × 30	18 × 17	41	
P125	円形	27 × 24	12 × 4	28	
P126	不明	45 × (30)	10 × 2	63	
P127	不明	43 × (35)	5 × 4	54	

H 31 号住居出土遺物

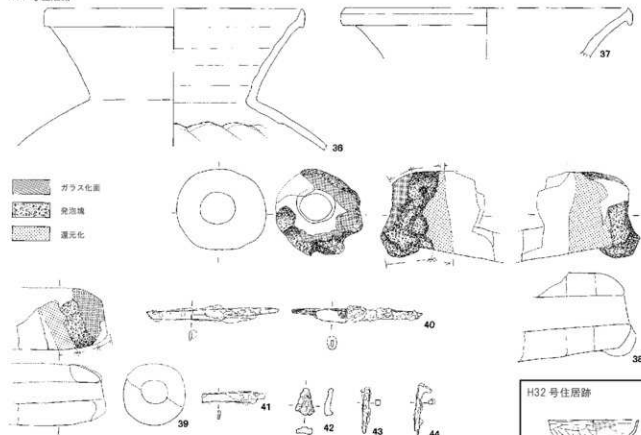
1は、先端が欠損。宝珠状つまみのつく須恵器蓋。口径は19cm以上になる大型。白色針状物質を混入。
2は、環状つまみのつく須恵器蓋。口径15.8cm。白色針状物質を少量混入。3、須恵器碗形。口径1/2現存で18.3cm、器高5.8cm、底径9.4cm。底部全面回転ヘラ削り。底部体部下端二重に回転ヘラ削り。白色針状物質多量に混入。石英(3mm大)を多量に含む。体部表面のろくろ痕はほとんどみられない。内面のろくろ痕は著しい。口唇部先端を外湾に作出。4は、須恵器環。2/3現存15.7cm、器高3.8cm、底径9.1cm。底部全面回転ヘラ削り。白色針状物質を多量に含む。石英2mmの小粒を含む。内面に底部から体部へ移行箇所にも爪立ての浅い窪みあり。5は、須恵器環。口縁部1/2、底部1/5現存。口径14cm、器高3.7cm、底径9.3cm。底部全面回転ヘラ削り。口唇部は内湾気味に立ち上がり、底部から体部へ移行箇所にも爪立ての浅い窪みあり。胎土は精錬され、砂粒は1mm以下で、非常に滑らかである。6は、須恵器環。口縁部1/2、底部1/4現存。口径15cm、器高3.8cm、底径9.0cm。底部にはろくろ柱痕が残る。全面回転ヘラ削り。胎土は精錬され、砂粒は1mm以下。

7は、須恵器環。口縁部1/2、底部1/4現存。口径14.2cm、器高3.2cm、底径10.0cm。底部全面回転ヘラ削り。白色針状物質と石英1mm前後の小さい粒子を多量に含む。8は須恵器環。口縁部1/2、底部1/3現存。口径14.4cm、器高3.3cm、底径8.8cm。底部全面回転ヘラ削り。内外面ともに滑らかでろくろ痕の凹凸はない。白色針状物質多量に混入。9は須恵器環。口縁部1/2、底部1/3現存。口径14cm、器高3.3cm、底径9.1cm。底部手持ちヘラ削りの後、周縁部回転ヘラ削り。外面は滑らかで、内面口縁を強く押し起している。底部に墨書あり。10は、須恵器環。完形。口径13.2cm、器高3.5cm、底径8.0cm。底部回転系切り後、周辺回転ヘラ削り。体部下端に手持ちヘラ削り。白色針状物質多量に混入。石英8mm～13mmを多量に含む。内外面に細い線状の火燻痕あり。底部から体部へ移行箇所にも爪立ての浅い窪みあり。11～12は須恵器環の底部破片。底径約10cmで、全面回転ヘラ削り。白色針状物質を含む。13～16は須恵器環の底部破片。いずれも白色針状物質を含む。13は全面回転ヘラ削り。14は底部中央部が欠落して不明であるが、回転ヘラ削り、体部下端は手持ちヘラ削り。15・16は回転系切りの後、周辺部回転ヘラ削り。

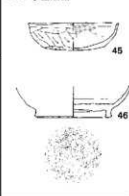


第 27 図 滝遺跡第 21 地点 H31 号住居跡出土遺物 (1/4)

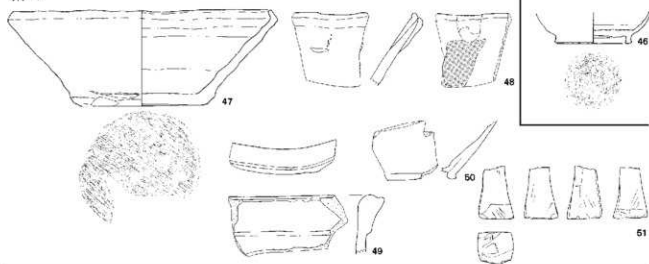
H31号住居跡



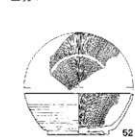
H32号住居跡



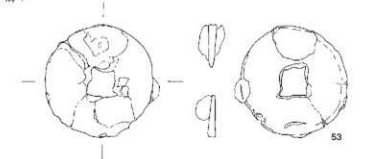
井戸1



土坑4



溝4



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

0 1 2 3cm

第28図 滝遺跡第21地点 H31・32号住居跡・井戸・土坑・溝出土遺物 (1/4・1/1)

17は、完形の土師器小形環。口径8.4cm。器高3.2cm。内面は良好に磨かれている。内面に煤が付着し、灯芯の残骸が付着している。外面はヘラ削りで整形されている。18土師器環。底部を欠。口径12.8cm。体部外面横ヘラ削り。内面は平滑。底部と体部に稜がある。19は土師器環。口径現存1/8。口径推定12.0cm。口唇部は「く」の字状に外湾。体部下端から底面にヘラ削り。内面に煤が灯芯をうかがわせる線状に付着。20は、土師器環。口縁部1/6現存。体部中央は横ヘラ削り、底部全面にヘラ削り。内面に煤。21は、土師器環。現存1/2。口径13cm。器高3.4cm。底面にヘラ削りで丸底。口唇部を外湾。図示したように底部中央から口縁部にかけて煤が付着し、口唇部には全面煤が付着。22から24はいずれも1/4から2/5程度の破片であるが、口唇部内面に一条の沈線を巡らすものである。21と同じように口唇部直下から体部のヘラ削りにより丸底にするものである。内面は平滑で、22と24には煤が付着している。

25から28は、長胴の甕形土器で、口縁部の径1/5から1/10程度の破片で、体部を縦ヘラ削りで調整。口唇部の整形に違いがある。26は水平方向に、25と28は、く「の」字状に作り出す。27は体部の器厚は、3mm程度で非常に薄くなる。29は土師器でいわゆる丸胴の土器。口縁部の湾曲部に、胴部横ヘラ削りの工具先端があたっている。30は、土師器台付き甕になろう。口唇部先端は短く外湾。胴部は横ヘラ削り。内面には工具を当てた痕跡。31は土師器甕である。32・33は、上気27の底部になろう。34・35は上記25・26の底部でやや厚めで横ヘラ削りがある。36・37は、須恵器の大型甕。36は口径現存1/6で、33cm。胴部に平行たき痕が一周している。内面には押さえ痕がある。37は、現存1/8。口径36cm位。38・39は鍛冶炉羽口。38は外径10.1cm、内径3.4cm、12.2cm残存する。先端は融解し、一部発泡する。スサが混入する。酸化部分と還元部分の境目から推定する羽口の装着角度は85度。39は外径6.6cm、内径2.9cm、9.2cm残存する。先端はガラス状に融解する。スサが混入する。40・41は鉄製の刀子。41は切先から基部まで残存し、柄部には木質部が残存する。長さ13.9cm、刃渡り8.1cm、刃巾0.85～1.35cm、厚さ0.38cm、ナカゴ巾0.95cm。41は6.75cm残存し厚さ0.38cm。42は用途不明の鉄製品。43・44は角釘。43は長さ4.6cm、0.7cm角、頭部を欠く。44は長さ5.6cm、0.55cm角、

頭部長1.0cm。

H 32号住居跡出土遺物

45は、土師器小形環、9.7cm、器高2.9cm、現存1/2。大略完形。口唇部先端が、鋭く尖り外湾。口唇部ヨコなどで、体部外面はヘラ削りを施し、底部との区別がある。内面は湾曲しなだらかに丸い。内面に煤が付着。

46は、須恵器高台付き環。底径8cm。外面はなめらか、内面はロク口巻き上げ痕がある。高台の内面に回転糸切り痕あり。

回転糸切りの後、周辺部回転ヘラ削り、高台を貼付。石英等の小砂利(5mm～3mm)、白色針状物質を多量に含む。

井戸1

47・48は瓦質土器の片口鉢。47は約1/3現存。口径27.4cm、器高10.4cm、砂礫(10mm～3mm)を多量に含む。「了」字状の口縁で口縁内面が僅かにくぼむ。内外面とも滑らかな横撫で。底部は木質工具による横撫で。48は片口部分。49は常滑大甕口縁部片。50は須恵器高台付壺(甕)底部。51は凝灰岩製の砥石。表裏側面4面が砥面で中央部が括れ破断する。常滑甕は中野編年の10型式。(1450～1500年)、瓦質土器は荒川編年で15世紀段階にあたる。

土坑4

52は、小形高台付き環。口径1/8現存、11.5cm。器高4.4cm。胎土は非常によく精錬され畿内産の土師器に似る。色調は黄褐色で、外面は強い回転台で整形したものである。内面は、中心から外側に向かって直線的に密なヘラ磨きを施している。底部から体部に移行している箇所はヘラ磨きの工具が当たらずに空白の無施文部となっている。

溝4

53は鉄銭。径2.75cm、孔径0.75cm。

溝21次調査の出土遺物は上記のとおりであるが、この中で、H 31号住居跡の須恵器蓋の環状つまみや底部の調整手法から、8世紀中葉に近い第2四半期にあたろう。また、覆土から出土した土師器環に灯明皿が多いが、隣接して掘立柱建物の存在等や土坑4から出土した高台付き小形環も畿内産という点に注目しておきたい。

第4章 長宮遺跡第41地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

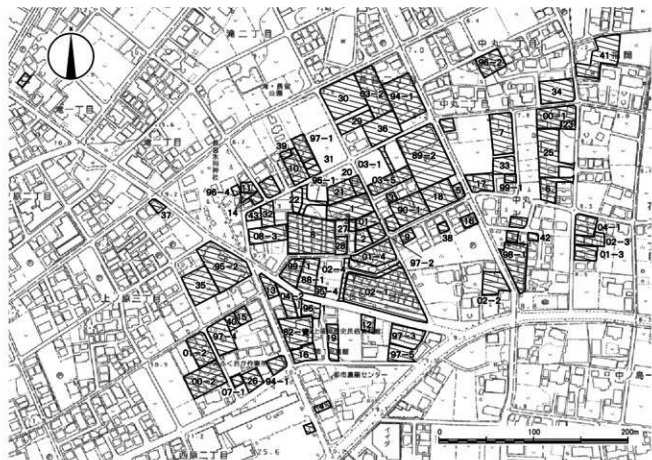
長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧き源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中・近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる

遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2013年9月現在46ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2012年4月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外だが、1,000㎡を超える開発のため指導要項により事前協議書の提出を求めた。また、隣接する箇所でも縄文時代前期の住居跡を検出したため、原因者と協議の結果、遺跡範囲の確認のため試掘調査を実施した。試掘調査は2012年4月17日から4月25日まで行なった。幅約3mのトレンチ1本、1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、土坑、ピット、炉穴、溝等を確認し



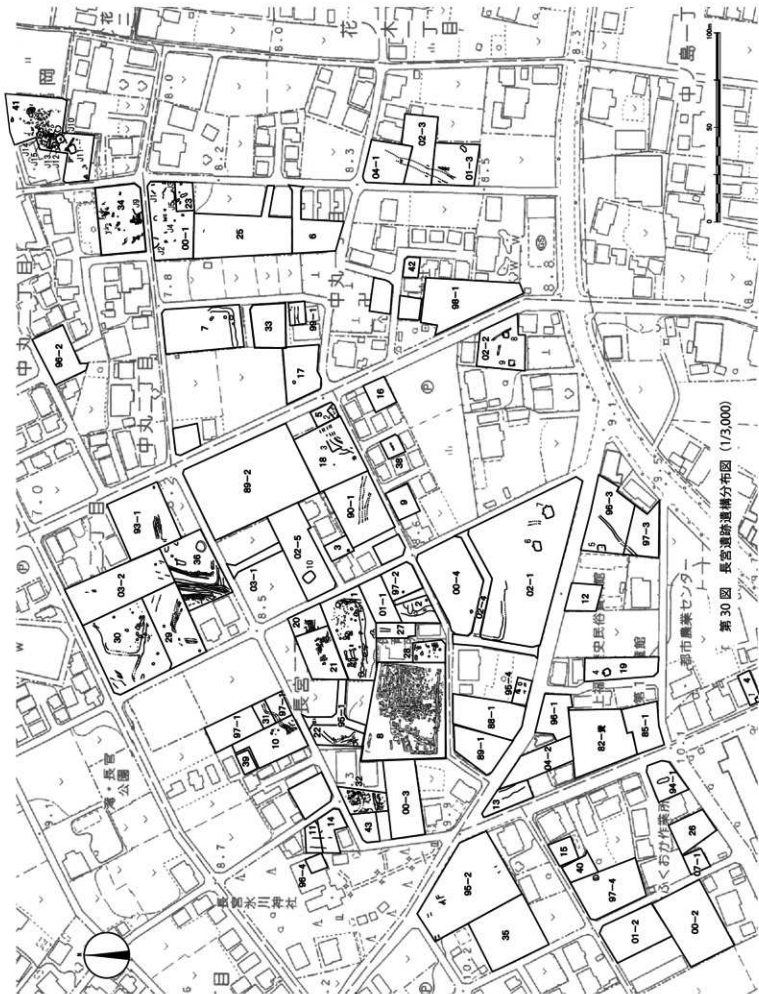
第29図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 長宮遺跡調査一覧表

地点	調査地	調査期間(1) 10試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所在報告書
1号	調査2-1-21	1977.10.31~30	1,000	市指定	溝3、土坑46、釘1	川崎建設「跡2.1-1」調査記録簿(表1)
2号	調査2-1-22	1978.4.20~5.15	235	民間発掘	溝2、土坑1、石樋1、陶器片、磁石、土器、陶器、馬骨	跡(表1)
3号	調査2-1-11	1978.7.24~30	111	民間発掘	土坑1	跡(表1)
4号	調査1-1-14	1979.10.6~9	37	住居跡	土器類、遺骨類、鉄器品	跡(表1)
5号	調査2-5-2	1979.4.18~20	110	縄文前期住居跡1、縄文土層片		跡(表1)(表)
6号	中央1-4-13	1980.4.21~30	515	遺構不明	中世山陽陶片	跡(表)
7号	中央1-2-6	1980.5.13~21	369	溝、井戸跡、縄文土層、中世山陽陶片		跡(表)
8号	調査2-1-10~13	1980.9.8~10.9	1,900	中世溝、井戸、土坑、磁石、陶器類、土器、馬骨		跡(表)
9号	調査1-4-10	1980.9.21~30	200	遺構不明	中世山陽陶片	跡(表)
10号	調査2-3-4	1980.12.5~15	485	溝、土坑跡、縄文前期土層、石樋、中世山陽陶片、陶器		跡(表)
11号	調査2-2-10	1980.12.18~22	117	溝、縄文土層片、中世山陽陶片		跡(表)
12号	調査1-2-7	1981.5.26~30	160	個人住居	縄文土層片、縄文土層片	跡(表)
13号	調査1-2-13	1981.6.5~11	251	個人住居	遺構不明	跡(表)
12a	調査1-2-12	1980.9.20~30	1,000	歴史時代住居跡	溝2	57年報告書、59年報告書?
14号	調査2-2-1	1985.9.24~27	156	個人住居	溝1	跡(表)
15号	調査2-5-8	1985.10.22~31	116	個人住居	溝1	跡(表)
85a	調査1-2-11	1986.3.6~15	400	学童保育所	溝2	60年報告書
16号	調査1-4-7	1986.6.9~17	173	個人住居	縄文土層片	跡(表)
17号	中央1-2-11	1987.6.18~30	504	個人住居	縄文前期土層片	跡(表)
88a	調査1-2-8	1989.9.13~16	657	住居跡	溝1	跡(表)
89a	調査1-2-9	1989.9.20~30	648	住居跡	溝1	跡(表)
90a	調査2-5-18	1989.11.14~24	1,778	住居跡	溝1	跡(表)
90a	調査2-5-4	1990.11.27~30	818	住居跡	溝1	跡(表)
18号	調査2-5-3	1992.10.6~12	925	個人住居	縄文住居跡1、中世土坑2、溝1	跡(表)
19号	調査2-2-21.25	1993.12.17~1994.1.22	467	住居跡	縄文前期住居跡1	跡(表)
93a	調査2-4-2の一部	1994.2.10~25	1,502	住居跡	溝2、土坑1、中世住居跡	5年報告書
94a	調査2-3-1	1994.7.25~8.21	214	心身障害者ケアセンター	跡(表)	跡(表)
20号	調査2-1-12の一部	1995.4.10~19	170	個人住居	中世住居跡4	跡(表)
21号	調査2-1-83.65	1995.6.19~8.6	381	個人住居	中世住居跡1、井戸7	跡(表)
95a(1)	調査2-1-20.再	1995.6.8~20	421	住居跡	溝1	跡(表)
95a(2)	上ノ原3-1-6.再4番	1995.10.4~12	1,526	個人住居	溝1	跡(表)
95a(3)	調査2-1-60	1995.10.23~25	288	住居跡	中世住居跡1、井戸4	跡(表)
22号	調査2-1-80	1995.10.27~11.9	269	住居跡	中世住居跡群4、溝1、瓦器、磁器類、おわらひ	表部調査
95a(4)	調査1-3-13	1995.12.12~20	120	住居跡	溝1	跡(表)
96a(1)	調査1-2-18	1996.7.12~16	349	個人住居	中世住居跡	跡(表)
96a(2)	中央2-2-9.再3番	1996.11.7	568	個人住居	溝1	跡(表)
96a(3)	調査1-2-4	1997.1.14~21	794	個人住居	古溝一枚目住居跡1	跡(表)
96a(4)	調査2-2-4	1997.2.24	205	住居跡	溝1	5年報告書
97a(1)	調査2-3-3	1997.4.8~9	611	墓地区域	溝1(前期平野)	跡(表)
97a(2)	調査2-1-2	1997.4.8~11	289	個人住居	土坑1(前期平野)	跡(表)
97a(3)	調査1-2-36.37	1997.4.16~31	423	住居跡	溝1	跡(表)
97a(4)	調査2-5-6	1997.8.15~21	753	住居跡	中世住居跡1.住居跡	跡(表)
98a	中央1-2-4	1998.11.24~21	1,014	個人住居	中世住居跡1.住居跡	跡(表)
99a	中央1-3-12	1999.11.8~16	88	個人住居	溝1、縄文前期土層2	跡(表)
00a(1)	中央1-4-7	2000.7.4~11	932	個人住居	縄文前期(岡山系)住居跡3、土坑13	跡(表)
00a(2)	調査2-4-10	2000.7.17~24	1,081	個人住居	縄文前期(土物分譲)	跡(表)
00a(3)	調査2-1-17	2000.8.23~23	687	個人住居	溝1	跡(表)
00a(4)	調査1-3-14.4.6	2001.1.13~22	1,119	個人住居	縄文前期(土物分譲)	跡(表)
23号	中央1-4-7	2001.7.16~26	137	個人住居	土坑9、縄文前期土層1、縄文前期土、中世土層片	跡(表)
01a(1)	調査2-1-3	2001.4.29~24	320	個人住居	溝1	跡(表)
01a(2)	調査2-4-7	2001.5.20	634	個人住居	溝1	跡(表)
01a(3)	中央1-1-3	2001.8.7~24	513	個人住居	遺跡区遺構1、縄文前期土層1	跡(表)
01a(4)	調査2-8-6	2001.11.6	130	個人住居	溝1	13年報告書
02a(1)	調査1-2-2~5	2002.6.5~11	3536	個人住居	個人住居(土物分譲)	住居跡2【出土品保存】
02a(2)	調査1-4-3	2002.8.20~7.2	979	住居跡	住居跡2【溝】	跡(表)
02a(3)	中央1-1-5	2002.9.1~11	422	個人住居	遺跡区遺構1(土物分譲)	跡(表)
02a(4)	調査1-3-31	2002.9.20~25	362	住居跡	溝1	跡(表)
24号	調査1-4-3	2003.1.30~2.14	72	個人住居	住居跡2	14年報告書
02a(5)	調査2-5-6	2003.3.10~12	827	個人住居	住居跡1【出土品保存】	跡(表)
03a(1)	調査2-5-30.37	2003.9.16	197	住居跡	住居跡2	跡(表)
03a(2)	調査2-4-7	2003.12.16~18	1,123	個人住居	住居跡1	跡(表)
04a(1)	中央1-1-11	2004.11.26	488	個人住居	溝1	跡(表)
04a(2)	調査1-2-15	2004.12.7~9	466	個人住居	溝1	跡(表)
25	中央1-4-8	2007.2.15~16	1,161	個人住居	井戸3、縄文土層、石樋	市内9
26	調査2-5-2の一部	2007.3.28	594	個人住居	縄文土層片	市内9
27	調査2-1-8	2007.5.30~31	175	個人住居	溝、住居跡	市内9
28	調査2-1-9	2007.5.31~6月:2007.6.6~22	188	個人住居	中世住居跡5、土坑10、井戸13. 縄文土層、石樋、中世山陽陶器類	市内4
工事発生	調査2-5-31	2007.10.18	320	個人住居		市内4
29	調査2-4-6の一部	2007.11.20~12.3:12.4~5	618	個人住居	土坑1、井戸2、磁器片、溝3、井戸10、縄文土層、中世山陽陶片	市内4
30	調査2-4-6	2008.9.28~11.2:11.4~12.8	1,362	老人福祉施設	中世住居跡、井戸、井戸-E、溝2、縄文土層、瓦器、中世山陽陶器類	市内7、8
31	分譲			分譲住宅		
32	調査2-1-18	(2010.1.15~25):2011.2.4~26	271	分譲住宅	中世住居跡20、井戸14.2、溝3、縄文土層、中世山陽陶器類	市内7、8
33	中央1-3-2	(2011.5.18~5.31)	534	分譲住宅	溝1	市内9
34	中央2-2-2.46	(2011.6.27~7.16):2011.11.2~12.1	914	分譲住宅	縄文時代前期印文、前期(岡山系)住居跡1、近世溝、縄文土層	市内9
35	上ノ原3-1-4	(2011.6.8~27)	1,167	個人住居	縄文時代前期土層	市内9
36	調査2-4-3	(2011.10.4~17):10.21~11.14	981	個人住居	中世住居跡15、土坑5、溝15、井戸多数、磁器類	市内9
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	106	個人住居	溝1	市内9
38	調査1-4-27	(2011.11.24~25)	101	分譲住宅	溝1	市内9
39	調査2-3-22	(2012.2)	130	個人住居	溝1	市内9
40	調査2-1-10の一部	(2012.4.16)	201	個人住居	遺構不明	市内9
41	福岡市美術館跡1~3、1-1	2012.4.17~5.31:6.11~7.23	1,152	分譲住宅	溝1、縄文土層片	市内9
41	889-2-5、990-3			分譲住宅	井戸1、溝土層1、溝土坑1、土坑12、井戸33、溝1、縄文前期土層片、瓦器、近世陶器類	市内9

出典：上掲福岡教育委員会編『長宮遺跡発掘調査報告書』上掲調査：上掲福岡市遺跡調査委員会報告書、報告書：上掲福岡教育委員会

市内：上掲福岡教育委員会編『長宮遺跡発掘調査報告書』市内：AICA野村町の遺跡調査報告書



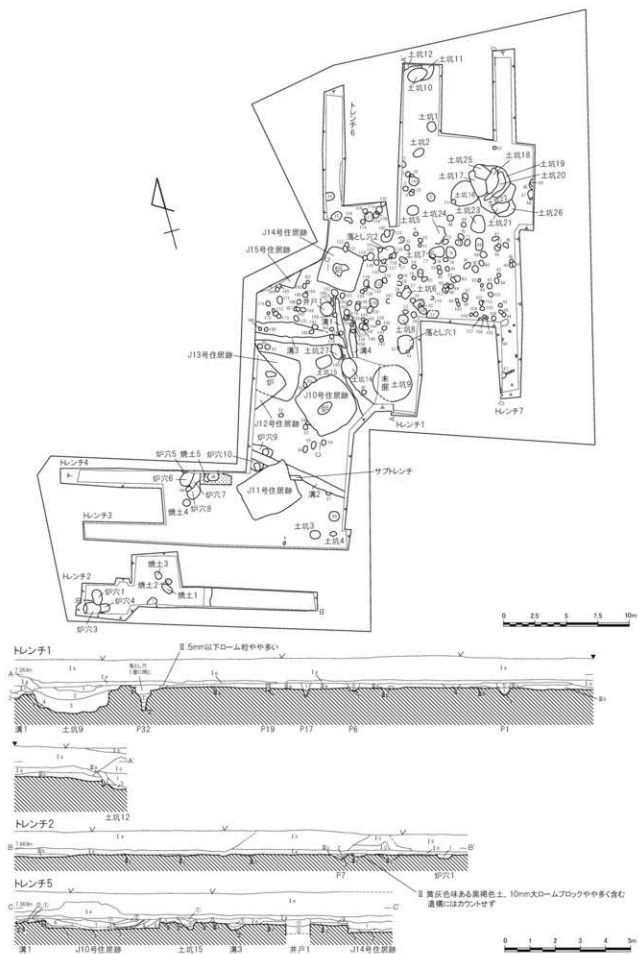
第30図 長宮遺跡遺構分布図 (1/3,000)

ため、同年5月18日付で変更増補をおこない遺跡の範囲を拡大した。

遺跡確認面までの深さは約40～80cmだが、地盤改良を行う予定で、遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施することになった。調査費用積算のために5月1日～31日まで、再度トレンチを2本追加で設定し確認したところ、トレンチ6より縄文時代前期の住居跡を確認した。本調査は2012年6月11日から7月25日まで行い、縄文時代が穴10基、縄文時代前期住居6軒、落とし穴2基、土坑27基、ピット190基、溝4条等を検出した。

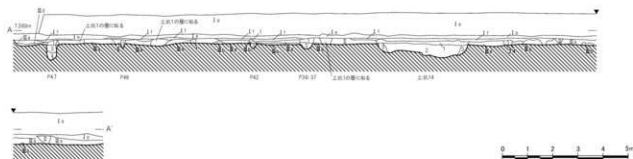
第9表 長宮遺跡住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	SP 方位 K	設置部	カマド	開溝	主軸方位	時期	備考	文献
								規模 cm					
H1	1978	4地点1号住居	1/4	()は推定	×	K	基	×	○				埋蔵文化財の調査 I
H2	1993	19地点4号住居	完備	方形	×	K	北	×					埋蔵文化財の調査 15
H3	1997	96年試掘③			×								埋蔵文化財の調査 19
H4	2002	02年試掘(1)6号住	完備	台形	470×340	K	北	×	○		7C 後半～8C 初頭		埋蔵文化財の調査 25
H5	2002	02年試掘(1)7号住	完備	長方形	530×450	K	北・東	×	○	N-15-W	8C 初頭		埋蔵文化財の調査 25
H6	2002	02年試掘(2)8号住	完備	方形	280×280	K	北	×			7C 東～8C 第1四半期		埋蔵文化財の調査 25
H7	2002	02年試掘(2)9号住	1/2	方形	280×280	K	南西	×	○		7C 東～8C 第1四半期		埋蔵文化財の調査 25
J1	1979	5地点2号住居		長楕形	600×	併		×	○		彌山期		埋蔵文化財の調査Ⅱ・Ⅳ
J2	1992	18地点3号住居			×			×			彌山期		埋蔵文化財の調査 15
J3	2000	00年試掘(1)1号住	プラン		×								埋蔵文化財の調査 23
J4	2000	00年試掘(1)2号住	プラン		×								埋蔵文化財の調査 23
J5	2000	00年試掘(1)3号住	プラン		×								埋蔵文化財の調査 23
J6	2000	00年試掘(1)4号住	プラン		×								埋蔵文化財の調査 23
J7	2000	00年試掘(1)5号住	プラン		×								埋蔵文化財の調査 23
J8	2003	02年試掘(5)	プラン		×			×	○				14年概要
J9	2000	34地点J9号住	1/4	()は推定	(395)×(530)	併2		(52×68 270×51)			前期彌山Ⅱ		市内遺跡群 11
J10	2012	41地点J10号住	完備	方形	400×418	併		123×78	○	N-108-W	前期彌山Ⅱ		市内遺跡群 12
J11	2012	41地点J11号住	完備	長方形	420×365	併2		(57×60 265×41)		N-94-W	前期彌山Ⅱ		市内遺跡群 12
J12	2012	41地点J12号住	1/2	()は推定	(320)×(360)				○	N-25-W	前期彌山Ⅱ		市内遺跡群 12
J13	2012	41地点J13号住	3/4	()は推定	(395)×(340)	併		78×49		N-60-W	前期彌山Ⅱ		市内遺跡群 12
J14	2012	41地点J14号住	完備	方形	310×310	併		125×98	○	N-34-E	前期彌山Ⅱ		市内遺跡群 12
J15	2012	41地点J15号住	一部	()は推定	(125)×(170)				○	N-34-E	前期彌山Ⅱ		市内遺跡群 12



第31図 長宮遺跡第41地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

トンチ7



トンチ1

- I a 暗黄褐色土 締りやや弱、粘性有、暗褐色土を主体に、ロームブロックを多く含む
- I a' 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、5cm以下角礫を多く含む
- I b 黒褐色土 締り強、粘性弱、10cm以下円礫を多く含む
- I c 褐色土 締り強、粘性強、ローム粒を少し含む、粘土質
- I d 褐色土 締り有、粘性強、5~30mmロームブロックをやや多く含む、粘土質
- I e 褐色土 締り強、粘性強、3cm以下ロームブロック、炭化物を少し含む、粘土質、ロームを水平に広く覆う水稲耕作跡、ビニール含む
- I f 黄灰色土 灰色土 締り強、粘性強、転圧を受けたように締り、粘性が強い、マール状(ローム土と3mm以下灰白色土粒を多く含む)
- I g 褐色土 締り強、粘性強、ローム粒を少し含む、粘土質
- I h 褐色土 締り有、粘性強、5~30mmロームブロックをやや多く含む、粘土質
- II 黄灰色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒をやや多く含む
- III a 灰オリーブ色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒をやや多く含む
- III b 浅黄色土 締り強、粘性強、灰黄色のローム土と灰オリーブ色土が混ざる、粒状の5mm以下ローム土もやや多く混ざる
- III c 黄褐色土 締り強、粘性強、灰黄色が有る、ローム粒を伴う黄褐色土が少し混じりに混ざる土粒
- IV 1 黒褐色土 締り強、粘性強、しみ状に3cm以下ロームブロック多く含む
- 2 灰白色土 締り強、粘性強、しみ状に3cm以下ロームブロックやや多く含む
- 3 黒褐色土 締り有、粘性強、1~2cmロームブロック少し含む
- 4 灰オリーブ色土 締り有、粘性強、5~10mmロームブロックやや多く含む
- V 1 黒褐色土 締り強、粘性有、5~20mmローム土を多く含む、酸化土が目立つ
- 2 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下灰白色土粒少し含む
- 3 黒褐色土 締り強、粘性強、色調灰色味がある、5mm以下灰白色土粒やや多く含む

トンチ2

- ① 黒褐色土 締り強、粘性強、しみ状に灰白色土をやや多く含む、5~40mmロームブロック少し含む
- ② 黒褐色土 締り強、粘性強、しみ状に灰白色土、5mm以下ローム粒やや多く含む

トンチ3

- ① 褐色土 締り強、粘性強、5~10mm灰白色ロームブロック多く含む、酸化土が目立つ
- ② 黒褐色土 締り強、粘性強、しみ状に灰白色土、2cm以下ロームブロックを多く含む
- ③ 黒褐色土 締り強、粘性強、しみ状に灰白色土、5~20mmロームブロック少し含む

J10号住居跡

- ① 灰色土 締り強、粘性強、粘土質、酸化が目立つ
- ② 灰黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質、住居跡の覆土が混ざったような色調で5mm炭化物少し含む
- 1 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒やや多く、5mm以下炭化物少し含む
下部に遺物を多く伴う、酸化が目立つ
- 2 黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質の白色土(灰?)粒を多く、5~10mm炭化物少し含む
- 3 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒、5~20mm炭化物やや多く含む黒色味強い、5mm以下機土少し含む、含水目立つ
- 4 黒褐色土 締り強、粘性強、やや灰色味ある黒褐色土、5mm以下ローム粒多く含む
- 4' 灰色土 締り強、粘性強、機土面を覆う、5mm以下機土少し含む
- 5 黒褐色土 締り強、粘性強、黒色味強い、5mm以下ローム粒多く含む
- 6 黒褐色土 締り強、粘性強、灰色味ある黒褐色土、灰白色の5mm以下ローム土粒をやや多く含む、機より黒色味強い

土粒15

- ① 黒褐色土 締り強、粘性強、3cm以下灰色粘土やや多く含む
- ② 黒褐色土 締り強、粘性強、灰色味ある黒褐色土、しみ状にローム土少し含む
- ③ 黒褐色土 締り強、粘性強、灰色味ある黒褐色土、しみ状に灰白色土、3mm以下黄白色粒多く含む
- ④ 黒褐色土 締り強、粘性強、③層より灰白色土粒少なめ

溝3

- ① 灰黒褐色土 締り有、粘性強、遺入物少ない
- ② 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、
le'より褐色味が少し、5mm以下ローム粒少し含む

土粒13

- ① 暗灰色土 締り強、粘性強、粘土質遺入物は5mm以下炭化物わずかに含むのみ
やや酸化が目立つ
- ② 暗灰色土 締り強、粘性強、しみ状に灰白色土、5cm以下ブロックを上層に多く含む
上層より酸化が目立つ

J14号住居跡

- 1 黒褐色土 締り強、粘性強、灰色味ある黒褐色土、5mm以下ローム粒多く、5mm以下炭化物少し含む
- 2 黒褐色土 締り強、粘性強、1cm以下機土多く、5~20mm以下灰白色土やや多く含む
- 3 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下灰白色土やや多く、5mm以下機土少し含む

トンチ7

土粒19~22

- 1 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下灰白色ローム粒多く、しみ状に2cm以下灰色粘土やや多く含む
- 2 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒少し、2cm以下灰白色土少し含む
- 3 黄灰色土 締り強、粘性強、暗色、ローム分を含む黄灰色味ある黒褐色土、しみ状に5mm以下ローム粒少し含む

J10号住居跡

- ① 灰色土 締り強、粘性強、粘土質、酸化が目立つ
- ② 灰黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質、住居跡の覆土が混ざったような色調で5mm以下炭化物少し含む

J10号住居跡

- 1 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒やや多く、5mm以下炭化物少し含む
下部に遺物を多く伴う、酸化が目立つ
- 2 黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質の白色土(灰?)粒を多く、5~10mm炭化物少し含む

J10号住居跡

- 3 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒、5~20mm炭化物やや多く含む、黒色味強い、5mm以下機土少し含む、含水目立つ
- 4 黒褐色土 締り強、粘性強、やや灰色味ある黒褐色土、5mm以下ローム粒多く含む
- 4' 灰色土 締り強、粘性強、機土面を覆う、5mm以下機土少し含む
- 5 黒褐色土 締り強、粘性強、黒色味強い、5mm以下ローム粒5mm以下多く含む
- 6 黒褐色土 締り強、粘性強、灰色味ある黒褐色土、灰白色の5mm以下ローム土粒をやや多く含む、機より黒色味強い

J10号住居跡

- ① 灰色土 締り強、粘性強、粘土質、酸化が目立つ
- ② 灰黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質、住居跡の覆土が混ざったような色調で5mm炭化物少し含む
- 1 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒含む、水性酸化物を含む
- 2 褐色粘土 締り有、粘性有、~3mmローム粒少し含む

J10号住居跡

- ① 黒褐色土 締り有、粘性有、1~3mmローム粒含む、水性酸化物を含む
- 2 灰色粘土 締り有、粘性有、シルト質、~3mmローム粒少し含む
- J10号住居跡
- ① 灰褐色土 粘性有、~5mmローム粒多く含む、
- 2 灰色粘土 締り有、粘性有、シルト質、~3mmローム粒少し含む

J10号住居跡

- ① 灰褐色土 粘性有、~5mmローム粒多く含む、
- 2 灰色粘土 締り有、粘性有、シルト質、~3mmローム粒少し含む
- J10号住居跡
- ① 灰褐色土 粘性有、~5mmローム粒多く含む、
- 2 灰色粘土 締り有、粘性有、シルト質、~3mmローム粒少し含む、水性酸化物を含む

J10号住居跡

- ① 黒褐色土 締り有、粘性有、1~3mmローム粒含む、水性酸化物を含む
- 2 灰白色粘土 締り有、粘性有
- 3 灰褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒少し含む

第32図 長宮遺跡第41地土層図 (1/150)、土層説明

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 住居跡

① J10号住居跡

【位置】調査区中央に位置する。0.2m北西にJ13住、1.2m北西にJ12住、3.5m西にJ11住、6.8m北東にJ14住がある。

【形状・規模】主軸方位はN-108°-W。平面形態は方形だが、主軸に対し左右壁の幅が広がっていき、西壁から2.5mあたりで最大幅となる。また東壁は弧を描く。規模は主軸の東西方向4.0m×南北4.18m、西壁は3.7m、東壁は3.5m、確認面からの深さ30～35cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積し、土器も中央に集中して出土する。

【炉】住居跡の中央から西側にかけて主軸の東西方向に長く位置する。平面形態は楕円形で123×78cm、床面からの深さ9cm、被熱による赤化範囲は96×45cm。焼土粒を多量に含む黒褐色土が堆積する。

炉の東40cmの床面が焼けて薄く赤化している。範囲は南北55cm×東西50cmである。

【柱穴・周溝】主柱穴は炉周囲のP1～P4と東壁際のP7・P9の6本柱と思われる。柱穴の中心間の距離はP1-P2が110cm、P2-P7が160cm、P7-P9が110cm、P9-P3が180cm、P3-P4が85cm、P4-P1が75cm、P3-P2が110cmである。

壁際に小柱穴が並ぶ。西壁は角から角まで6本、北壁は7本、東壁は主柱穴を含めて7本、南壁は9本で中心間の距離は最小18cm、最大120cmあるが、平均的な間隔は各壁で異なり、西壁は65～75cm、北壁は50～60cm、東壁は中央が30cm、両脇が50～60cm、南壁は中央が90cm、両脇が30～50cmである。

西壁際にのみ周溝がある。上幅15～40cm、下幅8～15cm、深さ3cmである。

【時期】出土遺物から縄文時代前期開山Ⅱ式期。

② J11号住居跡

【位置】調査区中央南西寄りに位置する。3.5m東にJ10住、4.5m北にJ12住・J13住がある。溝2に北東角部分を壊されるが、床面は残る。

【形状・規模】主軸方位はN-94°-W。平面形態は東西方向の長方形だが主軸に対し左右壁の幅が広がっていき、西壁から3.0mあたりで最大幅となる。規模は主軸の東西方向4.2m×南北3.65m、西壁は

3.1m、東壁は3.35m、確認面からの深さ30～40cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積し、土器も中央に集中して出土する。

【炉】2ヶ所検出した。いずれも主軸線上に位置する。炉1は主軸奥壁（西壁）寄りに位置し、平面形態は楕円形、規模は東西57×南北60cm、床面からの深さ4cm、被熱による赤化範囲は35×32cm。炉の奥側に細長い礎（26×8cm）が置かれていた。

炉2は炉1の東20cm、中心間では75cmに位置する。平面形態は卵形、規模は東西55×南北41cm、床面からの深さ4cm、被熱による赤化範囲は47×37cm。【柱穴・周溝】主柱穴は炉周囲のP1～P4と東壁際のP10・P13の6本柱と思われる。柱穴の中心間の距離はP1-P2が165cm、P2-P10が135cm、P10-P13が105cm、P13-P3が130cm、P3-P4が170cm、P4-P1が115cm、P2-P3が95cmである。

壁際に小柱穴が並ぶ。西壁は角から角まで6本、北壁は7本、東壁は主柱穴を含めて7本、南壁は6本で中心間の距離は最小20cm、最大110cmある。

【時期】出土遺物から縄文時代前期開山Ⅱ式期。

③ J12号住居跡

【位置】調査区中央西に位置する。J13住と重複し、J13住の埋没後に構築しており、当住居の方が新しい。1.2m南西にJ10住、3.5m南にJ11住、5.5m北東にJ15住がある。

【形状・規模】南東部のみの検出のため、全体の規模・形態は不明だが、検出部分の東西壁長さ3.2m、南北壁長さ3.6mを測る。南北壁の方位はN-25°-W。平面形態は方形、確認面からの深さ30cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積する。

【炉】炉は検出していない。

【柱穴・周溝】壁際に小柱穴が並ぶ。南壁は10本、東壁は10本で中心間の距離は25～40cmある。東壁から50cm内側にも小柱穴が7本並ぶ。中心間の距離は20～60cmある。

東壁際に周溝がある。上幅10～15cm、下幅5cm、深さ3cmである。

【時期】出土遺物から縄文時代前期開山Ⅱ式期。

④ J13号住居跡

【位置】調査区中央西に位置する。J12住と重複し、

J12 住によって壊されており、当住居の方が古い。0.2m 南西に J10 住、3.5 m 南に J11 住、6.5m 北東に J14 住、5.5m 北に J15 住がある。

【形状・規模】西側は未調査のため、全体の規模・形態は不明だが、検出部分の東西長 3.55m、南北長 3.4 m を測る。主軸方位は $N-60^{\circ}-W$ 。平面形態は東側が広く、西側が狭い台形、確認面からの深さ 30 cm である。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積する。

【炉】住居跡の中央から西側にかけて主軸の東西方向に長く位置する。平面形態は楕円形で被熱による赤化範囲は 78×49 cm、中央のくぼんだ範囲は 60×35 cm。床面からの深さ 5cm、焼土粒を多量に含む灰色土が堆積する。炉の中央は J12 住のピットで壊される。

【柱穴・周溝】壁際に小柱穴が並ぶ。南壁は 5 本、北壁は 5 本で中心間の距離は 50 ~ 100cm ある。東壁は 12 本で中心間の距離は 15 ~ 50cm ある。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山Ⅱ式期。

⑤ J14 号住居跡

【位置】調査区中央北に位置する。1.4 m 西に J15 住、6.8m 南西に J10 住、6.5m 南西に J13 住がある。

【形状・規模】主軸方位は $N-34^{\circ}-E$ 。平面形態は方形で北壁がやや狭くなる。規模は主軸の南北方向 3.1 m \times 東西 3.1 m、北壁は 2.6m、確認面からの深さ 30 ~ 35 cm である。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い灰褐色土が黒褐色土の上にレンズ状に堆積する。黒褐色土の上は赤化した焼土層が広がる。焼土層は住居中央から南北方向に拡散している。

【炉】住居跡の中央に位置する。平面形態は不整形で 125×98 cm、床面からの深さ 5cm、被熱による赤化範囲は 114×90 cm。

【柱穴・周溝】、P 5 - P 6 が 55 cm、P 1 - P 6 と P 2 - P 5 が 285 cm である。

壁際に小柱穴が並ぶ。北壁は P 1 と P 2、東壁は北角から 1 m の位置に P 3、南壁は P 4 ~ P 7 の 4 本、西壁は P 8 と P 9 の 2 本である。柱穴の中心間の距離は P 1 - P 2 が 72 cm、P 4 ~ P 7 は 55 ~ 95 cm、P 8 - P 9 は 120 cm である。壁際の P 1、P 2、P 5、P 6 は主軸方位に位置し主柱穴と思われる。

南壁を除き周溝が廻る。上幅 8 ~ 15cm、下幅 2 ~ 8cm、深さ 4 ~ 8 cm である。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山Ⅱ式期。

⑥ J15 号住居跡

【位置】調査区中央北に位置する。1.4 m 東に J14 住、7.4m 南に J10 住、5.5m 南に J13 住がある。

【形状・規模】南東部のみ検出のため、全体の規模・形態は不明だが、検出部分の東西壁長さ 1.25m、南北壁長さ 1.7 m を測る。南北壁の方位は $N-34^{\circ}-E$ 。確認面からの深さ 40 cm である。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積する。

【炉】炉は検出していない。

【柱穴・周溝】壁際に小柱穴を検出。南壁と東壁それぞれに 1 本筒である。

東壁際に幅 13 ~ 18cm の段差がある。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山Ⅱ式期。

(2) 炉穴

調査区の南西部に炉穴 10 基と焼土跡 5 ヶ所を検出した。A 区の炉穴は 1 ~ 4 が重複して検出した。炉穴 3 が最も古く、炉穴 1 と炉穴 4 が炉穴 3 を埋めた後構築している。炉穴 2 は炉穴 4 の埋没後構築され最も新しい。

B 区の炉穴は 5 ~ 8 が重複して検出した。炉穴 8 が最も古く、8 → 7 → 6 → 5 の順に新しくなる。A 区の炉穴群は 10 m 南西に位置する。5 m 東には炉穴 9・10 がある。

炉穴 9・10 は J 11 住居跡の北に位置し、間を溝 2 が貫く。

(3) 落とし穴

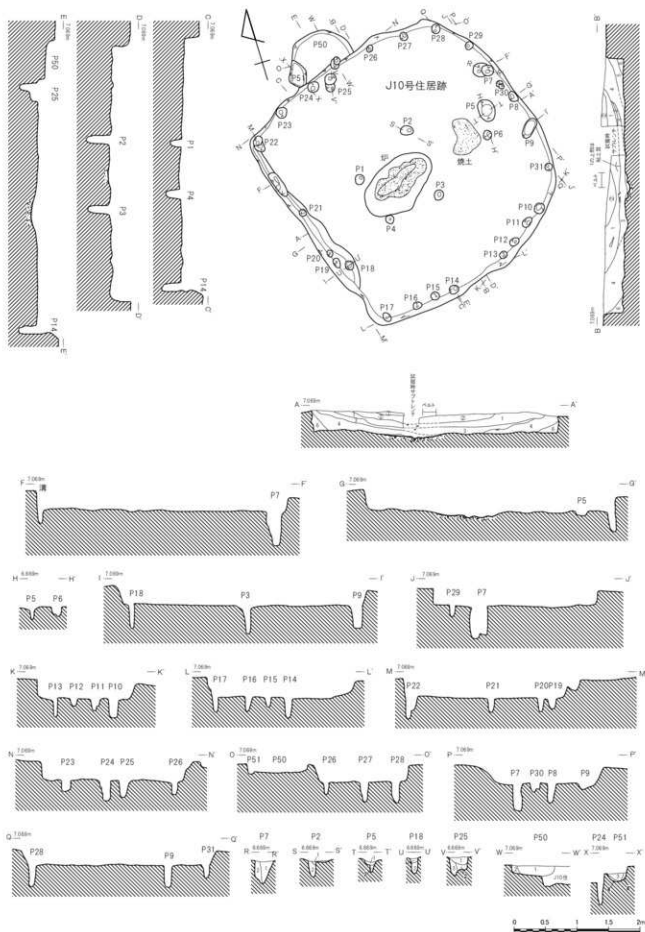
2 基検出した。落とし穴 1 は長軸が北東から南西方向で平面楕円形、底面は平坦である。黒褐色土で埋る。

落とし穴 2 は長軸が東西方向で上端の平面形は楕円形だが、底面は細長い長円形、断面は V 字状に狭くなる。

(4) 溝

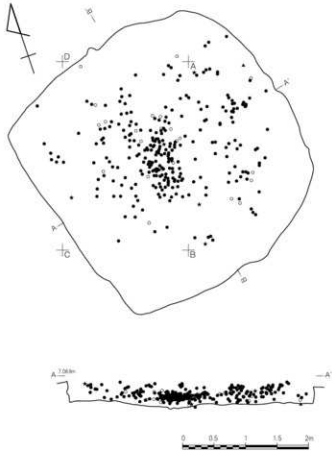
4 条検出した。溝 1 は調査区中央、J14 住居跡の南から始まり、南北方向に位置する。溝 3 および土坑 14 の埋没後に構築され、土坑 14 を越えてからやや南東方向へ向きを変え、そのまま調査区域外へ伸びていく。9.5 m 検出した。上幅 30 ~ 120 cm、下幅 8 ~ 55 cm、確認面からの深さ 8 ~ 24 cm。近世陶磁器が出土した。

溝 2 は調査区南側、北西から南東方向へ向かう溝で、炉穴 9・10、J11 住居跡を壊して構築される。8.2 m 検出した。上幅 57 ~ 80 cm、下幅 30 ~ 58 cm、確認面からの深さ 17 ~ 27 cm。縄文土器のほか、土師器裏破片が出土した。



第33図 長宮遺跡第41地点 J10号住居跡 (1/60)

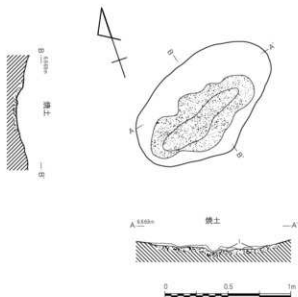
遺物出土状況図



微細図

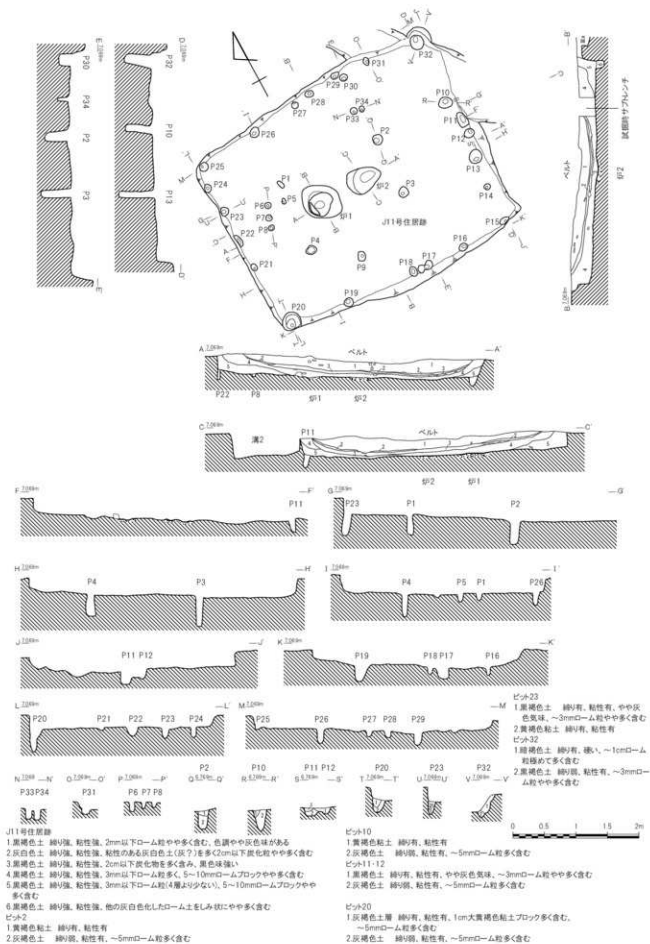


炉



J10号住居跡 SP
 1 黒褐色土、粘り有、～5mm赤褐色焼土層少量含む

第34図 長宮遺跡第41地点 J10号住居跡炉 (1/30)、遺物出土状況図 (1/30・1/60)



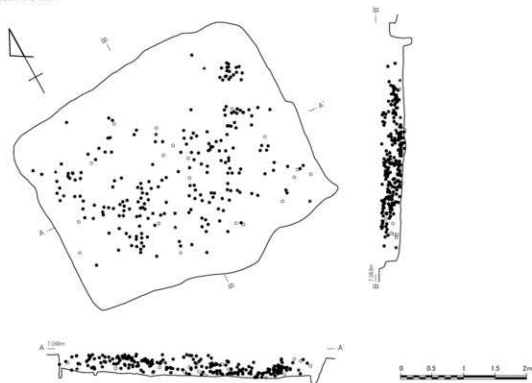
第35図 長宮遺跡第41地点 J11号住居跡 (1/60)

第10表 長宮遺跡第41地点J10号住居跡遺構一覧表 (単位 cm)

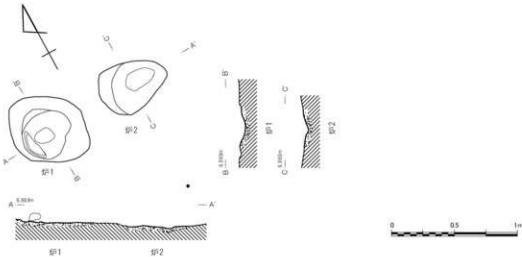
No	平面形状	幅員面積	基礎	深さ	備考
P1	円形	15 × 14	3 × 4	19	
P2	円形	21 × 14	7 × 5	40	
P3	円形	15 × 15	7 × 5	35	
P4	円形	13 × 12	3 × 3	25	
P5	円形	37 × 25	21 × 18	22	
P6	円形	15 × 12	2 × 1	16	
P7	円形	33 × 21	5 × 4	53	
P8	円形	18 × 12	8 × 5	34	
P9	楕円形	34 × 18	25 × 13	41	
P10	円形	15 × 15	11 × 7	30	
P11	円形	18 × 12	8 × 4	20	
P12	円形	15 × 11	4 × 2	11	
P13	円形	11 × 11	4 × 3	20	
P14	円形	14 × 14	8 × 8	31	
P15	円形	13 × 13	2 × 2	16	
P16	円形	13 × 11	3 × 2	24	

No	平面形状	幅員面積	基礎	深さ	備考
P17	円形	15 × 10	3 × 3	25	
P18	円形	14 × 13	8 × 8	38	
P19	楕円形	17 × 9	4 × 2	17	
P20	円形	11 × 9	3 × 2	22	
P21	円形	11 × 10	5 × 4	23	
P22	円形	26 × 16	7 × 5	37	
P23	円形	17 × 16	6 × 5	40	
P24	円形	17 × 16	6 × 6	38	
P25	円形	29 × 17	5 × 3	21	
P26	円形	10 × 8	5 × 3	20	
P27	円形	12 × 11	8 × 4	33	
P28	円形	15 × 12	5 × 3	36	
P29	円形	13 × 10	4 × 4	19	
P30	円形	16 × 10	2 × 2	10	
P31	円形	11 × 11	4 × 4	23	
B1	楕円形	125 × 77	76 × 19	8	

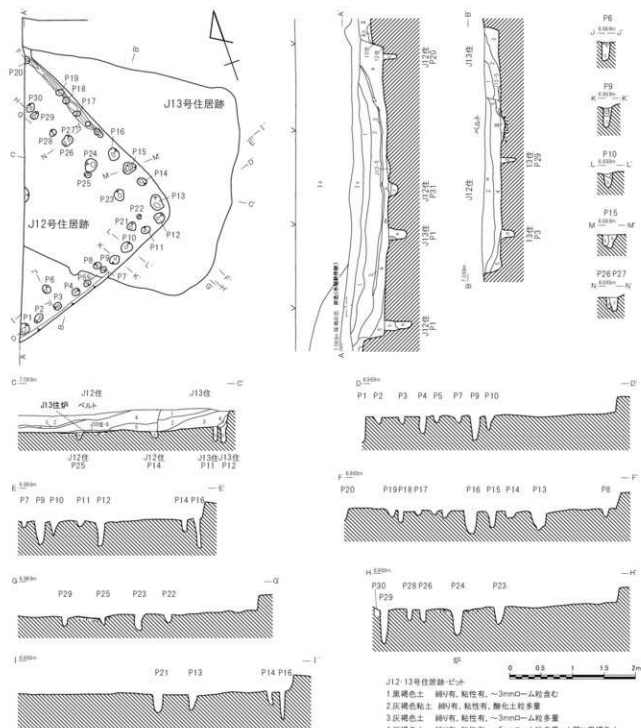
遺物出土状況図



炉



第36図 長宮遺跡第41地点J11号住居跡炉 (1/30)、遺物出土状況図 (1/60)



J12号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、表土Iと2層土が混ざったような粘土質の灰色味の黒褐色土
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒多、2cm以下ロームブロックやや多、5mm炭化物少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、粘性ある灰白色土(灰?)と1cm以下炭化物を多く含む薄層
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒やや多、5-10mm炭化物少し含む、色調は2層より黒色味強い
5. 黒褐色土 締り強、粘性強、5-10mmロームブロックやや多含む、3層よりローム粒少なめで黒色味が軟弱粘性強め

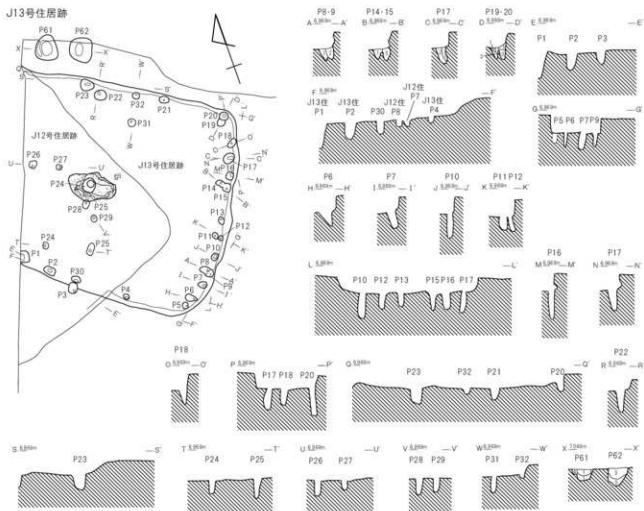
J13号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、J12住居跡より締り・粘性強めで5-20mmロームブロックを少し含むやや多含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒多、5-10mmロームブロック少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒やや多、5-10mmロームブロック少し含む
4. ロームローム粒少なめで、黒色味強い
5. 灰白色土 締り強、粘性強、黒褐色土ベースに地山の灰白色化したローム土を多く含む
6. 黒色土 締り強、粘性強、底面直上の薄層で、2mm以下微土・ローム粒少し含む

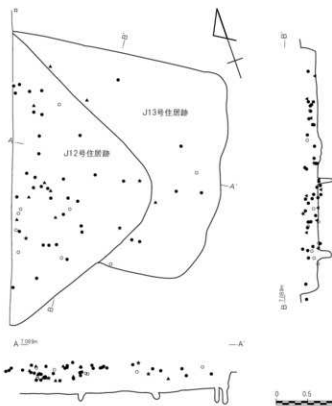
J12・13号住居跡-ピット

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒含む
 2. 灰褐色粘土 締り有、粘性有、酸化土粒多量
 3. 灰褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒多量
 4. 灰褐色土 締り有、粘性有、~5mmローム粒多量、上層に黒褐色土
- J12号住居跡-ピット31
- a. 黒褐色土 黒褐色土に~5mm灰褐色土やや多く混ざる
 - b. 黒褐色土 ~5mmローム粒少し含む、特徴的に~3mm鉄土少し含む
- J11-10-15
- a. 黒褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒含む
 - b. 灰褐色粘土 締り有、粘性有、酸化土粒多量
 - c. 灰褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒多量
- ピット20
- a. 灰褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒多量
- ピット6
- a. 黒褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒含む
 - b. 灰褐色粘土 締り有、粘性有、酸化土粒多量
 - c. 灰褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒多量
- ピット26
- a. 黒褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒含む
- ピット27
- a. 灰褐色土 締り有、粘性有、~3mmローム粒多量

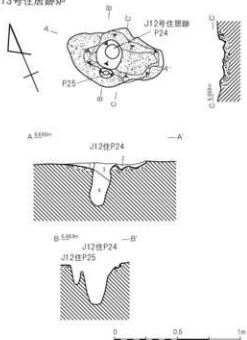
第37図 長宮遺跡第41地点J12・J13号住居跡(1/60)



遺物出土状況図



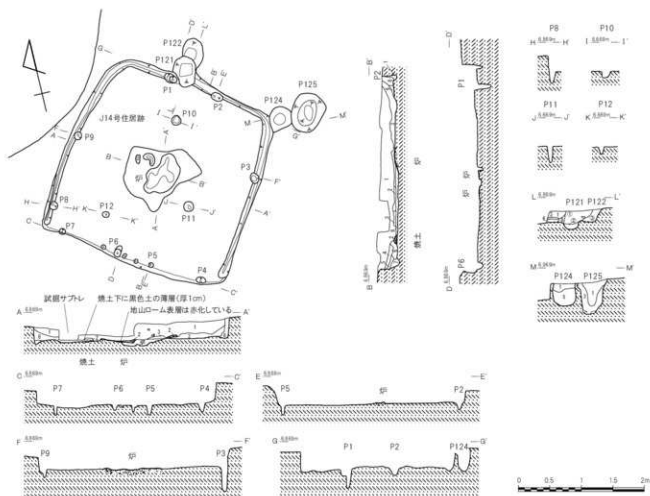
J13号住居跡炉



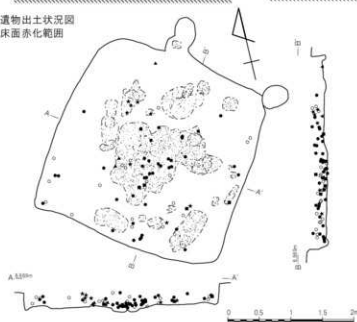
J13号住居跡炉

- ① 黒褐色土 締り強、粘性強、1~3mm□-△粒、5mm
塵土少し含む
- ② 灰色土 締り強、粘性強、5mm塵土多<含む
- 1 灰褐色土 締り有、粘性有、~3mm□-△粒多<含む
- 2 黒褐色土 締り有、粘性有、~3mm□-△粒含む

第 38 図 長宮遺跡第 41 地点 J12・J13 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、J13 号住居跡炉 (1/30)



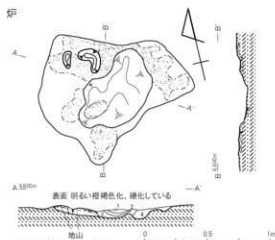
遺物出土状況図 床面赤化範囲



J14号住居跡

1. 褐色土 粘り強、粘性強、5mm以下灰白色ローム粒多く、3~10mm炭化物・5mm以下焼土少し含む、色調灰色味がある
2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下赤褐色焼土多く含む
3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く、5mm以下焼土やや多く含む、褐色味がある、5mm以下炭化物少し含む
4. 褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒・3~15mm焼土とや多く、しみに黒色焼土を少し含む
5. 灰白色土 粘り強、粘性有、灰白色ローム土を多く、3mm以下焼土・炭化物少し含む
6. 黒色土 粘り強、粘性有、炭化物由来と考えられる黒色土主体、5mm以下ローム粒や多く、3mm以下焼土少し含む
7. 黒褐色土 粘り強、粘性有、しみに灰白色ローム土を多く含む、灰色味がある
8. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5~10mmロームブロック・3mm以下ローム粒少しや多く含む

炉



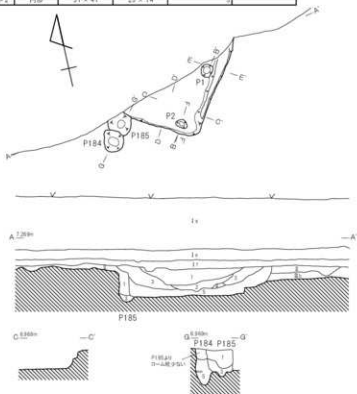
J14号住居跡ピット1~9・12

1. 黒褐色土 粘り有、粘性有、10mm以下ロームブロックや多く含む
- J14号住居跡ピット10
 1. 黒褐色土 粘り有、粘性有、色調明るいので10mm以下ロームブロック少し含む
- J14号住居跡ピット11
 1. 黒褐色土 粘り強、5mm以下ローム粒少し含む
- J14号住居跡ピット121・122
 - ① 褐色土 粘り強、粘性強、5mm以下灰白色ローム粒多く、3~10mm炭化物・5mm以下焼土少し含む、色調灰色味がある
 - ② 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下赤褐色焼土多く含む
 - ③ ①と同し、ロームブロック少ない
- J14号住居跡炉
 1. 赤褐色土 粘り有、粘性有、シルト質の赤褐色焼土主体、5~10mm焼土ブロックや多く含む
 2. 灰白色土 粘り有、粘性有、明るい灰白色の薄層、しみに焼土を多く含む
 3. 褐色土 粘り強、粘性有、灰色味ある赤褐色土主体、5mm以下赤褐色・褐色焼土多く含む
 4. 黒褐色土 粘り有、粘性有、黒色土を多く含む、10mm以下ロームブロックやや多く含む

第39図 長宮遺跡第41地点 J14号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、炉 (1/30)

第11表 長宮遺跡第41地点J11号住居跡遺構一覧表(単位:cm)

No.	平面形状	幅員長さ	進捗	深さ	備考
P1	溝状	14 × 7	5 × 2	34	
P2	凹形	17 × 16	5 × 8	42	
P3	凹形	17 × 16	6 × 4	40	
P4	方形	16 × 14	11 × 10	36	
P5	凹形	10 × 6	5 × 2	12	土層
P6	凹形	10 × 9	4 × 3	14	
P7	凹形	10 × 10	4 × 4	16	
P8	凹形	9 × 9	3 × 4	8	
P9	凹形	15 × 12	4 × 4	39	
P10	凹形	21 × 17	11 × 7	42	
P11	方形	24 × 15	12 × 7	19	
P12	凹形	16 × 14	7 × 5	17	
P13	凹形	22 × 20	6 × 6	57	
P14	凹形	10 × 8	4 × 3	23	
P15	凹形	17 × 9	5 × 2	40	
P16	凹形	15 × 12	5 × 4	10	
P17	箱型	25 × 12	9 × 6	25	
P18	凹形	17 × 11	8 × 5	10	
P19	凹形	14 × 14	7 × 6	26	
P20	凹形	31 × 28	5 × 5	39	土層
P21	凹形	11 × 8	3 × 3	16	
P22	溝状	20 × 7	12 × 3	16	
P23	凹形	14 × 13	6 × 6	37	
P24	凹形	13 × 11	5 × 4	10	
P25	凹形	14 × 13	5 × 2	21	
P26	凹形	17 × 14	8 × 4	42	
P27	凹形	10 × 10	6 × 4	7	
P28	凹形	15 × 10	5 × 4	12	
P29	凹形	13 × 9	6 × 4	17	
P30	凹形	12 × 11	5 × 5	18	
P31	凹形	14 × 8	5 × 4	6	
P32	凹形	25 × 20	10 × 7	42	
P33	凹形	11 × 11	3 × 3	16	
P34	凹形	9 × 9	2 × 3	17	
P35	凹形	60 × 31	18 × 11	6	石垣
SP2	凹形	51 × 41	25 × 14	5	



J15号住居跡

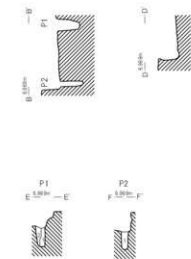
- 1 黒褐色土 粘り強、粘性強、色調灰色味あり明い、灰白色化した5mm以下ローム粒やや多く含む
- 2 灰白色土 粘り強、粘性強、灰色味ある黒褐色土へ2cm以下灰白色ロームブロック多く含む
- 3 黒褐色土 粘り強、粘性強、5mm以下灰白色ローム粒多く含む、色調灰色味がある
- 4 黒褐色土 粘り強、粘性強、2cm黄褐色ロームブロック間2-5mmローム粒やや多く含む
- 5 黒褐色土 粘り強、粘性強、1cm以下ロームブロックローム粒やや多く含む、上層より黒色味強い
[1] 黄灰色土(灰色味ある黒褐色土) 粘り強、粘性強、5mm以下ローム粒やや多く、2cm以下灰色土少し含む、粘土目立ち、[e]より褐色味がある

P10-1-2

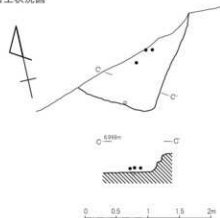
- 1 黒褐色土 粘り強、粘性強、色調灰色味がある、5mm以下ローム粒やや多い
- 2 黄灰色土 粘り強、灰色味ある、黒褐色土主体に2cm以下ロームブロック多く含む

第12表 長宮遺跡第41地点J12号住居跡ピット一覧表(単位:cm)

No.	平面形状	幅員長さ	進捗	深さ	備考
P1	方形	13 × 15	8 × 7	41	
P2	凹形	16 × 10	5 × 4	11	
P3	方形	12 × 10	4 × 4	13	
P4	凹形	12 × 11	4 × 4	20	
P5	凹形	12 × 8	5 × 3	13	
P6	凹形	15 × 12	5 × 4	38	
P7	凹形	10 × 8	4 × 4	11	
P8	凹形	13 × 10	4 × 2	13	
P9	凹形	15 × 13	4 × 4	38	
P10	凹形	18 × 15	6 × 4	24	
P11	凹形	15 × 11	5 × 3	10	
P12	凹形	18 × 15	4 × 4	38	
P13	凹形	25 × 18	15 × 12	30	
P14	凹形	18 × 11	8 × 5	11	
P15	凹形	20 × 18	5 × 4	27	
P16	凹形	18 × 17	8 × 4	39	
P17	凹形	12 × 8	4 × 3	8	
P18	凹形	11 × 10	5 × 4	27	
P19	凹形	13 × 8	4 × 3	13	
P20	方形	11 × 7	4 × 4	23	
P21	凹形	18 × 14	6 × 3	2	
P22	溝状	7 × 7	4 × 2	13	
P23	凹形	16 × 15	6 × 5	26	
P24	凹形	21 × 18	8 × 7	40	
P25	凹形	11 × 8	4 × 3	13	
P26	凹形	12 × -	4 × 3	20	
P27	方形	15 × -	5 × 5	30	
P28	凹形	13 × 10	3 × 3	20	
P29	凹形	15 × 11	6 × 4	55	
P30	凹形	13 × 12	5 × 3	14	
P31	方形	22 × 7	-	14	



遺物出土状況図



第40図 長宮遺跡第41地点J15号住居跡遺物出土状況図(1/60)

第13表 長宮遺跡第41地点J13号住居跡遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形状	確認面積	遺構	深さ	備考
P1	半圓形	15 × 13.2	13 × 6	32	
P2	円形	19 × 12	8 × 5	25	
P3	円形	17 × 14	4 × 3	23	
P4	円形	9 × 9	5 × 3	10	
P5	円形	10 × 9	2 × 2	14	
P6	半圓形	19 × 11	2 × 2	24	
P7	円形	15 × 10	5 × 3	27	
P8	円形	132 × 10	4 × 2	22	
P9	円形	13 × 102	2 × 2	23	
P10	円形	12 × 9	8 × 4	38	
P11	円形	10 × 8	2 × 2	22	
P12	円形	7 × 7	3 × 2	23	
P13	円形	12 × 8	3 × 2	26	
P14	方形	123 × 9	3 × 3	21	
P15	円形	14 × 122	3 × 2	29	
P16	円形	13 × 12	6 × 5	44	
P17	円形	19 × 14	10 × 5	32	
P18	円形	17 × 10	3 × 2	26	
P19	円形	12 × 131	6 × 2	22	
P20	円形	19 × 131	5 × 4	43	
P21	円形	16 × 10	3 × 3	20	
P22	円形	19 × 16	7 × 5	33	
P23	円形	20 × 18	8 × 4	23	
P24	方形	11 × 9	4 × 3	21	
P25	方形	19 × 10	4 × 4	33	
P26	円形	13 × 12	4 × 3	25	
P27	円形	9 × 8	5 × 3	18	
P28	円形	15 × 11	3 × 2	29	
P29	円形	11 × 10	5 × 3	25	
P30	円形	16 × 10	6 × 3	28	
P31	円形	12 × 12	3 × 3	26	
P32	円形	11 × 10	2 × 2	8	
SP	楕円形	77 × 48	11 × 11	40	

第14表 長宮遺跡第41地点J14号住居跡遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形状	確認面積	遺構	深さ	備考
P1	円形	21 × 14	3 × 3	30	
P2	円形	20 × 13	3 × 3	13	
P3	円形	17 × 14	11 × 7	57	
P4	円形	16 × 10	3 × 2	13	
P5	円形	8 × 7	4 × 2	16	
P6	円形	19 × 10	3 × 2	11	
P7	円形	9 × 9	2 × 2	15	
P8	円形	12 × 11	3 × 3	21	
P9	円形	12 × 13	3 × 3	7	
P10	円形	15 × 14	11 × 9	11	
P11	円形	15 × 15	7 × 4	20	
P12	円形	11 × 9	2 × 2	13	
SP	半圓形	124 × 97	18 × 29	13	テラス

溝3は調査区中央、東西方向に位置し、溝1より古い。北側が浅く、南側で一段深くなる。7.1m検出した。上幅45～80cm、下幅5～30cm、確認面からの深さ24cm。近世陶磁器が出土した。

溝4は溝1の40cm東に平行する。土坑14の付近で立ち消える。2.7m検出した。上幅35～50cm、下幅15～25cm、確認面からの深さ8cm。

(5) 井戸

1基検出した。近代以降の井戸である。

(6) 土坑・ピット

土坑27基、ピット190基検出した。

土坑3・7・8・13・14・17・27から縄文土器が出土した。土坑9からは近世遺物が出土した。

土坑10～12は重複しあう一群の土坑群。

土坑14・16～22・25・26も一群の土坑群で重複しあう。底面は灰色の粘土層に達し、粘土採掘坑の可能性がある。

第15表 長宮遺跡第41地点J15号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形状	確認面積	遺構	深さ	備考
P1	円形	21 × 19	12 × 10	43	
P2	円形	19 × 13	8 × 6	37	壁

第16表 長宮遺跡第41地点遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形状	確認面積	遺構	深さ	備考
伊伏1	半圓形	120 × 74	87 × 55	12	
伊伏2	半圓形	171 × 238	62 × 228	10	
伊伏3	半圓形	110 × 89	97 × 52	28	土牆、テラス
伊伏4	半圓形	132 × 89	62 × 60	25	土牆、壁
伊伏5	半圓形	97 × 132	40 × 60	7	土牆
伊伏6	楕円形	143 × 83	52 × 32	22	土牆
伊伏7	半圓形	127 × 99	85 × 27	14	土牆、テラス
伊伏8	半圓形	139 × 89	80 × 60	20	土牆
伊伏9	半圓形	148 × 171	132 × 159	43	土牆
伊伏10	半圓形	88 × 83	45 × 38	13	
土坑1	円形	106 × 105	90 × 89	59	土牆、壁
土坑2	円形	90 × 64	55 × 15	6	
土坑3	円形	56 × 44	8 × 8	4	
土坑4	円形	60 × 47	37 × 8	4	
土坑5	円形	54 × 40	19 × 13	6	
土坑6	半圓形	181 × 234	146 × 226	9	
土坑7	楕円形	132 × 85	110 × 62	148	土牆、石壁
土坑8	楕円形	148 × 89	60 × 31	130	土牆、石壁、壁
土坑9	円形	79 × 70	61 × 56	30	
土坑10	長方形	86 × 54	74 × 39	24	
土坑11	円形	81 × 69	70 × 94	19	土牆
土坑12	半圓形	68 × 146	53 × 140	23	
土坑13	円形	88 × 81	74 × 68	18	
土坑14	楕円形	91 × 80	78 × 30	25	
土坑15	半圓形	129 × 89	79 × 31	17	土牆、壁
土坑16	円形	77 × 74	60 × 53	35	土牆
土坑17	円形	315 × 308	150 × 155	75	土牆、階段
土坑18	楕円形	134 × 70	100 × 36	50	
土坑19	半圓形	101 × 70	70 × 28	42	
土坑20	半圓形	132 × 84	118 × 30	32	
土坑21	半圓形	11 × 14			
土坑22	長方形	156 × 117	103 × 123	14	土牆
土坑23	長方形	124 × 83	97 × 55	32	
土坑24	半圓形	216 × 197	114 × 80	42	石牆
土坑25	半圓形	245 × 215	195 × 184	31	土牆、壁
土坑26	楕円形	212 × 100	50 × 39	66	
土坑27	半圓形	290 × 85	231 × 37	54	壁
土坑28	半圓形	242 × 239	190 × 241	31	
土坑29	円形	141 × 81	75 × 48	31	
土坑30	半圓形	300 × 170	251 × 153	31	
土坑31	円形	137 × 115	46 × 15	39	
土坑32	半圓形	139 × 170	75 × 143	48	
土坑33	半圓形	132 × 115	95 × 44	47	
土坑34	半圓形	168 × 135	130 × 144	27	
土坑35	楕円形	121 × 74	97 × 47	32	土牆

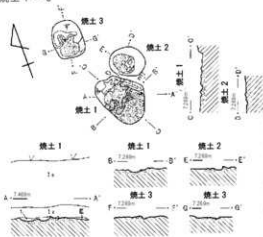
(7) 出土遺物

J10号住居出土遺物

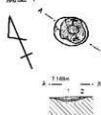
1は、口縁部は一部欠損、胴部も一部欠損するが、全周している。口径31.5cm。器面の剥落が激しい。口唇部には幅1cmの5・6個の貼付突起群が4カ所、3個の貼付突起群が1カ所、1個の貼付突起が1カ所、幅3cmの1個の貼付突起がある。地に組紐RRLを全面施文の後、①口唇部直下より4本単位の櫛歯工具で鋸歯文、②8本単位の櫛歯状のコンパス文、③4～6本単位の櫛歯状工具による鋸歯文を施文後、右上からの刺突文を加えている。(1カ所に沈線で縦に引く、また1カ所に刺突で山形を加える)、④8本単位の櫛歯のコンパス文、③と④の間を組紐帯を③'とすると、①②③③'④は等間隔に区画されている。刺突文は、神ノ木式の影響を受けたものであろう。

2は、口縁部1/4現存。口径(推)34cm。二股波頂を4単位で全面組紐LLRRを施したものの。器面は風

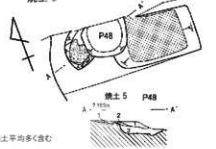
焼土 1～3



焼土 4



焼土 5



焼土 1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土平均多く含む

焼土 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土やや多く、1mm以下ローム粒少し含む

2. 赤褐色土 締り強、粘性有、シルト質の焼土主体

焼土 5

1. 灰褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土にシタ状の焼土を多く含む

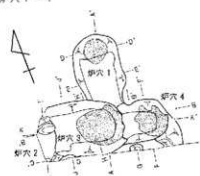
ピット 48

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3～10mmロームブロック・粒やや多く含む、酸化土が目立つ

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、焼土面から流れ込む3mm以下焼土多く含む、赤灰色味が有る

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より黒色味が強い、5mm以下ローム粒やや多く、5mm以下焼土少し含む、酸化土が目立つ

炉穴 1～4



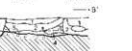
炉穴 3



炉穴 1



炉穴 4



炉穴 2



炉穴 1



炉穴 4



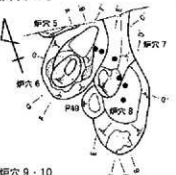
炉穴 3



炉穴 2



炉穴 5～8



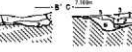
炉穴 5



炉穴 6



炉穴 7



炉穴 8



炉穴 6



炉穴 7



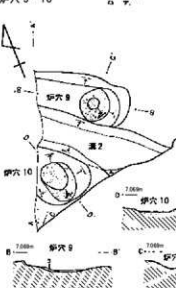
炉穴 8



炉穴 6



炉穴 9・10



炉穴 6



炉穴 7



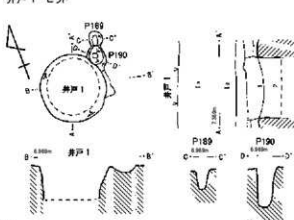
炉穴 8



炉穴 6



井戸・ピット



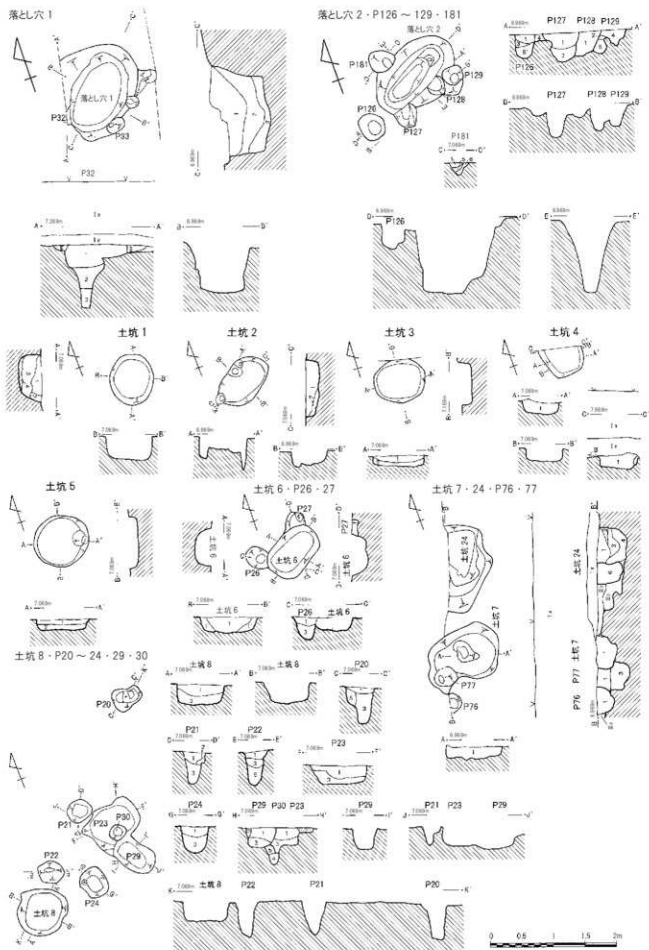
井戸 1

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、粘土質、遺入物は5mm以下炭化物程か含むのみ、中酸化が目立つ

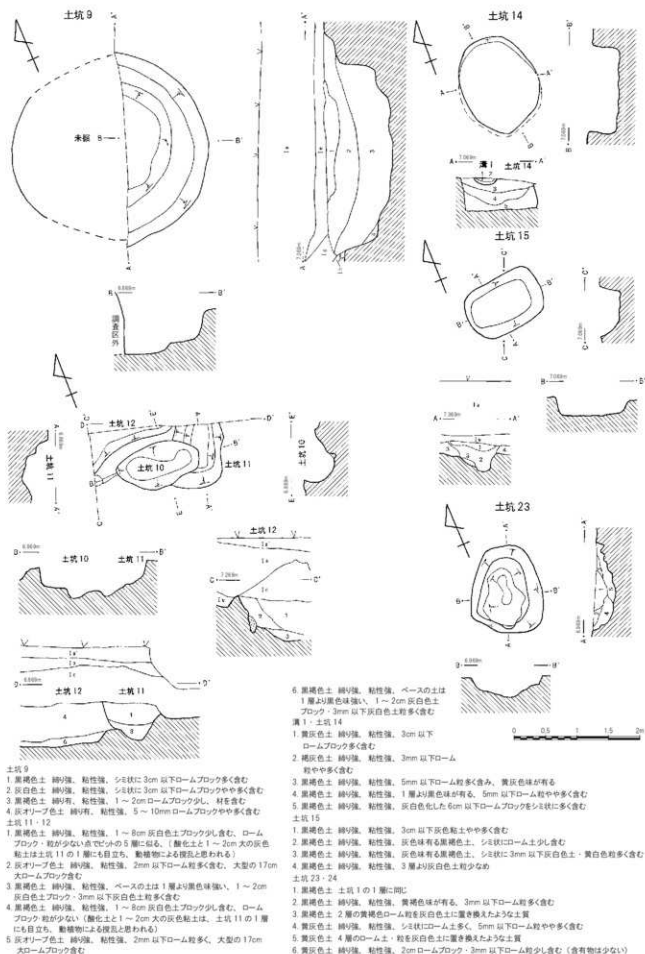
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、シタ状に5cm以下灰白色土・ブロックを上部に多く含む、上層より酸化が目立つ

0 0.5 1 1.5 2m

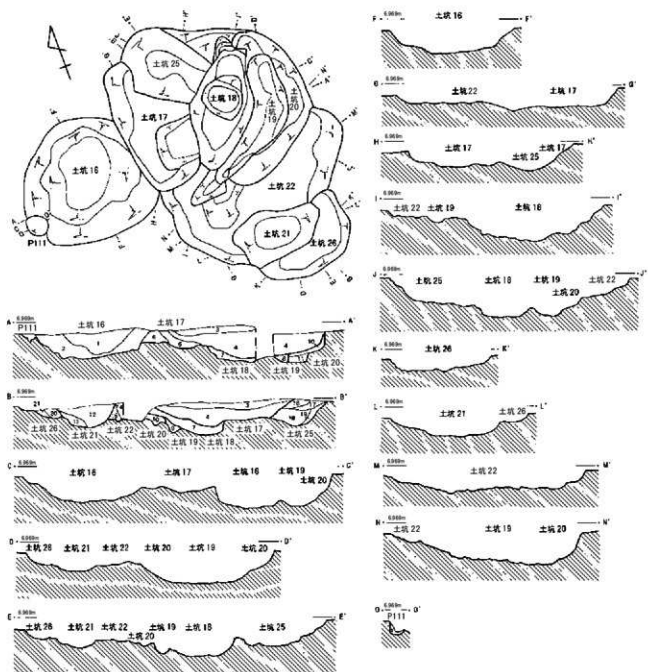
第41図 長宮遺跡第41地点焼土・炉穴・井戸・ピット (1/60)



第42図 長宮遺跡第41地点落とし穴・土坑・ピット (1/60)



第43図 長宮遺跡第41地点土坑(1/60)



土坑 16

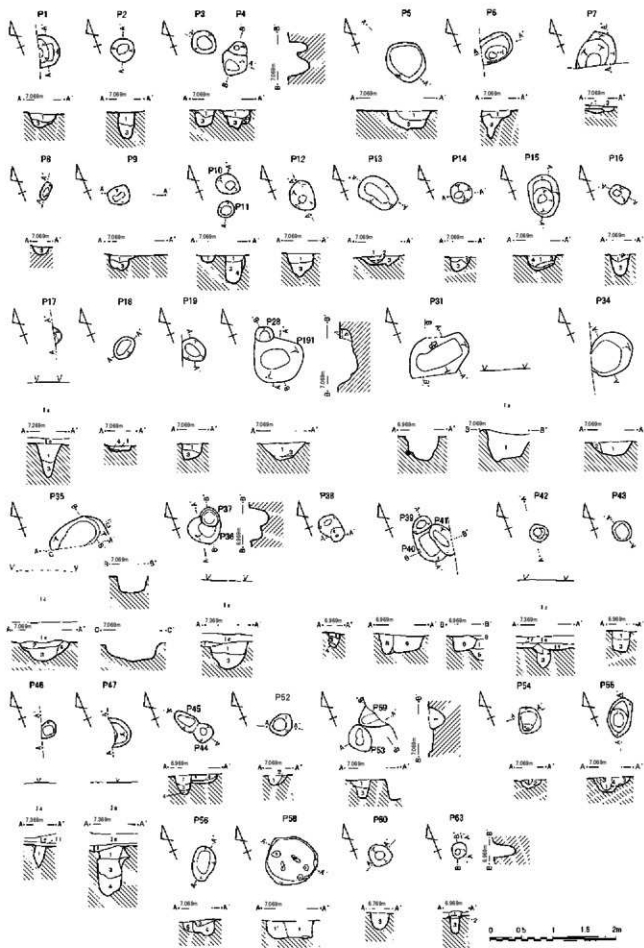
- 1 黒褐色土 粘り強、粘性强、2mm以下灰白色ローム粒少し含む
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性强、2mm以下灰白色ローム粒やや多く含む
- 土坑 17
- 3 黒褐色土 粘り強、粘性强、3mm以下灰白色ローム粒やや多く含む
- 4 黒褐色土 粘り強、粘性强、3mm以下灰白色ローム粒少し含む、縄文時代の遺物を含む
- 5 黒褐色土 粘り強、粘性强、1cm以下灰白色ロームブロック・3mm以下灰白色ローム粒やや多く含む
- 6 黒褐色土 粘り強、粘性强、1cm以下灰白色ロームブロック・粒3層より多く含む
- 土坑 18
- 7 黒褐色土 粘り強、粘性强、ベースの土は土坑 17より黒色味強いが、5mm以下ローム粒やや多く含む、全体の色調は土坑 17より黄色味がある
- 土坑 19
- 8 黒褐色土 粘り強、粘性强、2mm以下ローム粒少し含む
- 9 黒褐色土 粘り強、粘性强、1cm以下灰白色ローム粒を多く含む
- 土坑 20
- 10 黒褐色土 粘り強、粘性强、灰白色ロームをシミ状に多く、2cm以下灰白色ロームブロック少し含む
- 11 灰白色土 粘り強、粘性强、灰白色のローム主体、3cm以下ロームブロック、シミ状に黒褐色土を少し含む、1層より灰色味強い
- 土坑 21
- 12 黒褐色土 粘り強、粘性强、5mm以下ローム粒少し含む
- 13 黒褐色土 粘り強、粘性强、1cm以下ロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含む

土坑 22

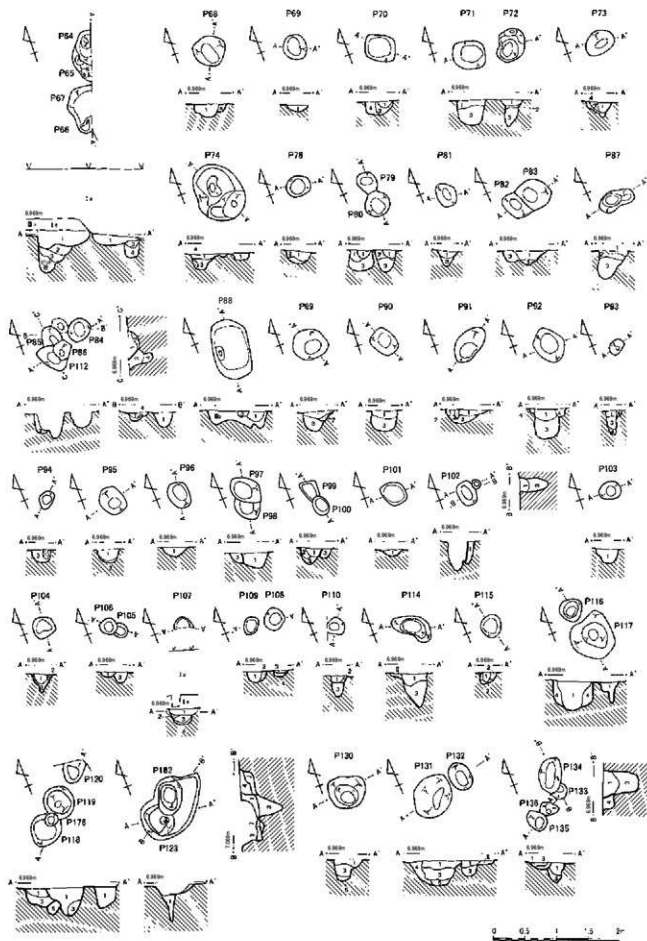
- 14 黒褐色土 粘り強、粘性强、1cm以下灰白色ロームブロック・3mm以下灰白色ローム粒やや多く含む
- 15 黒褐色土 粘り強、粘性强、2mm以下ローム粒多く含む
- 土坑 25
- 16 黒褐色土 粘り強、粘性强、2mm以下黄白色ローム粒やや多く、2層より色調明るい
- 17 黒褐色土 粘り強、粘性强、2mm以下灰白色ローム粒・数層のローム粒多く含む、色調明るい
- 18 黒褐色土 粘り強、粘性强、ベースの土は黒色味強い、5mm以下灰白色ローム粒少し含む
- 19 黒褐色土 粘り強、粘性强、5mm以下黄白色ローム粒多く含む
- 土坑 26
- 20 黒褐色土 粘り強、粘性强、1cm以下シミ状ロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含む
- 21 黄灰色土 粘り強、粘性强、黒褐色土主体に、シミ状のローム土を多く含む

0 0.5 1 1.5 2m

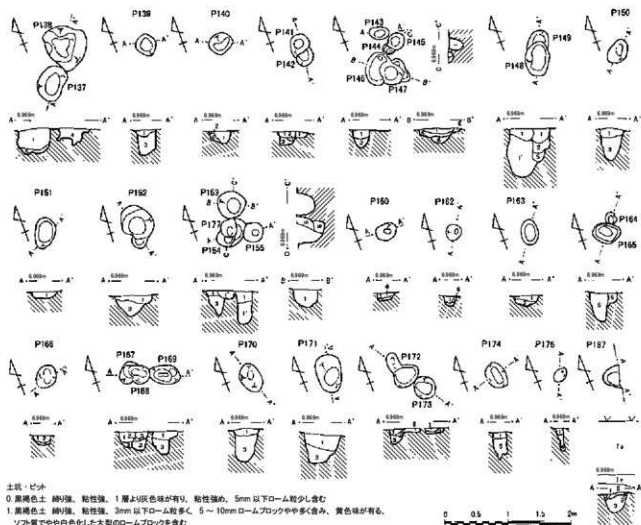
第44図 長宮遺跡第41地点土坑・ピット (1/60)



第45図 長宮遺跡第41地点ピット① (1/60)



第46図 長宮遺跡第41地点ピット② (1/60)



土質・ピット

- 0 黒褐色土 締り強、粘性強、1層より灰色味が有り、粘性強め、5mm以下ローム粒少し含む
- 1 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒多く、5～10mmロームブロックやや多く含む、黄色味が有る、ソラ質でやや白色化した大型のロームブロックを含む
- 1' 黒褐色土 締り強、粘性強、1層に広がるが2m大ロームブロック、5mm以下ローム粒をより多く含む
- 2 黄灰色土 締り強、粘性強、(基本的には3層の上)ローム土を多く含む、5～10mmロームブロックやや多く含む
- 3 黒褐色土 締り強、粘性強、色調は1層より、黒色味強い、5～30mmロームブロックやや多く含む
- 4 黄灰色土 締り強、粘性強、黒褐色土とローム土が混ざったような色調、5～10mmロームブロックやや多く含む
- 5 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒少し含む、3層よりロームブロックは少ない
- 5' 但し4cm以下灰色粘土多い
- 6 黒褐色土主体 締り強、粘性強、5～20mmロームブロック多く含む
- 7 均一黄褐色土 締り強、粘性強、灰色味有るローム土主体、シミに黒褐色土を含む
- 8 黄灰色土 締り強、粘性強、粘性性に強い、灰白色化した5mm以下ローム粒多く、1cm大ロームブロック少し含む
- 9 黒灰色土 締り強、粘性強、1層より黄色味が有る、灰白色化した3mm以下ローム粒やや多く含む
- 10 黄灰色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 11 黄灰色土 締り強、粘性強、2cmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む(含む物は少ない)

第47図 長宮遺跡第41地点ピット③ (1/60)

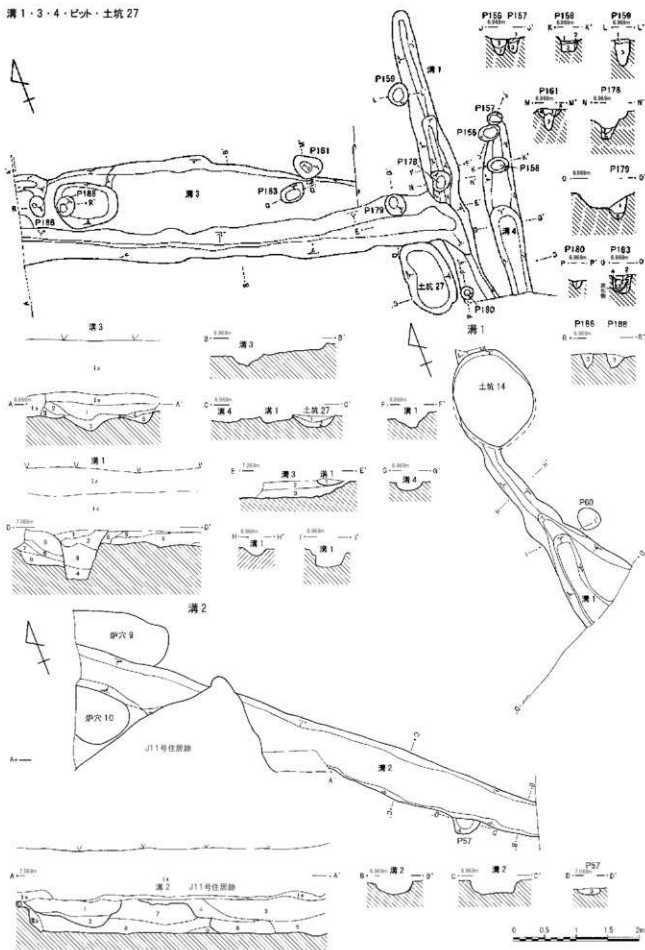
化が激しい。コンパス文等は施文されていないようである。3は、口縁部2/3現存。口径28cm。直線的な半楕円の4単位波状口縁。全面組紐LLRRを施し、口縁直下と同部最大径の箇所に4単位の櫛歯状工具によるコンパス文を施文。

4は、片口土器。口縁部一部欠損するが、破片は全周する。底部はなし。口径(推)22.5cm。片口の幅は1cmで、現状では大人の指はぎりぎりでは入らない。焼成により縮んだものと思われる。口唇部直下からLR単節の端末ループ文を7段ほど横位に施す。端末ループは大きめの円をなし、半裁竹管の爪形文に似せているものか。その下には4段の端末ループ文で鋸

歯文をつくり、片口部直下は乱れるが全周し5単位となる。鋸歯文の間には端末ループの原体による横位にLRの単節斜縄文を密に施す。以下、横位の4段ループ文、3段のループ文による鋸歯文と施文がうかがえる。

5は、口径14.5cm。器高15cm。ほぼ全面RLとLRの単節による第1種結節による羽状縄文が施される。6は、付台付浅鉢で、内外面ともに非常に丁寧にみがかれている。文様は外面に付けられ、半裁竹管による2本単位で施文されるが、一部重ねて3本単位となる部分がある。地文には全面組紐が施文されているが擦れている。

溝1・3・4・ピット・土坑 27



第48図 長宮遺跡第41地点土坑・ピット・溝 (1/60)

伊伏 1

1. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒・粘土多量含む。全体にローム澱じで褐色味がある
2. 黄褐色土 砂質。粘性有。5mm大塊土多量含む
3. 黄褐色土 砂質。粘性有。1層より褐色味がある。2mm以下ローム粒多量、2mm以下微土少し含む
4. 黒褐色土 砂質。粘性有。3mm以下ローム粒や多く含む。3層より褐色味強い
- 伊伏 2
1. 黒褐色土 砂質。粘性有。2mm以下暗褐色・赤褐色塊土や多く含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下赤褐色塊土多量含む
3. 黒褐色土 砂質。粘性有。シズ状にローム土や多く含む
3. 赤褐色土 砂質。粘性有

伊伏 3

1. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒・粘土や多く含む
1. 黒褐色土 砂質。粘性有。量入物少ない。1mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒・粘土や多く含む
3. 黒褐色土 砂質。粘性有。黒褐色土主体にシズ状にローム土・微土を多く含む。5mm以下微土粒多量含む
4. 黒褐色土 砂質。粘性有。シズ状に5mm以下ローム粒多量含む。褐色味がある
5. 黒褐色土 砂質。粘性有。1cm以下ロームブロック・微土多量含む

伊伏 4

1. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒や多く。3mm以下微土少し含む(伊伏3の1層より色調異なる)
2. 黒褐色土 砂質。粘性有。1mm以下ロームの細粒多量含む。黄色味がある。3mm以下ローム粒・微土や多く含む
3. 褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒多量。5mm以下微土少し含む
4. 黄褐色土 砂質。粘性有。ローム土主体。シズ状に5mm以下微土少し含む

伊伏 5

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。3mm以下ローム粒・粘土や多く含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。3mm以下ローム粒多量。3mm以下微土少し含む

伊伏 6

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。5mm以下ローム粒・粘土や多く含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。5mm以下ローム粒・粘土や多く含む。1層よりロームの細粒が少なく。褐色味強い
3. 黒褐色土 砂質。粘性強。5mm以下微土や多く含む。2層より褐色味強い
4. 黒褐色土 砂質。粘性強。5mm以下微土多量含む
5. 灰白色土 砂質。粘性強。白色味があるローム土主体
6. 黄灰色土 砂質。粘性強。シズ状に黄灰色の微土を多く含む

伊伏 7

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。黄灰色味がある。5mm以下ローム粒多量。5mm以下微土少し含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性有。シズ状に1cm大ロームブロック・1cm大塊土少し含む
3. 黄褐色土 砂質。粘性強。シズ状に3mm以下ローム粒や多く。3mm以下微土少し含む

伊伏 8

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。2mm以下ローム粒多量。3mm以下微土少し含む
2. 赤褐色土 砂質。粘性強。塊土主体。黄灰色土をシズ状に少し含む

伊伏 9

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。3mm以下ローム粒や多く含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。3mm以下ローム粒多量含む
3. 黒褐色土 砂質。粘性強。2cm以下灰白色土をシズ状に。2mm以下微土や多く含む

伊伏 9・10・溝 2

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。粘土質。3mm以下ローム粒や多く含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。粘土質。灰色味がある。3mm以下ローム粒少し含む
3. 緑色土 砂質。粘性強。粘土質。黒褐色土ペースで5cm緑灰色粘土ブロック主体
4. 黒褐色土 砂質。粘性強。3mm以下ローム粒・緑灰色粘土粒多量含む
5. 黒褐色土 砂質。粘性強。2～5cm緑灰色粘土ブロック。1～3cmロームブロックや多く含む
6. 黒褐色土 砂質。粘性強。1cm以下ロームブロック・粒・緑灰色粘土少し含む

伊伏 10

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。1mm以下ロームの細粒や多く含む。黄灰色味がある
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。1mm以下ローム粒や多く含む
3. 黒褐色土 砂質。粘性強。5～20mmロームブロック少し。5mm以下ローム粒や多く含む
4. 黒褐色土 砂質。粘性強。1mm以下ローム粒少し含む

溝と穴 1

1. 黒褐色土 砂質有。粘性強。5～30mm灰白色ロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 白色土 砂質。粘性強。黒褐色土を主体に灰白色化したローム土を多く含む
3. 黒褐色土 砂質有。粘性強。5～10mmロームブロック少し含む
全体に植物根状の酸化土が目立つ

溝と穴 2

1. 黒褐色土 砂質有。粘性強。5～30mm灰白色ロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。シズ状に灰白色土を多く含む。5～40mmロームブロック少し含む
3. 黒褐色土 砂質。粘性強。シズ状に灰白色土。5mm以下ローム粒や多く含む

土坑 1

1. 黒褐色土 砂質。粘性有。2mm以下ローム粒や多く。色調明るい
2. 黒褐色土 砂質。粘性有。2mm以下ローム粒少し含む。色調やや灰色味がある
3. 黒褐色土 砂質。粘性有。3mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 砂質。粘性有。2mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒。2～10mm塊土ほ土器片や多く含む
5. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒や多く含む
6. 黒褐色土 砂質。粘性有。5mm以下ローム粒少し含む。褐色味強い
7. 黒褐色土 砂質。粘性有。ソフトローム土や2cm以下ロームブロック多量含む
8. 黄褐色土 砂質。粘性有。ソフトローム土をペースロームブロック主体。酸化腐葉土の可能性がある

土坑 2

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。1cm大ロームブロック多量含む
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。1層より褐色味有る。5mm以下ローム粒や多く含む。5cm以下ロームブロック少し含む

土坑 4

1. 土坑 3の2層と同じ酸化土が目立つ
1. 黒褐色土 砂質。粘性強。色調は灰色味有る。シズ状に1cm大ロームブロック。1mm以下ローム粒少し含む
2. 黄灰色土 砂質。粘性強。黒褐色土主体にシズ状のローム土を多く含む

溝 1 D-D'

1. 黄灰色土 砂質。粘性強。5～15mmロームブロックや多く含む。酸化土目立つ
2. 黄灰色土主体 砂質。粘性強。5mm以下ロームブロック主体
3. 黒褐色土 砂質。粘性強。5～50mmロームブロックや多く含む。酸化土目立つ。灰色味も有る

4. 黒褐色土 砂質有。粘性強。倉庫してお掃除し層より強い。5mm以下ローム粒や多く含む
5. 黒褐色土主体 砂質。粘性有。5～50mmロームブロック。幅かな1mm以下ローム粒多量含む

6. 黒褐色土 砂質。粘性強。5～10mmロームブロック少し含む
7. 淡黄褐色土 砂質。粘性強。黄褐色土と灰白色化したローム土が混ざる

8. 黒褐色土 砂質。粘性強。3cm以下ロームブロックシズ状にや多く含む
9. 黒褐色土 砂質。粘性強。5mm以下ローム粒少し含む。やや酸化土目立つ

溝 2 A-A'

1. 黒褐色土 砂質。粘性強。5mm以下ローム粒多量含む。全体の色調は褐色味がある
2. 黒褐色土 砂質。粘性強。灰色味有る黒褐色土。5mm以下ローム粒多量含む
3. 灰色土 砂質。粘性強。粘土質。5cm以下灰褐色土をシズ状にや多く含む
4. 灰色粘土主体 砂質。粘性強。ブロック状の緑灰色粘土主体
5. 黒褐色土 砂質。粘性有。灰色味有る黒褐色土。粘土化した黄褐色ロームをや多く含む
6. 黒褐色土 砂質。粘性強。灰色味有る黒褐色土主体に。粘土化した3cm以下黄褐色ロームブロックを多く含む。ややポリボリしている
7. 黒褐色土 砂質。粘性強。灰色味有る黒褐色土。3mm以下ローム粒多量含む
8. 黒褐色土 砂質。粘性強。褐色味強い。4cm以下ロームブロック少し。5mm以下ローム粒多量含む。3～10mm炭化物。縄文遺物や多く含む
9. 8層より褐色味がある。5mm以下ローム粒多量含む。3～10mm褐色土・5mm以下炭化物少し含む

溝 3 A-A'

1. 黄灰色土 砂質。粘性強。1cm以下灰白色ロームブロック多量含む
2. 黄灰色土 砂質。粘性強。3mm以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 砂質。粘性強。1～3cmロームブロック少し含む
4. 黒褐色土 砂質。粘性強。シズ状に灰色粘土を多く含む
5. 黒褐色土 砂質。粘性強。色調黄灰色味が有るシルト質。3mm以下ローム粒少し含む

溝 1・溝 3 E-E'

1. 褐色土 砂質。粘性強。2mm以下ローム粒少し含む
2. 褐色土 砂質。粘性強。5mm以下灰色粘土粒・3mm以下ローム粒や多く含む
3. 褐色土 砂質。粘性強。1層より褐色味がある。5mm以下ローム粒や多く含む

第17表 長宮遺跡第41地点ピット一覧表(単位:cm)

No.	平面的位置	縦断番号	深さ	長さ	幅
P1	平野	51 × 127	13 × 33	33	
P2	西側	38 × 35	18 × 15	45	
P3	西側	37 × 37	24 × 20	33	
P4	西側	40 × 38	23 × 17	33	
P5	西側	58 × 58	24 × 47	55	
P6	平野	122 × 45	11 × 10	41	
P7	西側	33 × 30	22 × 20	25	土器、漆
P8	西側	28 × 14	18 × 4	11	土器
P9	西側	34 × 28	20 × 9	24	
P10	西側	38 × 32	14 × 13	50	
P11	西側	37 × 25	17 × 14	14	
P12	西側	48 × 43	12 × 10	11	
P13	東側	54 × 41	44 × 19	73	
P14	西側	33 × 32	18 × 19	33	
P15	掘削部	86 × 48	19 × 11	28	土器
P16	西側	25 × 28	11 × 10	28	
P17	平野	21 × 125	19 × 49	33	
P18	西側	40 × 28	29 × 18	11	
P19	西側	44 × 20	27 × 19	21	
P20	掘削部	49 × 27	12 × 8	60	
P21	西側	39 × 37	11 × 7	54	土器
P22	西側	45 × 30	17 × 7	38	
P23	西側	88 × 60	88 × 47	53	土器
P24	西側	47 × 42	28 × 20	45	
P25	西側	29 × 22	8 × 8	38	
P26	西側	120 × 52	13 × 13	38	
P27	平野	30 × 120	8 × 7	20	
P28	西側	28 × 120	17 × 16	18	
P29	西側	29 × 44	49 × 26	24	
P30	西側	29 × 28	18 × 14	18	
P31	東側	81 × 60	75 × 30	51	土器、漆、陶瓦
P32	西側	138 × 61	—	—	
P33	西側	39 × 19	7 × 5	41	
P34	西側	19 × 43	53 × 47	24	
P35	西側	90 × 45	65 × 36	41	
P36	平野	10 × 120	28 × 116	18	
P37	西側	31 × 28	19 × 16	30	
P38	西側	49 × 33	2 × 2	23	
P39	西側	52 × 22	18 × 11	28	
P40	平野	52 × 100	37 × 100	39	
P41	平野	58 × 30	33 × 17	39	
P42	西側	29 × 27	12 × 17	21	
P43	西側	32 × 30	24 × 20	25	
P44	西側	30 × 28	17 × 10	30	
P45	西側	40 × 27	38 × 18	14	
P46	西側	28 × 23	19 × 15	22	
P47	西側	45 × 120	17 × 10	58	土器
P48	西側	11 × 22	50 × 40	40	
P49	西側	10 × 34	30 × 16	20	
P50	西側	100 × 100	100 × 100	17	土器
P51	西側	35 × 27	30 × 21	28	
P52	西側	37 × 30	22 × 16	11	
P53	西側	38 × 37	28 × 11	31	
P54	西側	42 × 34	4 × 3	31	
P55	掘削部	19 × 37	22 × 15	21	
P56	西側	37 × 31	30 × 19	28	
P57	平野	47 × 120	29 × 114	13	土器
P58	西側	51 × 76	74 × 68	21	土器
P59	平野	43 × 126	104 × 12	23	
P60	西側	38 × 34	18 × 14	28	
P61	西側	41 × 36	31 × 18	35	
P62	西側	39 × 30	19 × 11	29	
P63	西側	24 × 22	9 × 8	34	
P64	西側	19 × 120	12 × 7	38	
P65	西側	120 × 25	4 × 3	34	
P66	平野	75 × 120	18 × 13	34	
P67	平野	75 × 127	19 × 13	34	
P68	西側	50 × 47	35 × 19	23	
P69	西側	39 × 30	30 × 20	23	
P70	西側	48 × 42	30 × 20	23	
P71	西側	13 × 43	35 × 27	30	
P72	西側	52 × 43	23 × 19	42	
P73	西側	49 × 36	23 × 10	18	
P74	西側	54 × 35	19 × 12	38	
P75	土器・瓦・漆器	—	—	—	
P76	平野	23 × 116	18 × 116	17	
P77	平野	38 × 33	11 × 7	32	
P78	西側	29 × 22	22 × 21	20	
P79	西側	34 × 30	18 × 11	35	
P80	西側	40 × 38	24 × 20	35	
P81	西側	39 × 31	35 × 19	37	
P82	西側	49 × 29	21 × 17	38	
P83	西側	50 × 49	28 × 18	37	
P84	西側	37 × 34	23 × 15	34	
P85	平野	32 × 100	10 × 8	38	
P86	西側	29 × 29	12 × 7	41	
P87	掘削部	18 × 30	19 × 14	46	
P88	西側	36 × 31	8 × 4	41	
P89	西側	57 × 50	28 × 21	38	
P90	西側	43 × 34	21 × 19	38	
P91	掘削部	65 × 37	38 × 20	41	
P92	西側	51 × 45	30 × 28	41	
P93	西側	25 × 18	7 × 5	42	
P94	西側	30 × 21	19 × 14	37	
P95	西側	47 × 36	19 × 15	24	土器、漆
P96	掘削部	42 × 22	29 × 19	31	
P97	西側	48 × 39	31 × 29	21	
P98	西側	41 × 127	21 × 116	19	

No.	平面的位置	縦断番号	深さ	長さ	幅
P99	東側	30 × 127	126 × 18	17	
P100	西側	32 × 23	22 × 15	25	
P101	西側	31 × 37	18 × 28	25	
P102	西側	39 × 39	25 × 17	35	土器
P103	西側	35 × 26	15 × 16	28	
P104	西側	38 × 24	24 × 23	20	
P105	西側	116 × 17	144 × 12	4	
P106	西側	27 × 26	14 × 14	25	
P107	西側	30 × 117	22 × 14	18	
P108	西側	32 × 31	18 × 17	29	
P109	西側	28 × 22	21 × 18	12	
P110	西側	27 × 26	18 × 13	28	
P111	西側	36 × 32	18 × 11	23	
P112	東側	50 × 100	23 × 110	8	
P113	西側	15 × 11	8 × 8	37	
P114	西側	47 × 39	29 × 17	64	
P115	西側	39 × 33	28 × 22	27	
P116	西側	38 × 35	18 × 13	48	
P117	西側	70 × 70	17 × 19	59	
P118	西側	46 × 46	34 × 30	29	
P119	西側	60 × 48	50 × 8	49	
P120	西側	25 × 132	21 × 19	38	土器
P121	西側	48 × 36	21 × 20	28	
P122	西側	33 × 32	18 × 18	25	
P123	西側	48 × 38	28 × 14	34	
P124	西側	30 × 34	18 × 17	42	
P125	西側	63 × 69	25 × 14	71	土器、漆
P126	西側	43 × 48	22 × 18	47	
P127	西側	38 × 35	120 × 13	46	
P128	西側	27 × 23	22 × 18	49	
P129	西側	31 × 30	15 × 13	33	
P130	西側	68 × 51	22 × 18	47	
P131	西側	73 × 59	39 × 12	43	土器、漆
P132	西側	47 × 34	29 × 14	34	
P133	西側	29 × 116	19 × 26	24	
P134	掘削部	54 × 35	42 × 15	61	
P135	西側	37 × 27	18 × 14	12	
P136	西側	30 × 21	8 × 7	29	
P137	掘削部	72 × 23	28 × 23	29	
P138	西側	71 × 59	31 × 27	35	
P139	西側	33 × 31	18 × 19	42	
P140	西側	38 × 33	27 × 13	25	
P141	西側	38 × 38	18 × 13	40	
P142	西側	79 × 122	18 × 15	12	
P143	西側	32 × 35	19 × 11	39	土器、瓦器
P144	東側	33 × 24	8 × 8	18	
P145	西側	28 × 25	14 × 14	23	
P146	西側	52 × 120	41 × 110	42	
P147	西側	38 × 38	22 × 20	25	
P148	掘削部	53 × 27	40 × 20	89	
P149	西側	32 × 17	18 × 11	11	
P150	西側	39 × 14	18 × 13	28	土器
P151	西側	43 × 32	33 × 23	13	
P152	平野	68 × 56	37 × 26	33	
P153	西側	44 × 44	24 × 20	30	
P154	西側	31 × 37	14 × 10	37	
P155	西側	32 × 30	11 × 10	33	土器
P156	西側	38 × 23	18 × 9	39	
P157	西側	25 × 18	20 × 11	27	
P158	西側	34 × 24	21 × 12	27	
P159	西側	33 × 31	23 × 18	43	土器、瓦器
P160	西側	34 × 25	11 × 7	18	
P161	西側	44 × 28	4 × 3	31	
P162	西側	25 × 23	9 × 8	19	
P163	西側	40 × 37	29 × 13	11	
P164	西側	116 × 17	111 × 6	12	
P165	西側	41 × 33	23 × 21	48	
P166	西側	35 × 29	24 × 11	21	
P167	西側	38 × 23	17 × 11	24	
P168	平野	39 × 30	28 × 10	26	
P169	掘削部	48 × 30	16 × 8	39	
P170	西側	49 × 34	15 × 9	49	
P171	掘削部	60 × 40	29 × 21	50	
P172	掘削部	60 × 43	14 × 8	43	
P173	西側	36 × 33	27 × 17	14	
P174	西側	42 × 26	29 × 10	48	
P175	西側	25 × 18	4 × 3	40	
P176	西側	22 × 20	12 × 8	40	
P177	西側	18 × 20	14 × 11	30	土器
P178	西側	31 × 24	7 × 6	29	土器
P187	東側	38 × 126	21 × 120	30	
P188	西側	19 × 19	12 × 10	27	
P189	西側	23 × 20	16 × 10	20	
P190	東側	6 × 7	1 × 1	19	
P191	西側	71 × 72	45 × 31	34	

7～10は半裁竹管で文様を施したもので、7は片口土器。組紐 LLRR。半裁竹管でカマボコ状の沈線と重鋸歯文を構成するもの。交点に円形の押捺がある。8は組紐 RRRR。半裁竹管を重ねてカマボコ状に集合沈線4本となる。9は組紐 LLRR。半裁竹管でカマボコ状の平行線。10は半裁竹管を重ねてカマボコ状に集合沈線、ループ文を多段化して施文。11は口縁直下に2本の半裁竹管の間にコンパス文を施したもので組紐は LLRR。12は4本単位の櫛歯で鋸歯文を描くもの。地文は LLRR。

13～17は櫛歯でコンパス文を加えたもの。13は、波状口縁。現存1/4。全面組紐 LLRR。口縁部とくびれ部に6本の櫛歯状工具でコンパス文を施したものの。14と15は同一個体。波状口縁。器面の風化が激しく組紐は不明。くびれ部に櫛歯状工具によるコンパス文が施文。16も波状口縁でくびれ部にコンパス文を施文。LLRR。17はLRの単節でくびれ部に櫛歯状工具でコンパス文。

18～25は沈線やコンパス文がないもの。18は口縁部を1/3欠損するが底部・胴部は全周する。片口土器で0段1条による組紐。19は風化が激しい。口縁部直下は無紋。以下詳細が不明な組紐。20は0段1条による組紐。21は組紐 RRL。22と23は同一個体。口縁1/2現存。片口土器で縄文原体が緩くなったものか組紐は不明。23は LLRR の組紐。25は多段化したループ文。

26～38は上記の胴部破片。26～28は櫛歯状工具によるコンパス文がつくもの。いずれも組紐は LLRR。26の櫛歯は8本、27は6本、28は4本と思われる。29は半裁竹管による平行沈線の直下に全面組紐 LLRR を施したものの。30・31・32 胴部下半の土器で同一個体の可能性がある。組紐 LLRR である。33・34も組紐 LLRR である。35は RRL、36は LLRR。37は不明。38は RRL の組紐。

39は正反の合による異状斜縄文で羽状であるが菱形を構成したものであると思われる。

40～44は底部の破片。いずれも、底部は上げ底で、底部側面が横に張り出す。40の組紐は風化により不明。41・42は0段による組紐。43はRLの単節。44は、正反の合による菱形を構成する。

45は、口唇部直下に3条の刺突列が廻る特異な土器。刺突列の直下に3本の櫛歯のコンパス文、縄文RLの単節が施されている。3条の刺突のうち最上段は、そ

れ以下の2本とは別に施されたようである。神之木式の影響があろう。刺突列について、早坂広人氏に見てもらったところ、なんらかの縄文の原体によるものという。刺突は深さ2mm、直径2mmで、竹のような工具の疑いもある。

J11号住居

1・2は、全面組紐で半裁竹管で文様を施文。口縁部に半裁竹管で集合沈線による鋸歯文を描く同一個体の破片。波状口縁。地文は組紐であるが、風化が著しく不明。

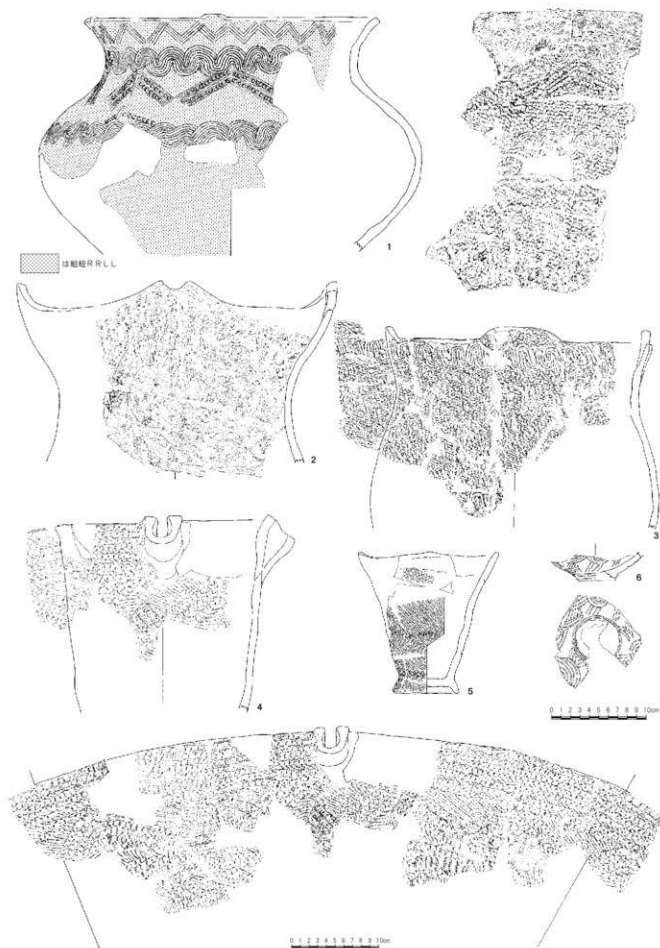
3～11は全面組紐を施文後、櫛歯で文様を施文するもの。3は、全面組紐 RRL を施した後、口唇部に4本の櫛歯による横5状に入り組むコンパス文とその下に半裁竹管による一条の鋸歯文。4は、全面 LLRR の組紐を施文の後、4本の櫛歯によるコンパス文を口唇部から8cmの等間隔で施文。胎土に2～3mmの白色の砂粒(石英か)や黒色の砂粒を含む。5は、片口土器で、口唇部直下に6本の櫛歯のコンパス文。全面組紐を施文するが摩擦のため不明。6は、台付き浅鉢。組紐 LLRR で6本の櫛歯により、口唇部と脚の境に2段のコンパス文。コンパス文の間隔は7cmほど。7・8は二股波状口縁の同一個体。口唇部に5本の櫛歯によるコンパス文。RLの単節。9は、口唇部に半円状の突起が直立してつく。4本の櫛歯によるコンパス文であるが、半円の突起部には口縁に沿って櫛歯文を直線施文。組紐は RRL。10は、平縁の土器で5本の櫛歯、組紐 LLRR。11は、内傾する平縁の土器。口唇部と胴部に6本の櫛歯によるコンパス文を上下7cmの間隔で施文。組紐 LLLL。

12・13・14は全面組紐で施文するもの。12・13は全面組紐 LLLL を施文。14は半円状突起に0段の組紐。

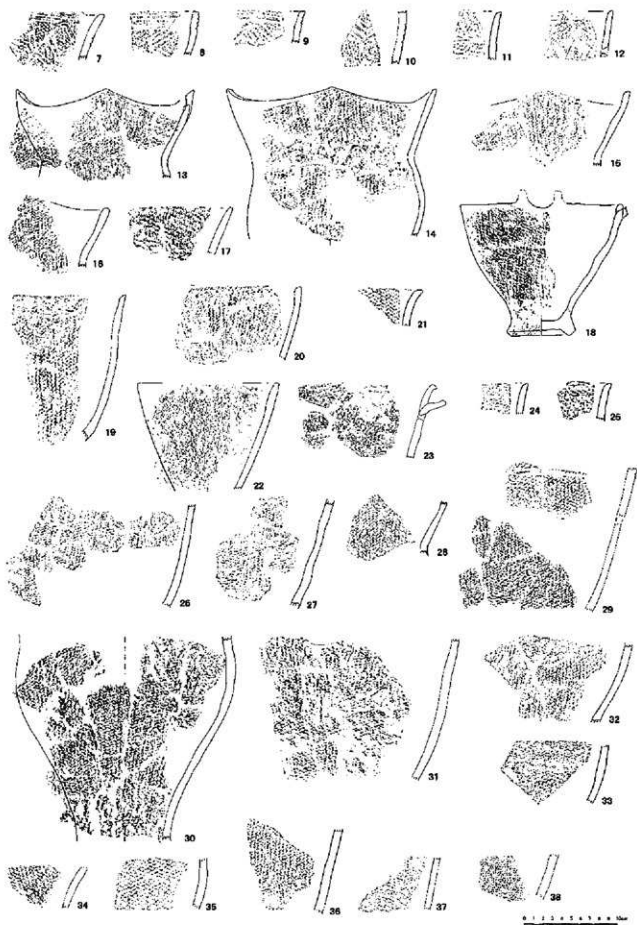
15～18は、正反の合による原体で施文し、コンパス文が施文されている。15は非常に摩耗しているが、菱形に施文構成し、くびれ部に櫛歯によるコンパス文が施文。16は片口土器で、口唇部直下と胴部に5本単位の櫛歯によるコンパス文が施文されている。17も口唇部に櫛歯ではなく半裁竹管によるコンパス文を施文。18は、口唇部より6cm下にコンパス文。

19は、1/2現存。口径14.5cm。地文LRLの複節を施文。小形の単口縁の土器。

20～27は、上記の類の胴部破片。20はRRL。21・22は同一個体。6単位の櫛歯によるコンパス文。



第50図 長宮遺跡第41地点J10号住居跡出土遺物① (1/4)



第51図 長宮遺跡第41地点J10号住居跡出土遺物② (1/4)

2種の前前段合燃の原体で羽状縄文とする。幅10mmの半裁竹管によるコンパス文を施文。23は6本単位の櫛歯によるコンパス文。0段の組紐。風化が激しい。11と同一の破片かもしれない。24はLとRをR巻きにした燃り戻し。

25～27は、正反の合で、菱形に施文したものである。

28～32は上記の類の底部破片である。28はRLとLRの単節による菱形の縄文になったもの。29は上げ底が台のように横に張出す。底部に櫛歯によるコンパス文を施文。30は風化していて詳細は不明。31・32は、上げ底だが、横に張り出さない。31は組紐LLRR。32はLRとRLの単節による羽状縄文。

33・34はその他の破片。33は、補修孔がある。途中で止めた未完の補修孔もある。縄文はLRの原体にLを2本単位に付加したものか。器面は薄く、丁寧な磨きが施されている。

34は、土器型式不明である。地文はない。口唇部上面に、粘土を貼り付けたものか否か不明であるが、刻みを付けている。器面に幅2.4cm・厚さ3mmほどの粘土組を貼り付けている。口唇部直下に横一条を貼り付け、円形と交点から斜め方向に貼り付けている。粘土組の上には半裁竹管による斜め45度で右上から押し引きを3条をカマボコ状に粘土組全面に施す。胎

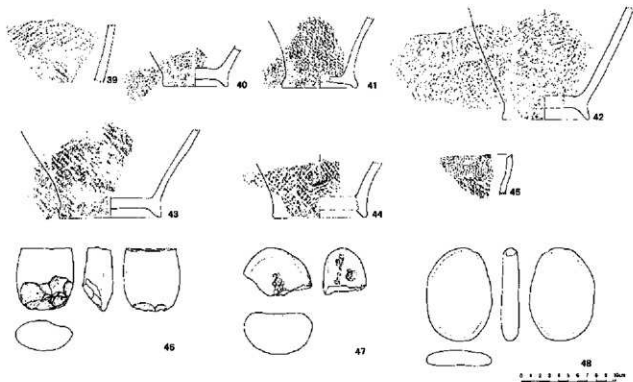
土・色調は黄がっつよい褐色で、口縁断面には黒い層が厚く、以下徐々に薄く、サンドイッチ状になっている。繊維はみだところ確認できないようである。関山式とは全く異にし、インパクトの強い土器破片である。

これについては、何人かの研究者の手を煩わした。新井和之氏は、時期を除外して考える必要があるのではないかと、という観点から、半裁竹管の押し引きの技法の類似から、十三菩提式の可能性を示唆された。早坂広人氏、鈴木徳男氏は、検討が付かないが同一時期を前提とし、東海系を考える必要がある、というものでした。

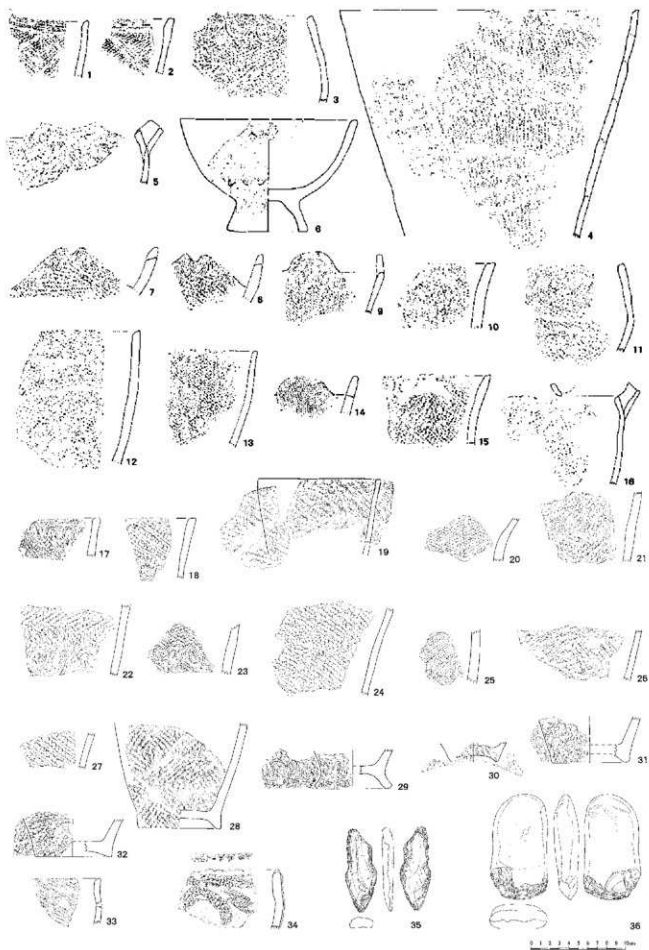
J12号住居出土遺物

1は、口径16cmの小型の土器。RLの単節を横位に施文。2は、全面半裁竹管による全面格子状に施したもので、口唇部直下に櫛歯状工具で縦にコンパス文が細長く施文されている。3は風化が激しいが燃り戻しか。4は0段4条を施文。5は、櫛歯のコンパス文のみ。6は正反の合による菱形文。

7～16は地文が組紐によるもの。7・8はLLRR。9はRRRR。10は0段による組紐。11はRRRR。12・13は同一個体でLLLL。14はRLRの複節。15はRRLL。16はRRLL。17はRRLの燃り戻しか。18はRLの多段ループ文に櫛歯状工具で縦長のコンパス文を施文。19は開端自条結節。20は前前段合燃らし

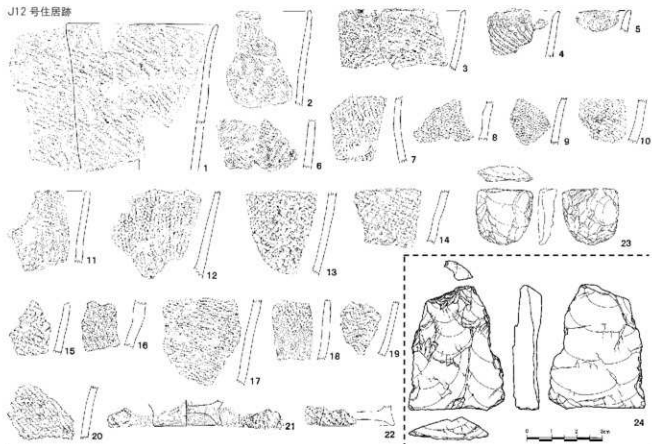


第52図 長宮遺跡第41地点J12号住居跡出土遺物③(1/4)

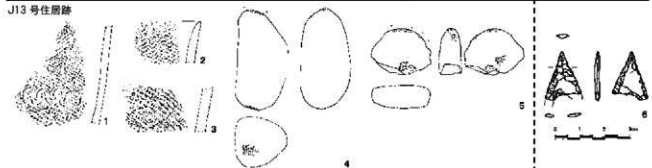


第53図 長宮遺跡第41地点J11号住居跡出土遺物 (1/4)

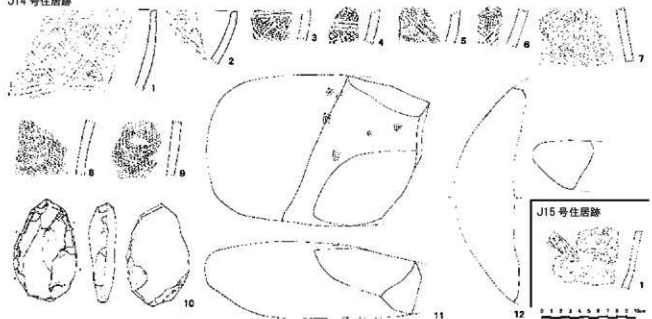
J12号住居跡



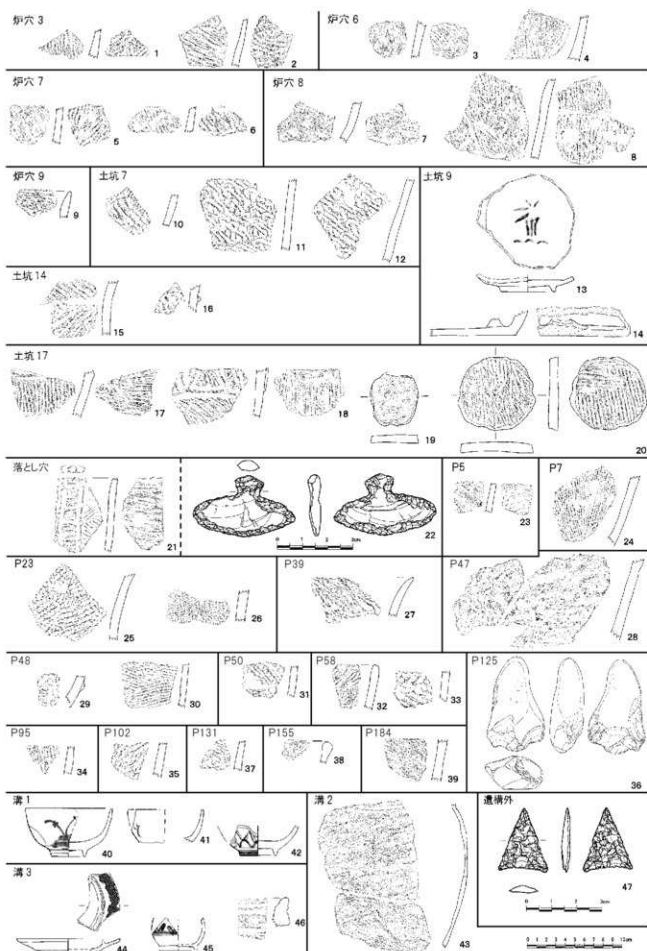
J13号住居跡



J14号住居跡



第54図 長宮遺跡第41地点J12～J15号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)



第 55 図 長宮遺跡第 41 地点炉穴・土坑・落とし穴・ピット・溝・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

い。風化して細部がみえない。21・22は底部破片。22はRLの単節を施文。

J13号住居出土遺物

1は前前段合懔を地文にして4単位の櫛歯状工具によりコンパス文と鋸歯文を施文。2は、口唇部に櫛歯によるコンパス文、組紐は0段による。3はRLの単節で末端のループ文をつけ4本単位のコンパス文を施文。

J14号住居出土遺物

1～6は、半裁竹管による鋸歯文を構成するものである。1・2は同一個体で、風化が著しい。RRRRの組紐を地文とする。半裁竹管を重ねて集合沈線で、口唇部直下と8cm下の横位の直線の間に鋸歯文を配置したもの。3・4は半裁竹管でカマボコ状の平行沈線を一条とする文様。地文は風化により不明。5は、半裁竹管による鋸歯文であるが、浅く施文している。地文は不明。6は地文組紐LLLLで半裁竹管をかさねて集合沈線としたもの。7は組紐LLLLを地文とし、櫛歯状工具でコンパス文を施文。8はくびれ部にコンパス文を施文し、燃り戻しの原体らしいが風化により不明。9は組紐LLRRである。

J15号住居出土遺物

出土遺物は非常に少ない。1は、正反の合による燃り戻しで、コンパス文がある。

炉穴出土遺物

炉穴出土の1～9はすべて早期条痕文系土器で、1～4は貝殻条痕文。4は底部近くで内面はなめらか。

雲母含む。7の表面は無文。

土坑出土遺物

10～12は土坑7出土。11・12は前期関山式で開端自条結節文。13・14は土坑9出土で、13は瀬戸・美濃の灰粘摺縞皿、18世紀中頃。14は近世ホウロクの底部破片。15・16は土坑14出土でともに前期関山式。15は正反の合による。17～20は土坑17出土。全て早期条痕文系で、18は細隆起線区画の鶴ガ島台式。19・20は土製円盤。

落とし穴出土遺物

21は早期条痕文系で、文様区画の細隆起線上に刺突をした鶴ガ島台式。22は石匙。

ピット出土遺物

23・24は早期条痕文系土器。25は前々段合懔、26は組紐RRRR。27・28は前期土器で織維含む。27は風化が激しく文様は不明。29は前期関山式。30は早期条痕文系。31は異条斜縄文、33は上LR下RLのループ羽状縄文。34は早期の貝殻背圧痕。35は0段4条のLR。36は打製石斧。37はRL単節縄文。38は早期摺糸文。39には石英含む。

溝出土遺物

40～42は溝1出土でいずれも肥前染付碗、いわゆる「くらわんか手」18世紀。43は土師器裏破片。44～46は溝3出土。44は瀬戸・美濃の鉄釉灯明受皿、18世紀後半。45は肥前の染付徳利、19世紀。46は堺産の陶器播鉢口縁破片。

第18表 長宮遺跡第41地点出土石器一覧表 (単位cm)

図版番号	掲載番号	遺構名	種別	長さ	刃部幅	厚さ	重量	技法/その他	石材/推定生産地	推定年代・時期	残存/備考
52	46	J10号住居	打製石斧	6.3	6.0	3.2	192.0g	敲打/No.84	凝灰岩	縄文時代	基部欠
52	47	J10号住居	磨石・敲石	5.2	7.2	4.5	169.4g	敲打/No.15	凝灰岩	縄文時代	1/2以下
52	48	J10号住居	磨石	9.8	6.9	1.8	196.9g	No.72	凝灰岩	縄文時代	完形
53	35	J11号住居	打製石斧	8.9	3.3	1.1	38.3g	両極敲打技法/No.8	頁岩	縄文時代	基部欠
53	36	J11号住居	打製石斧	11.1	6.0	2.6	306.5g	両極敲打技法/No.182	砂岩	縄文時代	完形
54	23	J12号住居	打製石斧	5.8	5.9	1.8	84.3g	両極敲打技法/No.47	ホルンフェルス	縄文時代	基部欠
54	24	J12号住居	剥片	4.8	3.6	0.9	19.3g	縦長剥片の側面を不規則に剥離/No.36	チャート	縄文時代	破折
54	4	J13号住居	磨石・敲石	10.6	5.5	5.3	458.8g	敲打/No.1	閃緑岩	縄文時代	完形
54	5	J13号住居	敲石	4.8	6.0	2.4	87.2g	敲打/No.7	砂岩	縄文時代	1/2
54	6	J13号住居	石匙	2.9	1.4	0.2	0.4g	押圧剥離技法/No.13	頁岩	縄文時代	基部欠
54	10	J14号住居	打製石斧	10.6	6.7	3.0	187.1g	両極敲打技法/No.10	片岩	縄文時代	完形
54	11	J14号住居	台石	15.9	22.6	8.0	3,900g	No.35+34	砂岩	縄文時代	一部欠
54	12	J14号住居	台石	27.7	6.4	5.1	766.9g	No.12	閃緑岩	縄文時代	一部のみ
55	22	落とし穴	石匙	2.4	4.0	0.4	3.4g	押圧剥離技法	チャート	縄文時代	完形
55	36	P125	敲石	10.0	6.0	3.5	263.0g	敲打	凝灰岩	縄文時代	完形
55	47	遺構外	石匙	3.5	1.9	0.3	1.2g	押圧剥離技法	チャート	縄文時代	完形

第5章 松山遺跡第62地点の本調査

遺跡の立地と環境

松山遺跡は、龜居遺跡付近を湧き水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中・近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

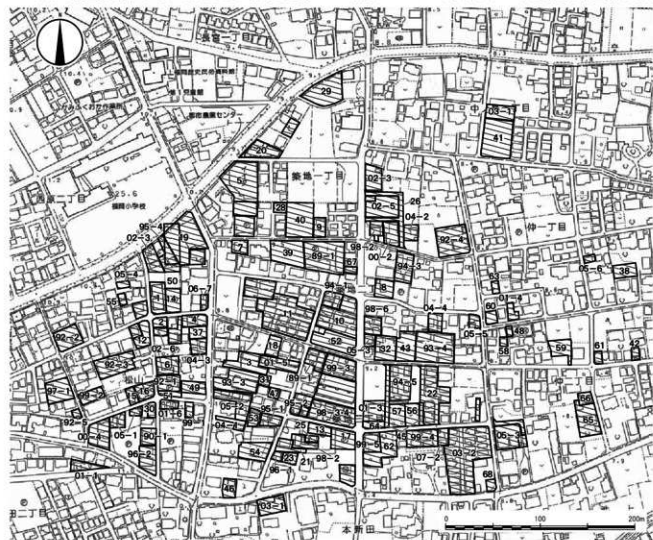
1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構

は、遺跡の南側に縄文時代中期の住居跡、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中・近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中・近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

本調査に至る経過と調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2012年5月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構等の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年6月11日から21日まで行った。幅約1～15mのトレンチ8本を設定し、重機で表土



第56図 松山遺跡の地形と調査区(1/4000)

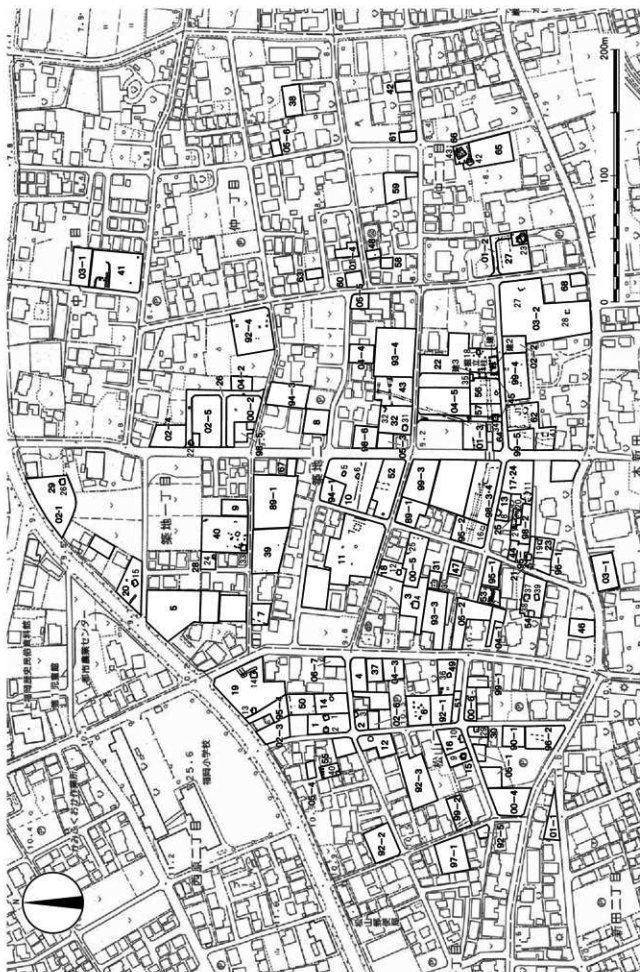
地点	所在地	調査期間 （発掘調査）	面積 m ²	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
54	跡地 31676 — 83	10/4—11/9/21 — 10/1	540	宅地造成	弥生・平安時代前期 3 軒建屋、西側 1 軒 の柱礎は礎土保存。 他、2 層は本調査 で調査されなかった	市内 9
55	松山 24240 — 1	11/11/17/31/8— 1/31	226	個人住宅	弥生・平安時代前期の住居 跡 1 棟、礎土埋蔵 物跡 1 棟、本調査	市内 10
56	跡地 37日 4.2.480— 部	2011/4/4—14/4/11 — 15	482	共同住宅	弥生・平安時代前期の住居 跡 1 棟、本調査 （一部工事立止）	市内 11

地点	所在地	調査期間 （発掘調査）	面積 m ²	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
57	跡地 37日 4 番 47	2001/4/4—15	241	分譲住宅	遺構遺物なし、僅量 工事	未報告
58	甲 27日 231	2011/6/6—8/6/14	114	個人住宅	井戸跡 1 本、礎土	未報告
59	甲 27日 3番 6 3番 9	2011/8/8—11/8/11	55/9	個人住宅	土坑 2 处、本調査	未報告
60	甲 17日 1番 15	2012/3/26—27	165	個人住宅	堀跡 1 工、工事立止	未報告
61	甲 27日 33		113	個人住宅		未報告
62	跡地 37日 5 番 11/14/19	2012/8/10—12/29	842	宅地造成		市内 12

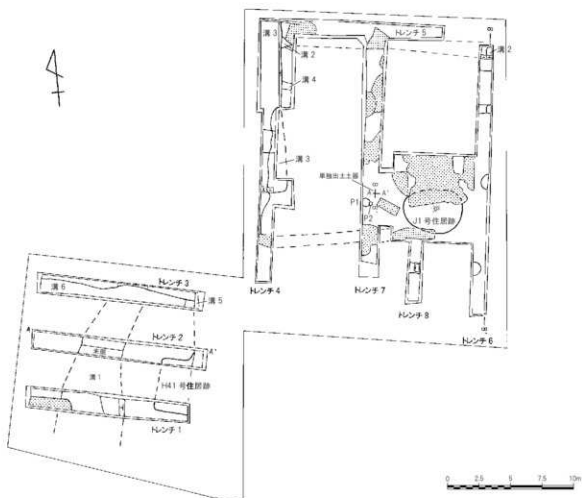
注：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書。上福岡市、上福岡市埋蔵文化財調査報告書。調査：上福岡市
教育委員会。市内：ふじみ野市市内遺跡調査報告書

第 20 表 松山遺跡住居一覧表 単位 m

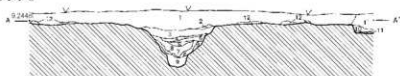
住居 番号	調査 年度	調査名	調査 率 (%)	平面形 状 （ 地 定）	規模	炉 カマド K	設置壁 カマド K	カマド 規模 cm	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
1	1978	第 1 次 1 号住居	完掘	正方形	390 380	K	東	110 75			区分前半		埋蔵文化財の調査
2	＊	第 1 次 2 号住居	完掘	台形	360 320	K	東	120 85			区分前半		＊
3	1979	第 2 次 3 号住居	2/3	方形	350 10	K	東		一部		区分前半		埋蔵文化財の調査
4	＊	第 2 次 4 号住居	完掘	方形	530 475	K	北	200 100		N 14 E	区分前半		＊
5	1991	第 10 次 5 号住居	完掘	長方形	230 350	K	北	東			9C 2 半期		埋蔵文化財の調査 14
6	＊	第 10 次 6 号住居	2/3	方形	340 300	K	東				9C 2 半期		＊
7	＊	第 11 次 7 号住居	完掘	正方形	400 400						8C 4 半期		＊
8	1992	第 13 次 8 号住居	3/4	方形	400					N 10 E	8C 3 半期		埋蔵文化財の調査 15
9	1993	第 15 次 9 号住居	完掘		A440 350, B420 310, C260 300	K	東 北	A210 210, B210 210, C80 65			9C 1 半期	鉄鉢型消煮器 出土	埋蔵文化財の調査 16
10	＊	第 16 次 10 号住居	1/3	正方形	560 560	K	北	130 80			8C 4 半期		＊
11	＊	第 17 次 11 号住居	完掘	方形	600 600	K	北				最大住居	7C 4 半期	黒色土師器出 土
12	＊	第 18 次 12 号住居	完掘	方形	400 320	K	北				8C 4 半期		＊と市史
13	1994	第 19 次 13 号住居	完掘	長方形	450 300	K	北			N 5 E	9C 1 半期		松山遺跡第 19 次調査概要
14	＊	第 19 次 14 号住居	完掘	長方形	450 500	K	東 北			N 5 E	9C 1 半期	土師出土	＊
15	＊	第 20 次 15 号住居	完掘	長方形	370 470	K	北 西	70 70			7C 4 半期		松山遺跡第 20 次の調査
16	1995	7 年度試掘 2 号住居								N 20 W	6C		未報告
17	＊	第 21 次 17 号住居	完掘	長方形	480 400	K	北				7C 4 半期		埋蔵文化財の調査 19
18	1997	第 22 次 18 号住居	完掘	長方形	240 460	K	東	90 60		N 50 E	8C 末		埋蔵文化財の調査 20
	＊	第 22 次 1 号竪立	部分	長方形	東西 5 間 南北 3 間						8C 末—9C 初		＊
	＊	第 22 次 2 号竪立	部分	長方形	東西 2 間 南北 2 間						8C 末—9C 初		＊
	＊	第 22 次 3 号竪立	部分	長方形	東西 2 間 南北 3 間						8C 末—9C 初		＊
19	1998	第 23 次 19 号住居	4/5	長方形	260 290					N 30 W	8C 後半	土師 6 点出土	埋蔵文化財の調査 21
20	1999	第 25 次 20 号住居									8C 初頭	磁紋土師器	市史通史編
21	＊	第 25 次 21 号住居									8C 初頭		未報告
22	2000	第 26 次 22 号住居	完掘		360	K	北				7C 後半	14 年度完掘 焼失住居	埋蔵文化財の調査 23
23	＊	第 27 次 23 号住居	完掘	台形	600 720	K	北				8C 前半		＊
24	2001	第 28 次 24 号住居	1/2		340	K	北 西				8C 中葉		埋蔵文化財の調査 24
25	2000	12 年度試掘 5	2/3										埋蔵文化財の調査 23
26	2002	第 29 次 26 号住居	完掘	長方形	420 360	K	北				7C 後半		埋蔵文化財の調査 25
27	2003	15 年度試掘 27 号住居	一部		盛土保存							プランのみ確認	埋蔵文化財の調査 26
28	＊	15 年度試掘 28 号住居	1/2		盛土保存							プランのみ確認	＊
29	＊	第 30 次 29 号住居	完掘	長方形	360 420	K	東				9C 前半		＊
30	2005	第 31 次 30 号住居	完掘	長方形	360 600	K	北						市内遺跡群 1
31	＊	第 32 次 31 号住居	完掘	長方形	380 330	K	東				S 65 E	9C 中葉	＊
32	＊	第 32 次 32 号住居	1/2	長方形	東西 4 m 南北 3 m 以上	K	東				S 85 E		＊
33	2006	40 地点 H33 号住居	完掘	方形	455 420	K	北	98 154		N 5 E	8C 後半		市内遺跡群 3
34	2008	45 地点 H34 号住居	完掘	方形	364 361	K	東	122 125		N 96 E			市内遺跡群 6
35	2008	45 地点 H35 号住居	1/2 (方形)		504 222								市内遺跡群 6
36	2009	49 地点 H36 号住居	完掘	方形	280 290	K	東	105 100		N 92 E	8C 後半	跡地跡 1	市内遺跡群 7
37	2010	54 地点 H37 号住居	完掘	方形	434 524	K	北 西	70 86		N 13 E	8C1 四半期		市内遺跡群 9
38	2010	54 地点 H38 号住居	一部	方形	440 468	K	東	95		N 107 E	8C1 四半期	プラン確認	市内遺跡群 9
39	2010	54 地点 H39 号住居	完掘	方形	336 459	K	北 西	79 101		N 4 E	8C1 四半期		市内遺跡群 9
40	2011	55 地点 H40 号住居	3/4 (方形)		300 320	K	東	95 123		N 90 E	9C 前半		市内遺跡群 10
41	2012	62 地点 H41 号住居	3/4 (方形)		410 300	K	北			N 18 E			市内遺跡群 12
42	2012	65 地点 H42 号住居	完掘	方形	448 444	K	東	112 125		N 68 E			未報告
43	2012	66 地点 H43 号住居	完掘	方形	704 700	K	東	105 150		N 68 E			未報告



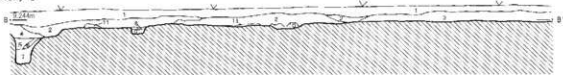
第57図 松山遺跡遺構分布図(1/3000)



トレンチ 2



トレンチ 6



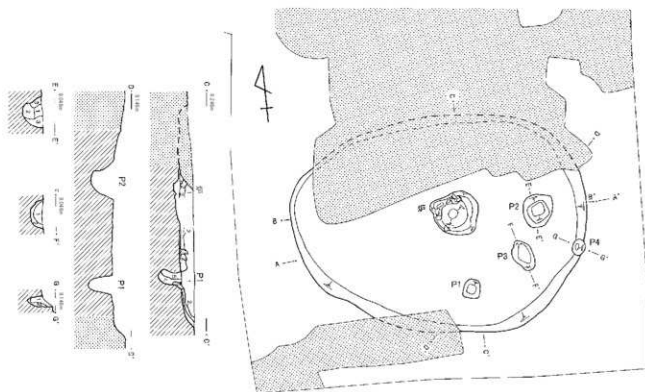
A-A'

- 1 表土 黒褐色土 細り弱、～3mmローム粒少し含む
- 1' 黄土粒含む
- 2 黒褐色土 細り弱、～5cm大ロームブロックとの混合土
- 3 暗褐色土 細り弱、～5mmローム粒多く含む
- 4 暗褐色土 細り弱、～3cm大ロームブロック様多く含む
- 5 黒褐色土 細りやや有、～3mmローム粒少し含む
- 6 暗褐色土 細りやや有、～5mmローム粒多く含む
- 7 黒褐色土 細り有、～3mmローム粒少し含む
- 8 褐色土 細り有、硬い、ローム粒主体で1cm大ロームブロック少し含む、黒褐色土少量混入
- 9 黄褐色土 細り有、ロームブロック主体
- 10 黒褐色土 細り有、～3cm大ロームブロック少し、～5mmローム粒多く含む
- 11 黒褐色土 細り有、～5mmローム粒少し含む
- 12 土山ローム

B-B'

- 1 砂利、遺跡面
- 2 暗褐色土 非常に硬く締る、遺跡面、ロームブロック様多く含む
- 3 暗褐色土 非常に硬く締る、遺跡面、1～5mmローム粒多く含む
- 4 暗褐色土 細り有、硬い、ローム粒様多く含む
- 5 黒褐色土 細り有、ロームブロック少し含む
- 6 黒褐色土 細り有、ローム粒多く含む
- 7 黄褐色土 細り弱、ロームブロック・粒主体
- 8 暗褐色土 細り有、1mmローム粒少量含む、溝かイモビツ
- 9 暗褐色土 細り有、1～5mmローム粒やや多く含む、溝かイモビツ
- 10 褐色土 細り有、1mmローム粒・黄土少量含む、縄文土器出土、縄文時代のシロ
- 11 ソフローム

第 58 図 松山遺跡第 62 地点遺構配置図 (1 300)、土層図 (1 150)



J1号住居跡

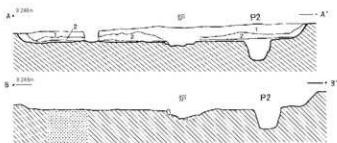
1. 褐色土(やや硬い) 締り有、1~3mmローム粒少し、~3mm塵土粒極少し含む
2. 褐色土 締り有、1~3mmローム粒多く含む
3. 暗褐色土 締り有、1~3mmローム粒・~3mm塵土粒少し含む
4. 黄褐色土 締り固、ややサラサラ、ローム粒主体
5. 黄褐色土 締り有、1cm大ロームブロック主体、褐色土混入

ピット2

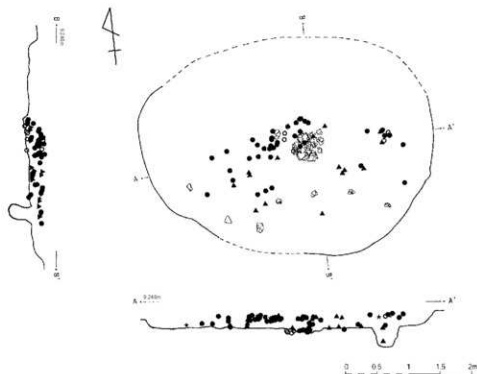
1. 暗褐色土 締り有、1mmローム粒少し含む
2. 褐色土 締り有、1mmローム粒少し含む
3. 褐色土 締り有、1~3cm大ロームブロック少し、1~3mmローム粒多く含む

ピット3・4

1. 暗褐色土 締り有、1~3mmローム粒やや多く含む
2. 褐色土 締り有、1~3mmローム粒多く混入状の塊



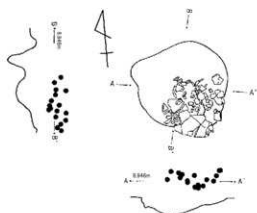
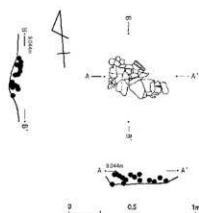
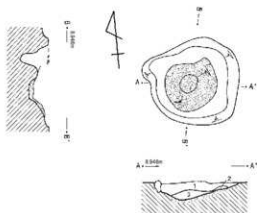
遺物出土状況図



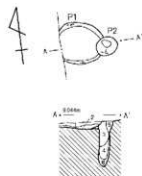
第59図 松山遺跡第62地点 J1号住居跡遺物出土状況図(1/60)

炉・掘方

トレンチ7 中央部単独出土土器

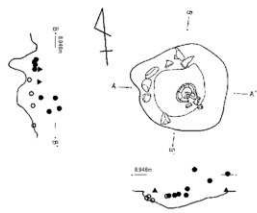
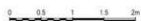


ピット1・2



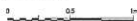
ピット1・2

1. 黒褐色土 締り有、1mmローム粒少し含む
2. 褐色土 締り有、地山ロームに黒褐色土混入
3. 暗褐色土 締り有、3～10mmローム粒多く含む
4. 暗褐色土 締り有、1～3mmローム粒多く含む
5. 褐色土 締り有、1mmローム粒少し含む
6. 黄褐色土 締り有、ローム粒主体



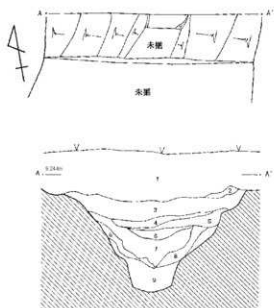
P1

1. 暗褐色土 締り有、1～3mmローム粒少し、1～3mm焼粒やや多く含む
2. 褐色土 締り有、1～3mm焼粒多く含む
3. 褐色土 締り有、1～5mm焼粒多く、1mm炭少し含む

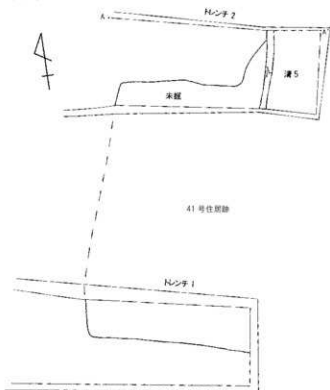


第 60 図 松山遺跡第 62 地点炉・掘方・トレンチ7 中央部単独出土土器遺物出土状況図 (130)、ピット (160)

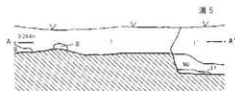
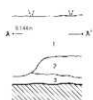
溝1



トレンチ1・2



溝5・6



溝1

1. 表土 黒褐色土 締り肌、～3mm ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り肌、～5cm 大ロームブロックとの混合土
3. 暗褐色土 締り肌、～5mm ローム粒多く含む
4. 暗褐色土 締り肌、～3cm 大ロームブロック粒多く含む
5. 黒褐色土 締りやや有、～3mm ローム粒少し含む
6. 暗褐色土 締りやや有、～5mm ローム粒多く含む
7. 黒褐色土 締り有、～3mm ローム粒少し含む
8. 褐色土 締り有、細かい、ローム粒主体で1cm 大ロームブロック少し含む、黒褐色土少量混入
9. 黄褐色土 締り有、ロームブロック主体

溝5・6

1. 表土 黒褐色土 締り肌、～10mm ローム粒多く含む
2. 暗褐色土 締り有、～10mm ローム粒多く含む
3. 暗褐色土 締り有、～3cm 大ロームブロック少し、～10mm ローム粒多く含む

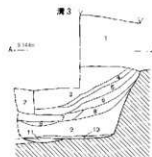
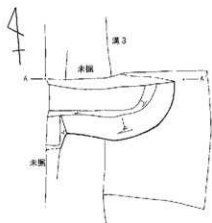
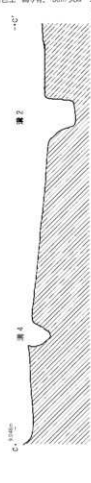
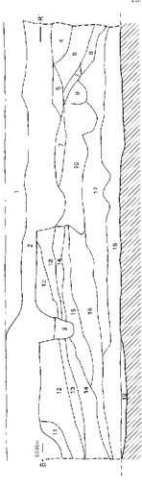
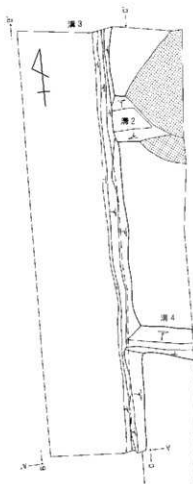
溝5

1. 表土 黒褐色土 締り肌、～3mm ローム粒少し含む
- 1' 黄土粒含む
10. 黒褐色土 締り有、～3cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒多く含む
11. 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒少し含む
- Ⅲ ソフト地山ローム



第61図 松山遺跡第62地点溝1・5・6(1/60)

- 溝3
-
- 1 盛土・ローム・ガラ 硬く締り
 - 2 赤土 暗褐色土 締り弱
 - 3 ややロームブロック少量含む
 - 3 縦切溝 暗褐色土 締り弱、～5mm ローム粒多く含む
 - 4 黒褐色土 締り有、1mm ローム粒極少し含む
 - 5 暗褐色土 締り有、～5mm ローム粒多く含む
 - 6 暗褐色土 締り有、～10cm ローム粒多く含む
 - 7 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒やや多く含む
 - 8 暗褐色土 締り有、～10cm ローム粒極多く含む
 - 9 黒褐色土 締り有、～1cm ローム粒やや多く含む
 - 10 褐色土 締り有、1～3cm 大ロームブロック極多く含む
 - 11 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒多く含む
 - 12 褐色土 締り有、～5cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒極多く含む
 - 13 黒褐色土 締り有、3cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒多く含む
 - 14 暗褐色土 締り有、～5cm 大ロームブロックと暗褐色土の混合土
 - 15 暗褐色土 締り有、1～20cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒多く含む
 - 16 褐色土 締りやや有、～10cm 大ロームブロックローム粒、暗褐色土の混合土
 - 17 黄褐色土 締り弱、～10cm 大ロームブロック主体、褐色ローム粒混入
 - 18 黄褐色土 締り弱、～10cm 大ロームブロック主体、ロームブロックの間に隙間がある、黒色土混入
 - 19 褐色ローム主体 締りやや有、粘性やや有、一度掘り下げられた地山、5～10cm 厚、互に正三
 - 20 黒褐色土 締り弱、～5mm ローム粒多く含む
 - 21 黒褐色土 締り弱、1cm 大ロームブロック極多く含む
 - 22 褐色土 締り弱、サラサラ、ローム粒子主体
 - 23 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒少し含む
 - 24 暗褐色土 締り有、～5mm ローム粒極多く含む
 - 25 黒褐色土 締り有、3cm 大ロームブロック、～5mm ローム粒少し含む



- 1 堆土 ロームと互層の混合土
- 2 暗褐色土 締り有、1～10mm ローム粒多く含む
- 3 黒色土と暗褐色土と～5mm ローム粒の混合土 締り有
- 4 黒色土 ～5mm ローム粒極多く含む
- 5 暗褐色土 締り有、1～5mm ローム粒極多く含む、黒色土混入
- 6 黒色土主体 ～10mm ローム粒極多く含む
- 7 溝3の16層と同じ
- 8 暗褐色土 締り弱、粒子が水成でザザツする
- 9 溝3の17層と同じ
- 10 溝3の18層と同じ
- 11 溝3の14層と同じ

0 0.5 1 1.5 2

除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代中期の住居跡1軒、奈良・平安時代の住居跡1軒、古代の溝1条、中世以降の溝5条等を確認した。遺跡確認面までの深さは約60cmで、盛土により遺構の保存が可能であったが、一部地盤調査の結果地盤改良を行うことになった宅地と道路部分については、遺構への影響が避けられないため申請者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。本調査は2012年7月23日から8月1日まで行い、縄文時代中期の住居跡1軒、中世溝1条を調査した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

遺構と遺物

J1号住居跡

【位置・形状・規模】北側調査区の中央西側に位置する。主軸方位は東である。北側は抜根により壊されている。平面形は楕円形で、規模は長軸が東西4.15m、南北推定3.5mである。深さは確認面から25cmである。

【炉】中央のやや東寄りに位置し、炉の西半分が石で囲われる。上端東西78 南北68cm、下端東西65 南北58cm、深さ23cm、焼土面の範囲41 36cm、石囲いの範囲は径60cmである。炉の上面に深鉢土器一個体分の土器が出土した。

【ピット】4基検出し、P1、P2が主柱穴と思われる。西側の柱穴は未検出である。

【時期】出土遺物から縄文時代中期加曽利E 期。

中央部単独出土土器・ピット

北側調査区中央、J1号住居跡の西2.5mに1個体分の土器がつぶれた状態で出土した。土器は沼沢式。ピットは2基検出した。

第2表 松山遺跡第62地点J1号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	29 27	15 13	40	土器
P2	円形	56 48	20 18	35	
P3	楕円形	51 32	33 20	23	
P4	円形	26 18	10 5	24	

第2表 松山遺跡第62地点遺構一覧表(単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	不取(円形)	135) 133)	127) 108)	14	
P2	円形	68 57	28 23	75	

溝

6条検出した。

溝1は他の調査区でも検出している南北方向の溝で、時期は古代である。保護層を確保できるため保存の措置を執ったが、確認のため一部試掘した。上幅335cm、下幅55cm、深さ165cm。断面は急峻なV字形で底が更に一段深くなる。出土遺物はない。

溝2は東西方向の溝で調査区北側に位置する。17m検出した。上幅75cm、下幅35cm、確認面からの深さ50cm。

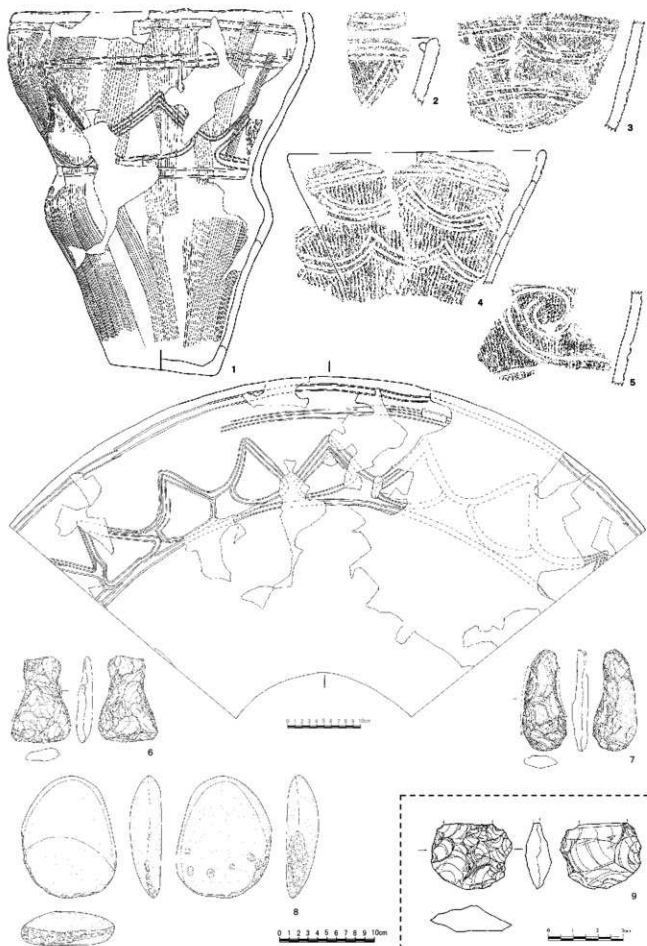
溝3は南北方向の溝で、北側の64地点で検出した溝4と同一の溝と思われる。西側は隣地の境界まで調査できなかったため、正確な断面形状や幅は不明である。底はほぼ平坦で、垂直に近い急傾斜で立ち上がる。北側から9.5m南で西側へ曲がるもしくは、溝が終わる。底の方には水分によって酸化したロームが堆積する。14m検出した。上幅210cm、下幅150cm、確認面からの深さ115cm。

溝4は東西方向の溝で溝2の3m南に位置する。溝3より新しい。1m検出した。上幅45cm、下幅10cm、確認面からの深さ30cm。溝5は南北方向の溝で調査区南側に位置する。H41号住居跡、溝6より新しい。10m検出した。上幅90cm、下幅70cm、確認面からの深さ30cm。溝6は東西方向の溝で調査区南側に位置する。12.5m検出した。溝1より新しく、溝5より古い。上幅60cm、下幅35cm、確認面からの深さ25cm。

出土遺物

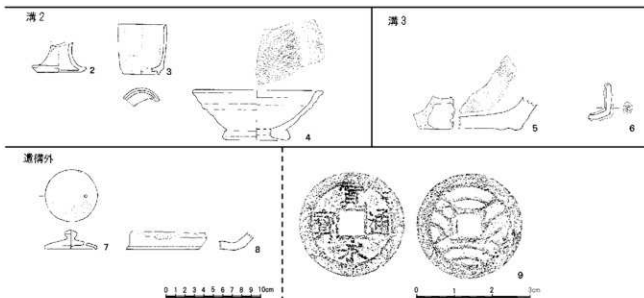
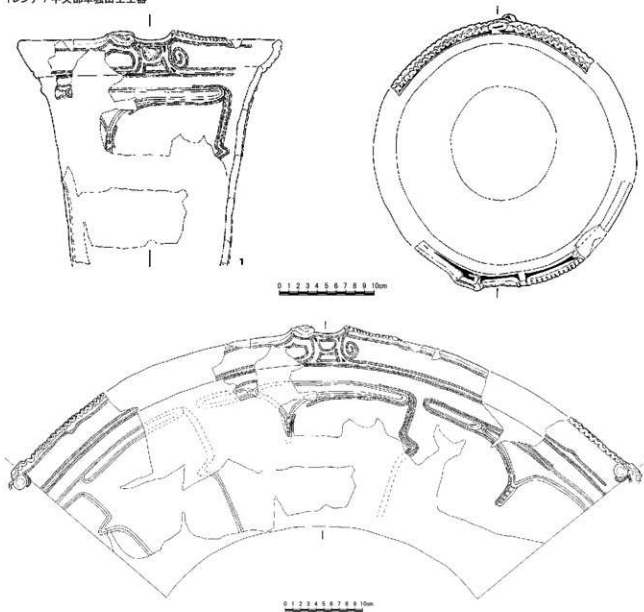
J1号住居跡出土遺物

J1号住居出土の土器は全てがいわゆる連文の土器である。1は、口縁部を1.3程欠損するが、器形・文様のほぼ全形をうかがえる。器厚は全体的に分厚く、底部からの立ち上がり、石膏による復元を修正しても大きく傾いている。地文は8から10本単位の柳刃状工具による条線が施文。文様は口唇部直下の横位2本の沈線と頸部の横位2本の沈線は、先端が角張った工具で、1本ずつ引いて描いたものである。それ以外の弧線は半戦竹管の工具により2本単位で、引かれたもので、一本を重ね引きをして見た目3本単位となる。重なった部分は深くなっている。弧線は、展開図に示したように7単位となる。2・3は、地文が条線である。2は、口唇部内側に粘土紐を貼り付けた「フ」の字口縁で、直上に沈線が加えられ、口



第 63 图 松山遺跡第 62 地点 J1 号住居跡出土遺物 14・23

レンチ7 中央部単独出土土器



第64図 松山遺跡第62地点トレンチ7中央部単独出土土器・溝・遺構外出土遺物 14・11

唇部直下には3本の沈線が描かれている。3は、胴部破片である。2・3の沈線を引いた工具は、先端が角張ったヘラ状工具である。4・5は、地文が惣糸文で、4は、現存14で(推)直径27cm。5は胴部破片である。4・5ともに、沈線を引く工具は、上記2・3と違い先端が緩く丸い工具である。4は、口唇直下が3本、弧線が4本で描かれている。5は渦巻きが描かれている。色調・胎土、沈線の描き方は、4に似ている。同一個体の可能性がある。これらの連弧文土器には、沈線間の磨り消しはみられない。

6・7は打製石斧である。6は先端部が一部欠損しており、長さ91cm、刃部幅625cm、厚さ15cm、重さ949g、ホルンフェルス製。7は完形で、長さ106cm、刃部幅46cm、厚さ17cm、重さ882g、凝灰岩製。8は、磨り石で図示した、下端側面全面に敲打痕がある。石質閃緑岩で加熱を受け、脆くなっている。長さ128cm、幅1005cm、厚さ365cm、重さ6534g、閃緑岩製。9はスクレイパーで基部が欠ける。長さ26cm、幅33cm、厚さ105cm、重さ94g、チャート製。

トレンチ7中央部単独出土土器

いわゆる阿玉台1a式であろう。口縁部は12程度が現存。胴部は部分的に欠落し、底部は見つかっていない。色調黒褐色。胎土には雲母の混入はないがよく精錬されている。口縁部は口縁部文様帯に一致し、内面に稜がついて内湾する。胴部文様帯の境には頸部無文帯がある。

口縁部文様は、図正面に又状波頂部を作出し、その直下に連続し密な爪形文で(角押し文ではない)「横D字状」区画を上にして「台形文様」を下にして対向し、右に渦巻き、左に楕円形を描いている。その間に三角沈刺文が三カ所に施されている。

口唇部に図正面右側には縦に刻みを加え、反対側には粘土紐を波状に二重に並んで乗せている。内面は又状波頂部を中心に、玉抱き三叉文と三角沈刺文を連結して一直線となった沈刺が2個並んでいる。

胴部文様は断面三角形の隆帯で、横位の幅1cm(隆帯頂部間)と狭い杵状文を施し、杵の境から5本の懸垂文が付けられている。その懸垂文の2本は、胴部中央に刻みが付いた隆帯から上方にゆるく二股に分かれている。他の3本の懸垂文は途中に強い「つ」の字状文に施されるが、1本は向きが反対になっている。こうした懸垂文は阿玉台の要素である。内面の磨

きは非常に丁寧で、阿玉台式土器特有の磨きで、勝坂式等に見られる密な磨き痕が見られない。阿玉台式土器の内面処理は指でこなつたものか。筆者にはよく分からない。

以上、胴部文様を表出した断面三角形の隆帯、隆帯に刻みの施し方、幅の狭い杵状文、口唇部内面の三角沈刺文等から、また、内面の処理の仕方から阿玉台1a式(西村正衛1976『千葉県小見川町阿玉台貝塚』学術研究19。早稲田大学教育学部、塚本師也2008「阿玉台式」、『総覧縄文土器』アム・プロモーション)と考えてみた。

次に胴部文様の懸垂文で文様構造に若干ふれておきたい。懸垂文の5本は略等間隔にほどこしているが、図正面に対して、左に「隆帯刻み文」A、右に「つ」の字状文」Bを置いている。これをA+Bとすると、図正面の裏には、「つ」の字状文」は反対向きに付けられたBとAが組み合わさって、A+Bを構成している。しかも、もう一つBがあって、全体を、A+B+A+B+Bとなり、5単位文様となる。この5単位は、あくまでA+Bの2項対立を基本にして、Bに対する対立をB+Bとして表現し、全体の二重の2項対立として具現した結果、5単位の文様構造が成立したと想定できるのである。『Bに対する対立をB+B』として想定した。こうした構造は、単純な2種の文様のみで、5単位の文様を生成することにあるのである。中期土器の文様の基本配列構造にはいくつか存在し、上記例でも型式をこえて長く維持されていることが分かる。きせずして5単位文様の典型についてふれた。それにしても口縁部文様が欠落していたのは残念である。いずれにしろ阿玉台1a式期に5単位文様が既に確立している例である。(笹森健一)

溝2出土遺物

2は灰釉陶器灯明脚付受皿、信楽産、19世紀。3は染付磁器猪口、瀬戸・美濃産19世紀後半。4は鉄釉陶器播鉢、瀬戸・美濃産。

溝3出土遺物

5は陶器播鉢底部、堺産、18世紀後半～19世紀。6は鉄製錠。

遺構外出土遺物

7は染付磁器急須蓋、肥前産、19世紀後半。8は透明釉土器。9は真鍮通宝四文銭、(11波)径28cm、方孔径06cm、厚さ013cm。

第6章 苗間東久保遺跡第26地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、さかい川の谷頭部から約1,800m下った右岸、さかい川と浄禅寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高10～11m、現谷底との比高差は1～1.5mを測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禅寺川対岸には浄禅寺跡遺跡がある。

遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

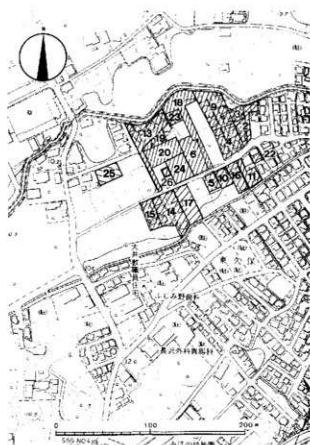
本遺跡の最初の調査は1979年に開発に伴う緊急調査として行われた。2013年1月現在30ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

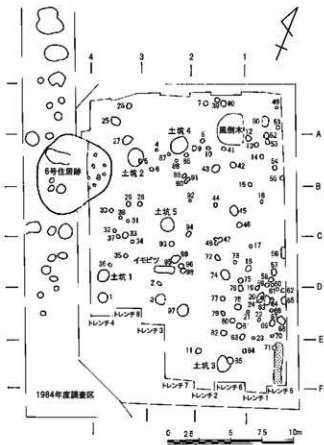
II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2010年5月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構等の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年6月1日から11日まで行った。幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代後期の住居跡他、土坑、ピット多数を確認した。遺跡確認までの深さは約50cmで、遺構への影響が避けられないため申請者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。本調査は2010年7月2日から7月23日まで行い、縄文時代後期の住居跡1軒、土坑5基、ピット99基、風倒木痕、溝状土坑(イモピット)等を調査した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第65図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)



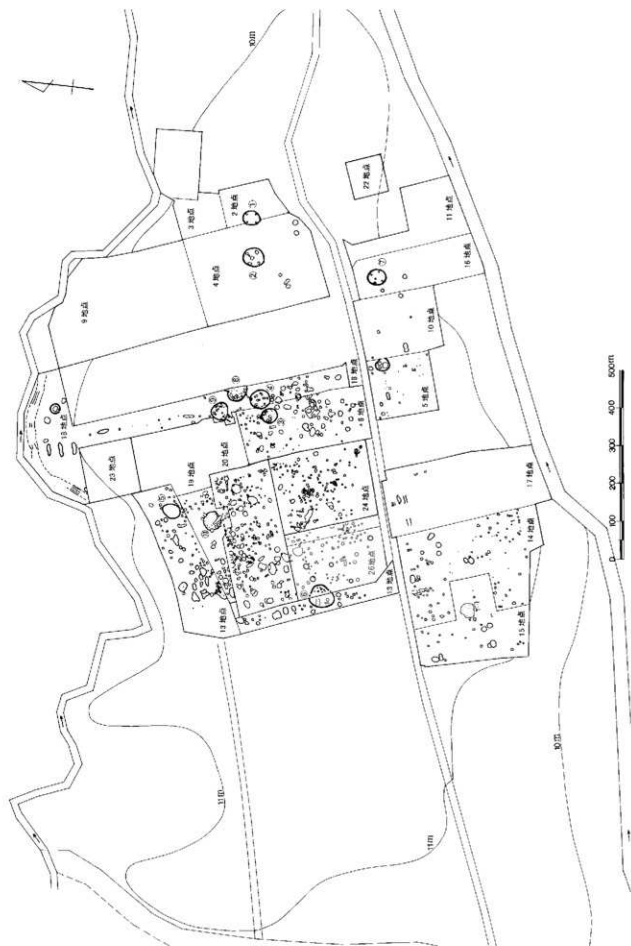
第66図 苗間東久保遺跡第26地点遺構配置図(1/300)

第23表 苗間東久保遺跡調査一覧表

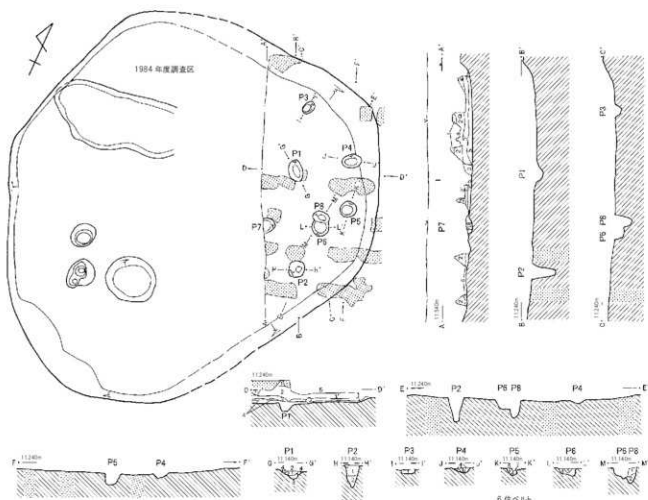
地点	調査年	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1979	605	共同住宅	炉穴10、土坑14、加曾利EⅡ式土器・石器	東部遺跡群Ⅰ
2	1979	530	共同住宅	住居1、縄文中期後半土器	東部遺跡群Ⅰ
3	1980	200	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群Ⅱ
4	1980	750	共同住宅	住居2、土坑6、縄文中期後半土器 他	東部遺跡群Ⅱ
5	1980	106	共同住宅	炉穴2、集石1、土坑3、柱穴32、ピット6、縄文早期・後期土器	東部遺跡群Ⅱ
6	1980	577		住居2、炉穴4、土坑23、柱穴群、縄文中期後半・称名寺式土器	東部遺跡群Ⅱ
7	1982	396	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群Ⅲ
8	1982	360	共同住宅	遺構なし、遺物無し	東部遺跡群Ⅳ
9	1983	660	共同住宅	池状遺構、土坑1、縄文中・後期土器・石器	東部遺跡群Ⅴ
10	1984	340		土坑5、ピット45、縄文後期堀之内式土器	未報告
11	1984	560		遺構なし、縄文中期勝坂式土器 他	未報告
12	1984	320	共同住宅	遺構なし、縄文中期加曾利E式土器 他	未報告
13	1984	900		住居2、土坑88、ピット10、縄文堀之内式・加曾利B式土器	大井町史資料Ⅰ
14	1987	923		土坑7、ピット92、平安以降ピット6、縄文後期土器	東部遺跡群Ⅸ
15	1988	447	共同住宅	土坑7、ピット21、縄文後期称名寺式・堀ノ内式土器	東部遺跡群Ⅸ
16	1989	390	共同住宅	住居1、土坑2、縄文中期後半・後期前半土器	東部遺跡群ⅩⅠ
17	1990	583	駐車場	土坑1、縄文前期・後期土器	町内遺跡群Ⅰ
18	1992	906	分譲住宅	住居3、落とし穴5、土坑11、ピット14、縄文前期・後期土器	調査会報告5集
19	1994	350	宅地開発	落とし穴1、住居1、土坑5、ピット39、縄文早期後半・後期土器・石器・土製円盤	調査会報告12集
20	1998	664	個人住宅	土坑28、集石土坑5、ピット128、縄文後期土器、旧石器、泥面子	調査会報告12集
21	1999	350	個人住宅	土坑2、縄文土器・石鏃	町内遺跡群Ⅸ
22	2001	99	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内遺跡群ⅩⅠ
23	2004	104	個人住宅	遺構・遺物なし、	町内遺跡群ⅩⅡ
24	2006	561	分譲住宅	土坑5、ピット45、縄文早期前半～後期中葉土器・石器	市内遺跡群2
25	2007	414	分譲住宅	ピット3	市内遺跡群4
26	2010	429	分譲住宅	縄文後期住居1、土坑5、ピット99、風倒木痕1	市内遺跡群12

第24表 苗間東久保遺跡住居一覧表(単位cm)

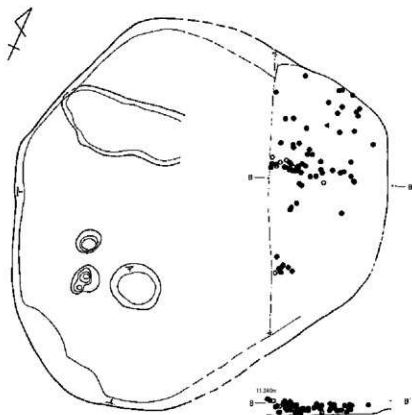
住居 番号	調査 率	平面形 ()は 推定	規模	炉			埋 裏	拡 張	壁溝	備考	時期	文献
				地 床	理 設	石 囲						
1	75%	円形	440×380×20	○							加曾利EⅠ新	東部遺跡群Ⅰ
2	完掘	楕円形	535×470×15	○					床面直上		加曾利EⅠ新	東部遺跡群Ⅱ
3	完掘	柄鏡形	400×380×10	○				有			称名寺Ⅰ	東部遺跡群Ⅱ
4	完掘	隅丸方形	520×490×25		○			有			加曾利EⅠ新	調査会報告5集
5	50%	円形	240×220	○					床面直上		堀之内Ⅱ	大井町史資料編Ⅰ
6	完掘	円形	635×590×18						床面直上		加曾利BⅠ	大井町史資料編Ⅰ 市内遺跡群12
7	完掘	楕円形	470×400×10		○				床面攪乱		加曾利EⅠ新	東部遺跡群Ⅸ
8	60%	楕円形	500×450	○						○	(加曾利E)	調査会報告5集
9	完掘	柄鏡形	540×400	○			②		低い張出部		加曾利EⅣ	調査会報告5集
10	完掘	柄鏡形	460×442×42	○							称名寺Ⅰ	調査会報告12集



第67図 苗間東久保遺跡遺構分布図 (1/1,000)



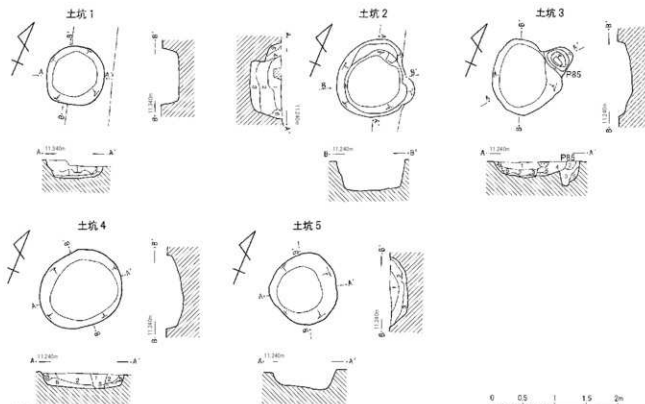
遺物出土状況図



6号穴

1. 黒褐色土 粘り有、粘性有、ロームブロック・粒土やや多く含む
 1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、0.5mm以下ローム粒・炭土粒盛かに含む
 2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒・炭土少し含む
 3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、色調2層より黒色味が有り、2mm以下炭土・炭化物をやや多く含む(3'より黒色味強い)
 - 3' 黒褐色土 粘り強、粘性有、色調2層より黒色味が有り、1mm以下ローム粒・炭土をやや多く含む
 4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、3mm以下炭土・炭化物を多く、明黄褐色(焙焼したような)ロームを少し状にやや多く含む
 5. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム土を層状にやや多く含む、3mm以下炭化物少し含む
 6. 黒褐色土 粘り強、粘性有、シニ状にロームブロック少し、2mm以下ローム粒少し含む
 7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、シニ状にロームブロックをやや多く含む
- 6号住居跡 ビット
1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、シニ状にロームブロック少し、2mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5~15mmロームブロックをやや多く含む
 3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、3mm以下ローム粒・ローム土をやや多く、色調明るい
 4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く、全体の色調は暗黄褐色
 5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、シニ状にロームブロックをやや多く含む
- 0 C9 1 15 2m

第 68 図 苗間東久保遺跡第 26 地点 6 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)



土坑 1

1. 耕作土
1. 黒褐色土 締り強、2mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、5mm以下ローム粒多く含む

土坑 2

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 (色調は明るい) 締り強、粘性有、1~5cmロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層より色調暗い、1~3cmロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cmロームブロック・1mm以下ローム粒少し含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体でシミ状に黒褐色土が混ざる
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

土坑 3

1. 黒褐色土 締り強、色調は明るめ、2mm以下ローム粒少し、2mm以下炭化物やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、1cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く、2mm以下焼土・炭化物少し含む

3. 暗褐色土 締り強、ハードロームブロック主体
4. 暗褐色土 締り強、3mm以下ローム粒やや多く含む
5. 暗褐色土 締り強、ロームブロックやや多く、2mm以下ローム粒多く含む

土坑 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少しやや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ローム粒少し・3mm以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ハードロームブロックやや多く含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、淡く団状ローム土をやや多く含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む、色調明るい
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、淡く団状ローム土をやや多く含む
8. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体で、黒褐色土が少し混ざる

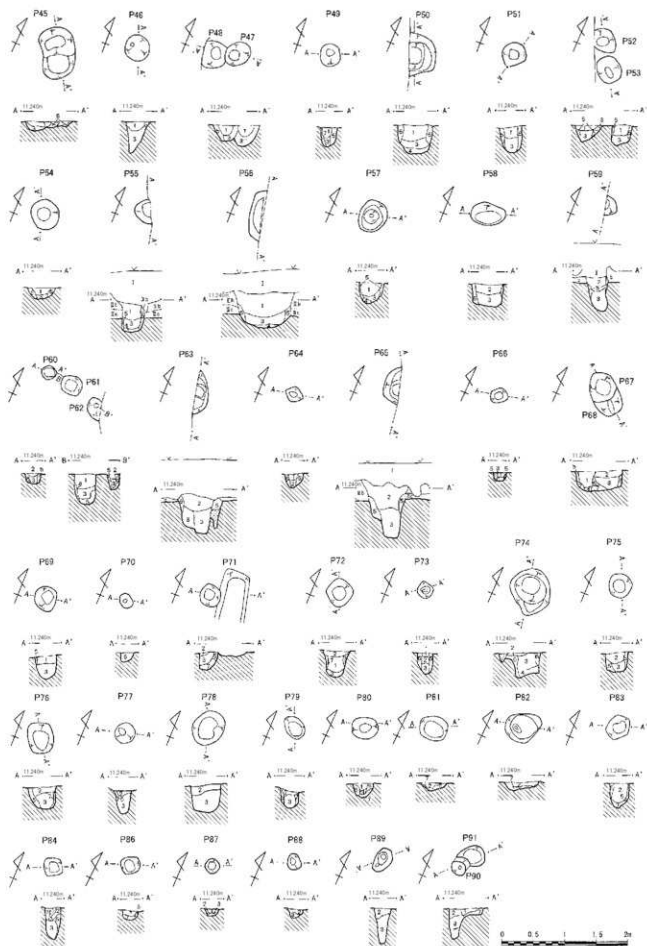
土坑 5

1. 暗褐色土 締り強、1cm以下ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 締り強、3mm以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、シミ状にロームブロック多く含む

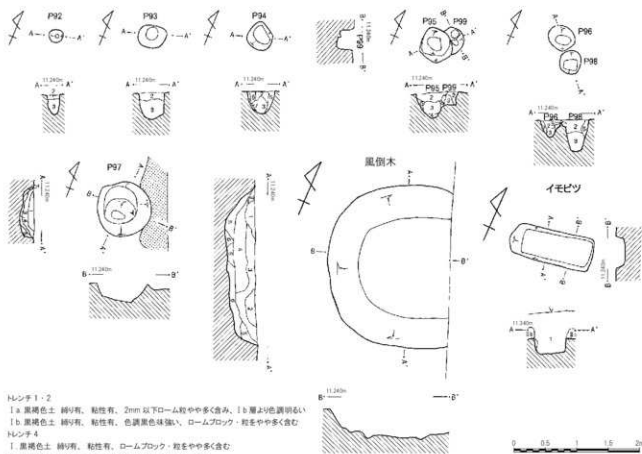
第 69 図 苗間東久保遺跡第 26 地点土坑 (1/60)



第70図 苗間東久保遺跡第26地点ビット① (1/60)



第71図 苗間東久保遺跡第26地点ビット② (1/60)



トレンチ 1・2

- I a 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、I b層より色調明るい
 I b 黒褐色土 締り有、粘性有、色調黒色味強い、ロームブロック・粒をやや多く含む

トレンチ 4

- I 黒褐色土 締り有、粘性有、ロームブロック・粒をやや多く含む
 II a 黒褐色土 締り有、1mm以下ローム粒・焼土少し含む
 II b 黒褐色土 締り有、色調は褐色味が有り明り、2mm以下ローム粒・焼土少し含む
 II c 暗褐色土 締り有、(II bにロームがうっすら面状に混ざったような色調)

II d

III 地山ローム
 ビット 1～99

0

- 1 黒褐色土 締り強、2mm以下ローム粒・焼土少し含む
 2 暗褐色土 締り強、3mm以下ローム粒少し～やや多く含む
 2' 2mm以下焼土も少し含む
 3 黒褐色土 締り強、1cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
 (6トレンチでは締り強、ロームブロックが深い面状を呈するものも含まれた)

3' ロームブロックは無し

- 4 黒褐色土 締り強、ローム粒多量に含む
 4' 黒褐色土 締り強、2cm以下ハードロームブロックやや多く含む

- 5 暗褐色土 締り強、淡く面状にローム土をやや多く含む
 6 暗褐色土 締り強、2mm以下ローム粒多く含む、色調明るい
 7 黒褐色土 締り強、淡く面状にローム土をやや多く含む
 8 黄褐色土 締り強、ローム土主体で黒褐色土が少し混ざる

風倒木

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、色調は明るめ、2mm以下ローム粒やや多く含む
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、1～2cmロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む
 4 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm大ロームブロックやや多く、ローム土多く含む、黄色味が有る
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ハードロームブロック少し含む、ソファローム土主体

6 暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ハードロームブロック多く含む、ソファローム土主体

イモビツ

- 1 黒褐色土 黒色味強い、5mm以下ローム粒やや多く含む

第72図 苗間東久保遺跡第26地点ビット③・風倒木・イモビツ (1/60)

Ⅲ 遺構と遺物

① 6号住居跡

【位置・形状・規模】調査区の北西端に位置する。1984年度に調査した6号住居跡の東側半分にあたる。平面形は楕円形で、規模は東西6.35m、南北5.9mである。深さは確認面から18cmである。住居跡のほぼ中央の南北部分は、調査区域の境界のため未調査となってしまった。跡は確認できなかった。

【ピット】今回の調査で8基、1984年度の調査で4基、計12基検出した。

【時期】出土遺物から縄文時代後期。

② 土坑

5基検出した。いずれも縄文時代の遺構と思われる。

③ ピット

99基検出した。いずれも縄文時代の遺構と思われる。P7、11、19、28、50、72、85、94からは縄文土器片・石器を検出した。

④ 風倒木痕

1基検出した。縄文遺構より古い。

⑤ 出土遺物

6号住居跡出土遺物

1は沈線区画内をR L縄文で充填する。2は口縁直下に浮文付の微隆帯と横位の平行沈線を巡らし、区画内を沈線による格子文で充填する。口縁内側も沈線を巡らす。3～5は刻みを入れた微隆帯と横位の沈線で構成された口縁破片。地文は横位のLR縄文。6は口縁内側に沈線。7～9・11・12は平行沈線を巡らし、横位のLR縄文と無文部分で横帯文を作り出す類。7はクランク状の縦沈線と円形刺突で区画し、11は「L」字沈線でクランク状に区画する。7・8は口縁直下は斜位の刻目。8は口唇部も刻む。10は内側に突帯が巡り、内外に横位沈線、口唇部を刻む。13は横位のLR縄文施文後に平行沈線。14は平行沈線を巡らし、刻目と無文部分で横帯文を作り出す。15は口縁が屈曲する浅鉢。16は注口土器破片で沈線による渦巻文を施文。17は沈線区画内を無節L縄文で充填。18・19は口縁突起。20～22は沈線による格子文。23はR L縄文に斜位の平行沈線。24はL R縄文を斜位に施文。25は無文の粗製深鉢。26は口縁直下を「>」形に削った工具による刻目を巡らし、平行沈線で文様を描く。27～29は底部破片で網代圧痕がある。27は2本越え1本潜り1本送りの網代編み。いずれも加曾利B1式。

ピット出土遺物

30はP7出土の底部破片で1本越え1本潜り1本送りの網代圧痕。31・32はP11出土で31は口縁突起、32は敷石。33はP19出土の無文粗製土器。34はP28出土。縦位のL R縄文に刻目の有る隆帯と沈線。35はP50出土で6号住居跡3～6と同類。36はP72出土で打製石斧。37はP85出土で、口縁直下には刻目のある微隆帯とL R縄文で充填した平行沈線文様で横帯文と渦巻文を配置する。いずれも加曾利B1式。

遺構外出土遺物

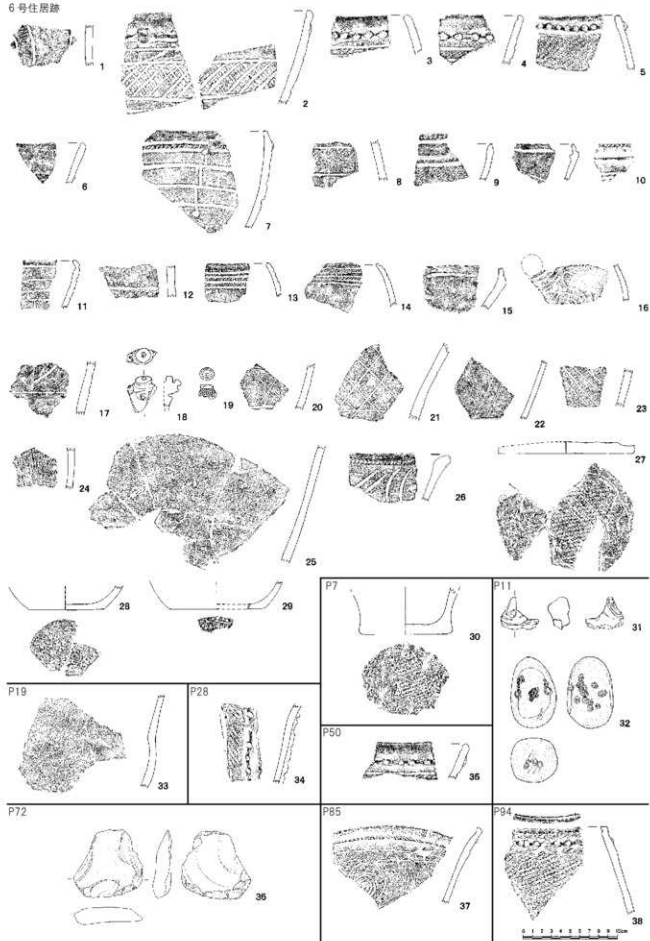
39は波状口縁破片で口縁直下に刻目のある微隆帯と「8」字状浮文。胴部は平行沈線による三角文。40～46は口縁直下に刻目のある微隆帯で、45・46は横位のL R縄文を地文とする。47は横位のLR縄文で横帯文を作り出し「L」字沈線でクランク状に区画する。48～52は外面横位平行沈線、内面は横位平行沈線を巡らし、口唇直下は棒状工具による刺突文。口唇部も丁寧な刻目を施す。49～52は外面に地文L R縄文で、50・51は同一個体でクランク状の縦沈線の区画がある。53は内面平行沈線で斜位の刻目と無文帯を交互に配する。突起部分からは縦にL R縄文を施文した微隆帯が伸びる。口縁は小さな波状をなす。54・55は平行沈線を巡らし、横位のLR縄文と無文部分で横帯文を作り出す類。56～59は口縁突起。39～43までは軀之内2式、44～59は加曾利B1式。60は注口部分。61はR L縄文、62は外面指撫で、63はL R縄文、64～73は底部破片で網代圧痕がある。74は土器片利用の土製円盤。縦位のL R縄文を地文。75・76は近世の泥面子（芥子面）。77～88は石器一覧表を参照。

第25表 苗間東久保遺跡第26地点遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	72 × 65	28 × 25	40	
P2	長方形	41 × 29	6 × 3	40	
P3	不明	94 × (45)	23 × 14	32	
P4	楕円形	42 × 31	19 × 12	22	
P5	不明	43 × (21)	11 × (5)	41	
P6	方形	40 × 31	12 × 11	59	
P7	楕円形	60 × 41	30 × 18	19	縄文土器出土
P8	円形	34 × 30	5 × 5	27	
P9	不明	53 × (37)	14 × 8	27	
P10	円形	32 × 30	6 × 3	34	
P11	円形	44 × 44	26 × 19	101	縄文土器・磨石出土
P12	円形	56 × 55	33 × 31	17	
P13	円形	36 × 32	17 × 13	41	
P14	不明	45 × (18)	24 × (11)	27	
P15	円形	33 × 28	13 × 11	20	
P16	不明	41 × (24)	34 × (17)	20	
P17	円形	46 × 35	18 × 14	31	
P18	円形	48 × 40	14 × 13	87	
P19	円形	43 × 40	20 × 16	40	縄文土器出土
P20	不明	65 × (48)	19 × (15)	48	
P21	円形	41 × 38	16 × 16	37	
P22	円形	32 × 28	19 × 15	32	
P23	円形	27 × 22	11 × 9	28	
P24	不明	38 × (24)	25 × (18)	97	
P25	円形	74 × 65	59 × 42	14	
P26	円形	33 × 30	6 × 4	43	
P27	楕円形	71 × 57	9 × 6	22	
P28	円形	43 × 41	23 × 22	27	縄文土器出土
P29	楕円形	47 × 36	14 × 11	28	
P30	円形	44 × 42	18 × 11	17	
P31	円形	29 × 24	13 × 10	27	
P32	円形	32 × 30	16 × 10	28	
P33	円形	37 × 34	5 × 3	46	
P34	方形	29 × 22	15 × 13	29	
P35	円形	31 × 28	7 × 4	55	
P36	円形	26 × 22	12 × 7	44	
P37	楕円形	39 × 25	18 × 10	22	
P38	円形	26 × 22	4 × 3	36	
P39	円形	49 × 44	25 × 18	23	
P40	円形	57 × 47	36 × 23	36	
P41	円形	28 × 22	14 × 12	55	
P42	円形	57 × 44	8 × 7	30	
P43	円形	57 × 55	39 × 32	27	
P44	円形	33 × 30	6 × 6	24	
P45	楕円形	84 × 54	33 × 19	17	
P46	円形	41 × 38	6 × 5	52	
P47	円形	43 × 35	17 × 16	28	
P48	不明	43 × (35)	21 × 16	35	
P49	円形	35 × 31	12 × 12	32	
P50	不明	73 × (42)	25 × (19)	46	縄文土器出土
P51	円形	36 × 36	15 × 15	40	
P52	不明	48 × (33)	18 × 15	31	
P53	円形	42 × 35	18 × 9	32	

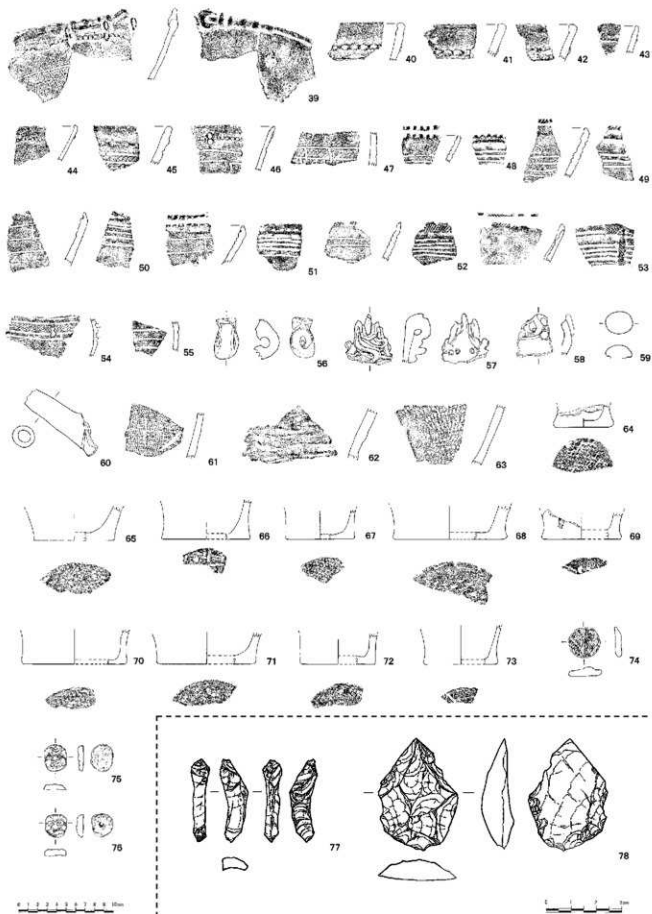
No.	平面形	確認面	底面	深さ	備考
P54	円形	48 × 43	20 × 19	18	
P55	不明	39 × (26)	25 × (12)	23	
P56	不明	81 × (22)	59 × 13	21	
P57	円形	51 × 44	7 × 5	32	
P58	楕円形	55 × 36	43 × 20	37	
P59	不明	31 × (18)	17 × 5	44	
P60	円形	24 × 23	17 × 15	17	
P61	円形	33 × 30	18 × 17	46	
P62	不明	32 × (21)	7 × 6	25	
P63	不明	70 × (20)	16 × (13)	52	
P64	方形	24 × 22	13 × 8	26	
P65	不明	60 × (26)	20 × (11)	62	
P66	円形	27 × 22	12 × 12	20	
P67	円形	47 × 41	24 × 23	31	
P68	不明	44 × (25)	23 × 7	34	
P69	円形	37 × 34	18 × 18	42	
P70	円形	23 × 19	7 × 5	18	
P71	円形	34 × 34	16 × 16	31	
P72	円形	40 × 39	21 × 20	45	石匙出土
P73	円形	24 × 23	8 × 5	35	
P74	円形	69 × 60	28 × 27	38	
P75	円形	39 × 37	21 × 19	33	
P76	方形	49 × 39	30 × 23	39	
P77	円形	33 × 32	12 × 10	43	
P78	円形	57 × 48	38 × 28	45	
P79	円形	40 × 28	26 × 19	36	
P80	円形	40 × 36	19 × 13	25	
P81	円形	44 × 39	32 × 23	17	
P82	円形	55 × 50	6 × 3	16	
P83	円形	41 × 34	22 × 16	37	
P84	方形	28 × 28	17 × 15	48	
P85	方形	46 × 37	16 × 8	46	縄文土器出土
P86	方形	29 × 26	18 × 14	16	
P87	円形	24 × 24	13 × 11	15	
P88	円形	25 × 22	13 × 9	18	
P89	楕円形	40 × 26	9 × 7	64	
P90	円形	30 × 26	5 × 4	53	
P91	不明	36 × (30)	23 × (23)	13	
P92	円形	23 × 21	6 × 6	36	
P93	円形	45 × 37	20 × 18	34	
P94	円形	53 × 51	21 × 20	39	縄文土器出土
P95	円形	39 × 39	30 × 21	45	
P96	円形	43 × 38	25 × 15	25	
P97	円形	85 × 85	23 × 12	36	
P98	円形	38 × 33	21 × 18	51	
P99	不明	41 × (21)	14 × 13	31	
土坑1	円形	93 × 91	72 × 70	28	
土坑2	円形	127 × 122	83 × 79	51	
土坑3	円形	120 × 112	100 × 75	24	
土坑4	円形	133 × 117	110 × 90	26	
土坑5	円形	113 × 107	71 × 71	31	
イモビ	長方形	133 × 54	108 × 40	24	
風倒木	不明	259 × (193)	158 × (145)	51	

6号住居跡

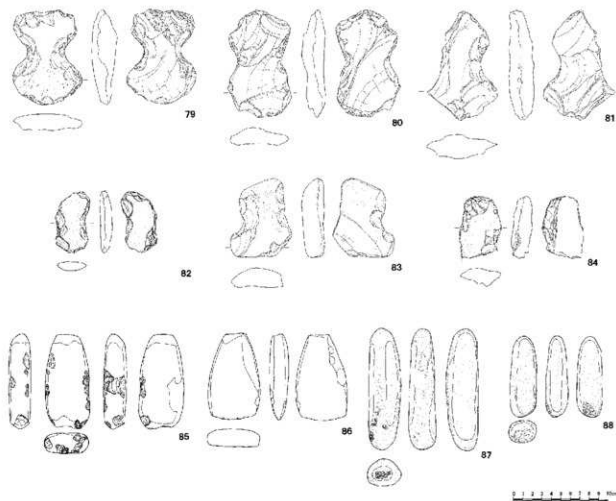


第73図 苗間東久保遺跡第26地点出土遺物① (1/4)

遺構外



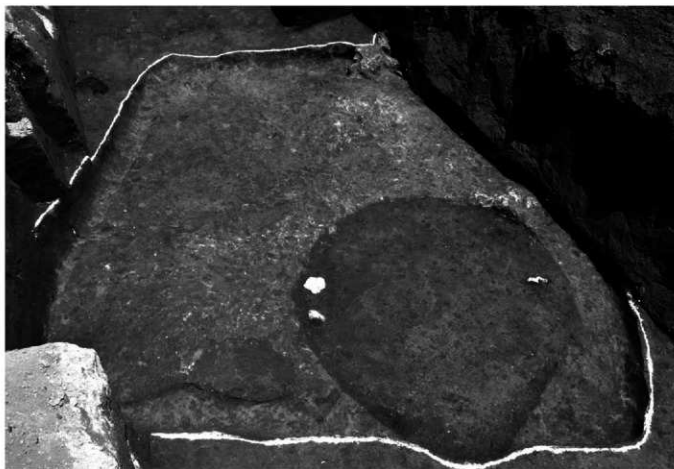
第74図 苗間東久保遺跡第26地点出土遺物② (1/4・2/3)



第75図 苗間東久保遺跡第26地点出土遺物③ (1/4)

第26表 苗間東久保遺跡第26地点出土石器一覧表 (単位cm)

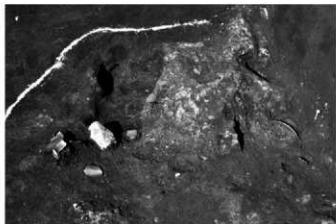
図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別	長さ	刃部幅	厚さ	重量	技法/その他	石材/ 推定生産地	推定年代・ 時期	残存/ 備考
73	32	P11	磨石・敲石	7.4	5.1	5.0	234.1g	敲打	安山岩	縄文時代	完形
	36	P72	打製石斧 (石匙)	6.8	6.5	1.6	99.7g	両極敲打技法	フォルンフェルス	縄文時代	完形
74	77	遺構外	剥片石器	3.3	1.0	0.5	1.7g	打面調整剥片/C区2	黒曜石	旧石器	完形
	78	遺構外	尖頭器	4.4	3.1	0.9	13.7g	横長剥片の縁部調整/トレン チ6	チャート	旧石器	完形
75	79	遺構外	打製石斧	9.8	7.2	2.5	202.8g	両極敲打技法/トレンチ6	フォルンフェルス	縄文時代	完形
	80	遺構外	打製石斧	11.3	6.7	2.3	169.3g	両極敲打技法/トレンチ5	フォルンフェルス	縄文時代	完形
	81	遺構外	打製石斧	11.6	7.5	2.6	192.2g	両極敲打技法/B区1	フォルンフェルス	縄文時代	完形
	82	遺構外	打製石斧	6.7	3.2	1.1	37.1g	両極敲打技法/H4	チャート	縄文時代	完形
	83	遺構外	打製石斧	8.2	6.5	2.3	151.1g	両極敲打技法/トレンチ5	砂岩	縄文時代	完形
	84	遺構外	打製石斧	6.4	-	2.0	62.7g	両極敲打技法/A区1	頁岩	縄文時代	刃部欠
	85	遺構外	磨製石斧・ 敲石	9.8	-	2.5	231.8g	磨製成形後敲打し敲き石と して使用か/H7	頁岩	縄文時代	完形
	86	遺構外	磨製石斧	9.0	4.6	2.0	185.9g	磨製成形/トレンチ3No2	緑色岩	縄文時代	完形
	87	遺構外	敲石	12.9	-	2.6	226.6g	敲打/F区1	硬質砂岩	縄文時代	完形
	88	遺構外	敲石	8.5	-	2.2	98.0g	敲打/F区2	硬質砂岩	縄文時代	完形



H30 号住居跡 全景 (西から)



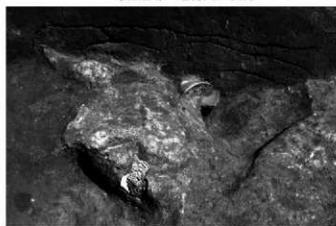
H30 号住居跡 掘方



H30 号住居跡 遺物出土状況



H30 号住居跡 刀子出土状況



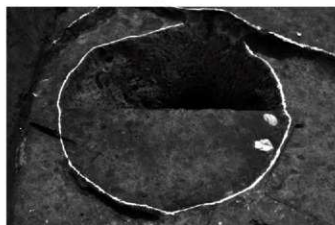
H30 号住居跡 竈



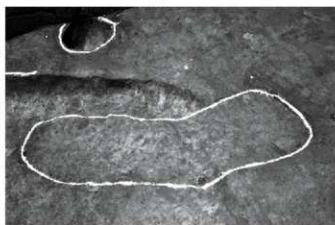
井戸1



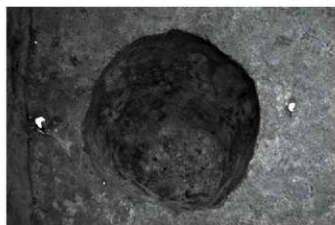
井戸2



井戸2



土坑1



ピット1



ピット2



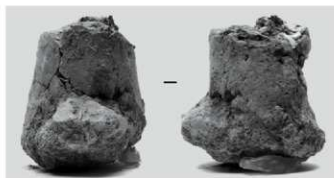
ピット6



調査風景



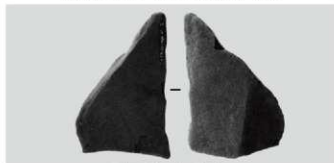
H30 号住居跡 出土遺物 No.12 罎



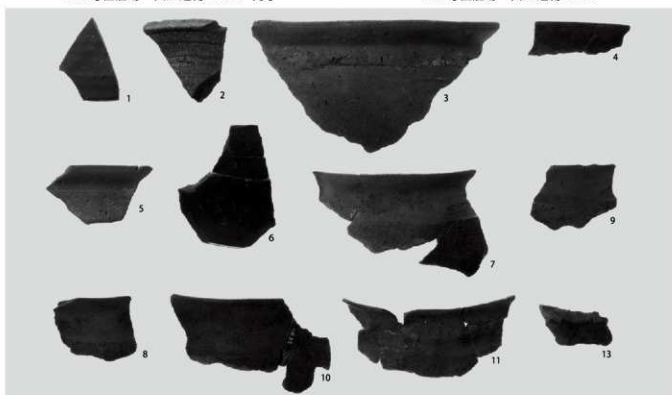
H30 号住居跡 出土遺物 No.15 支脚



H30 号住居跡 出土遺物 No.14 刀子



H30 号住居跡 出土遺物 No.16



H30 号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 11・13



遺構外 出土遺物 No.17 ~ 19



H31A 号住居跡 全景 (南から)



H31 号住居跡 刀子出土状況



H31A 号住居跡 竈 1 遺物出土状況



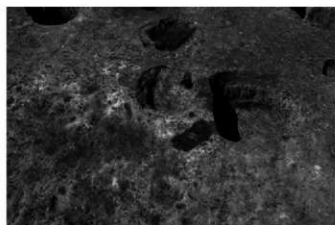
H32 号住居跡 全景 (南から)



H31A 号住居跡 完掘



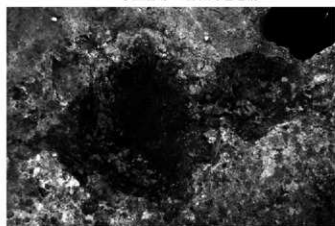
H318 号住居跡 完掘 (南から)



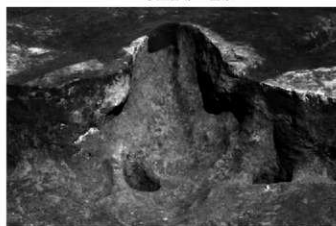
H318 号住居跡 鍛冶関連遺構



H318 号住居跡 全景



H318 号住居跡 鍛冶関連遺構



H318 号住居跡 竈



掘立柱建物跡 全景(南から)



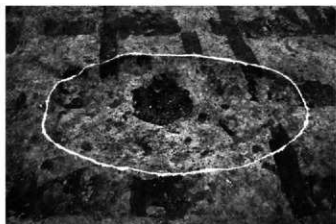
ビット群 全景(南から)



井戸 1



井戸 2



土坑 1



土坑 2



土坑 3・4



土坑 5・6



土坑 7



土坑 8



土坑 9・10



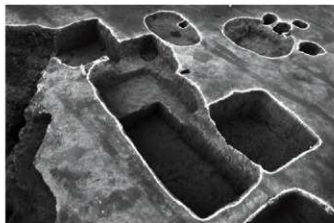
土坑 12~14



土坑 14



土坑 15



土坑 3・4・11~16



土坑 17



土坑 18



土坑 19・20



溝 1 ~ 3



溝 4



調査風景



3



4



5



6



9



10



7



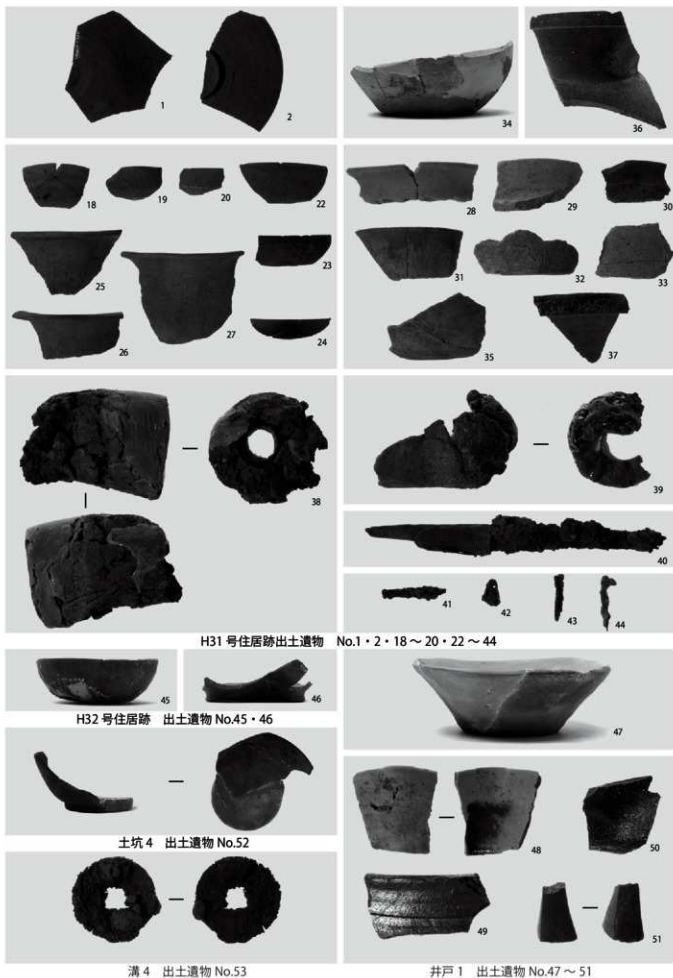
8



17



21





トレンチ 2 中央部 (南から)



トレンチ 7 南側 (北から)



トレンチ 3・4 中央部 (南から)



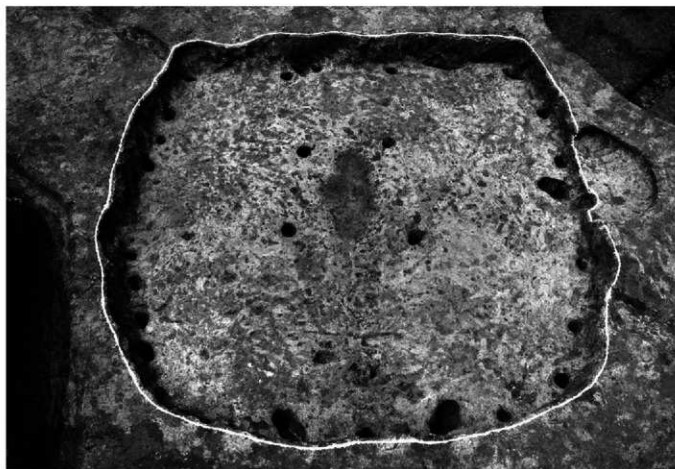
J10～13 号住居跡 (南から)



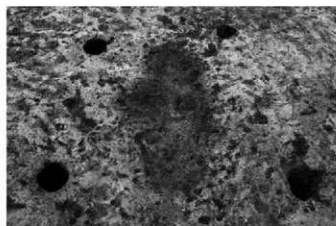
土坑・ピット群 (北から)



J14・15 号住居跡 (南から)



J10 号住居跡 全景 (東から)



J10 号住居跡 炉



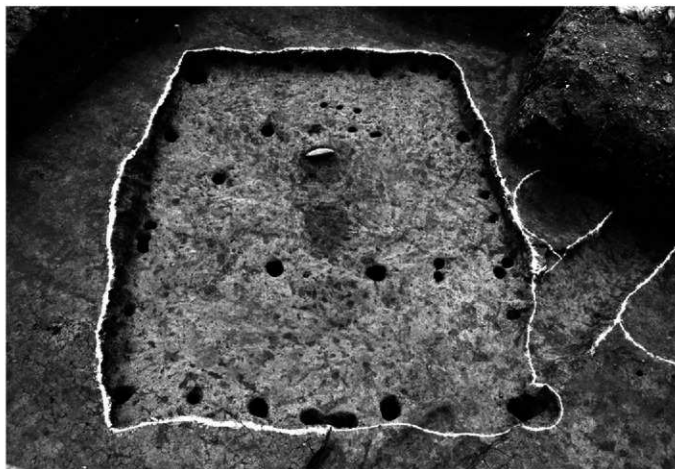
J10 号住居跡 遺物出土状況



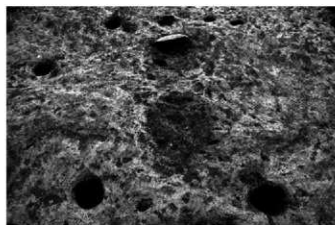
J10 号住居跡 遺物出土状況



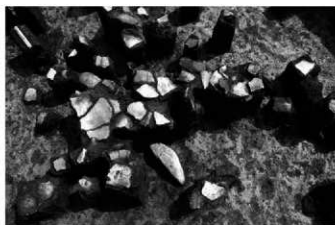
J10 号住居跡 ビット完掘



J11 号住居跡 全景 (東から)



J11 号住居跡 炉



J11 号住居跡 遺物出土状況



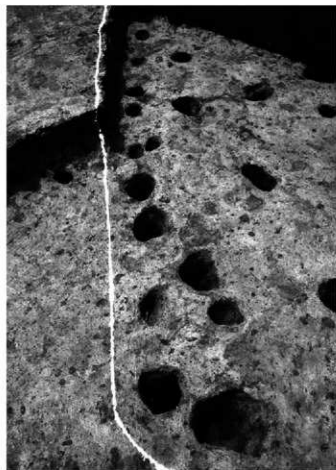
J11 号住居跡 遺物出土状況



J11 号住居跡ピット 32



J12 号住居跡 全景 (東から)



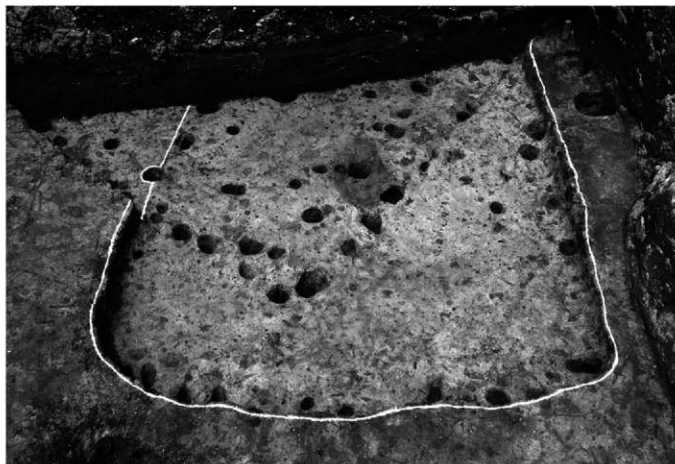
J12 号住居跡ビット 完掘



J12 号住居跡 遺物出土状況



J12 号住居跡 調査風景



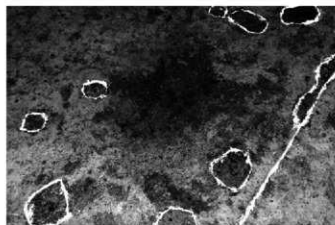
J13 号住居跡 全景 (東から)



J13 号住居跡 遺物出土状況



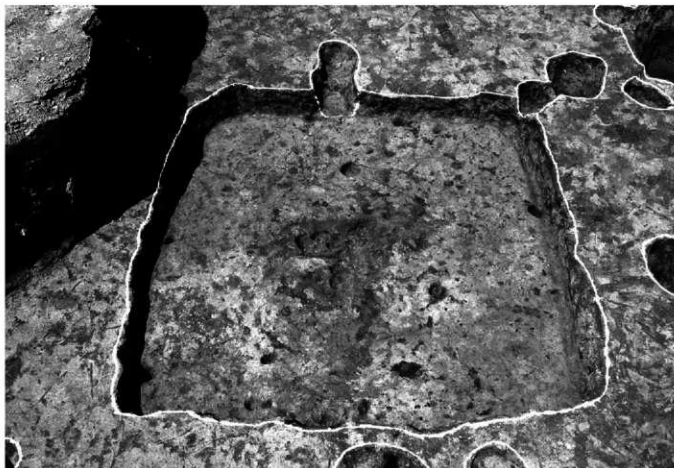
J13 号住居跡 遺物出土状況



J13 号住居跡 炉



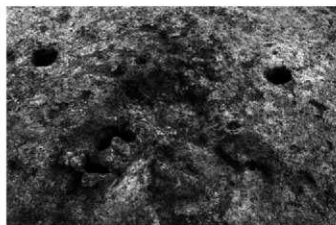
J12・13 号住居跡 全景



J14号住居跡 全景(南から)



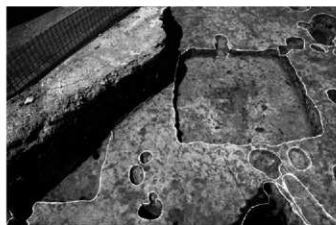
J14号住居跡 遺物出土状況



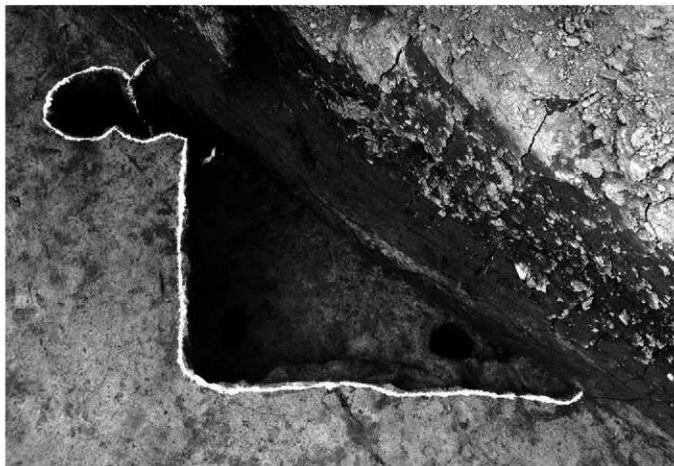
J14号住居跡 炉



J14号住居跡 遺物出土状況



J14号住居跡 全景



J15 号住居跡 全景 (東から)



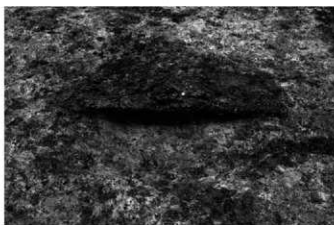
溝 1・3・4



溝 2



焼土面 1~3



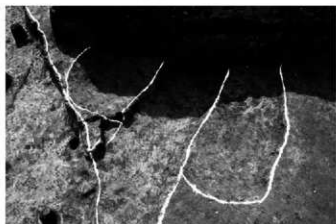
焼土面 4



炉穴 1 ~ 4



炉穴 5 ~ 8



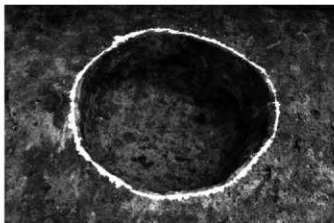
炉穴 9・10



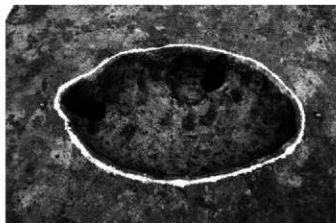
落とし穴 1



落とし穴 2



土坑 1



土坑 2



土坑 3・4



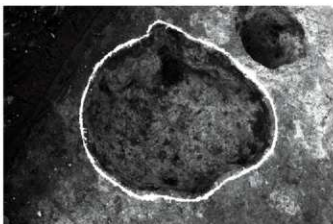
土坑 5



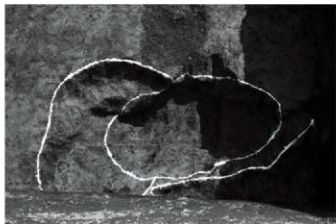
土坑 6



土坑 7



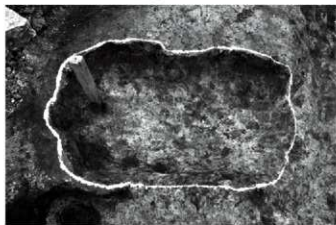
土坑 8



土坑 10~12



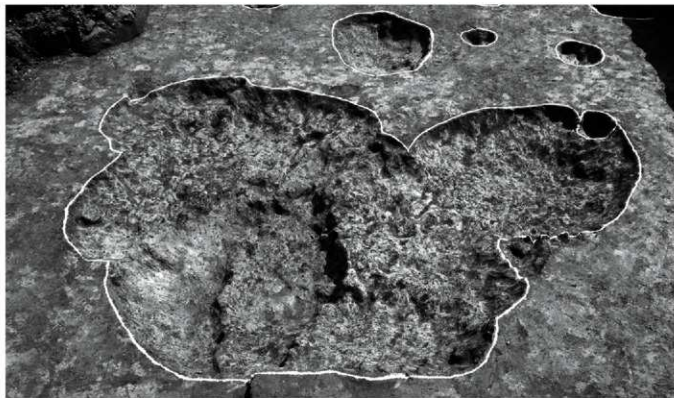
土坑 14



土坑 27



トレンチ 1 土坑 6・8、ビット群



土坑 16 ~ 22、25・26



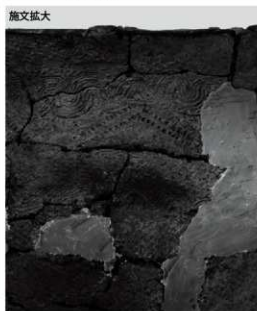
ビット群



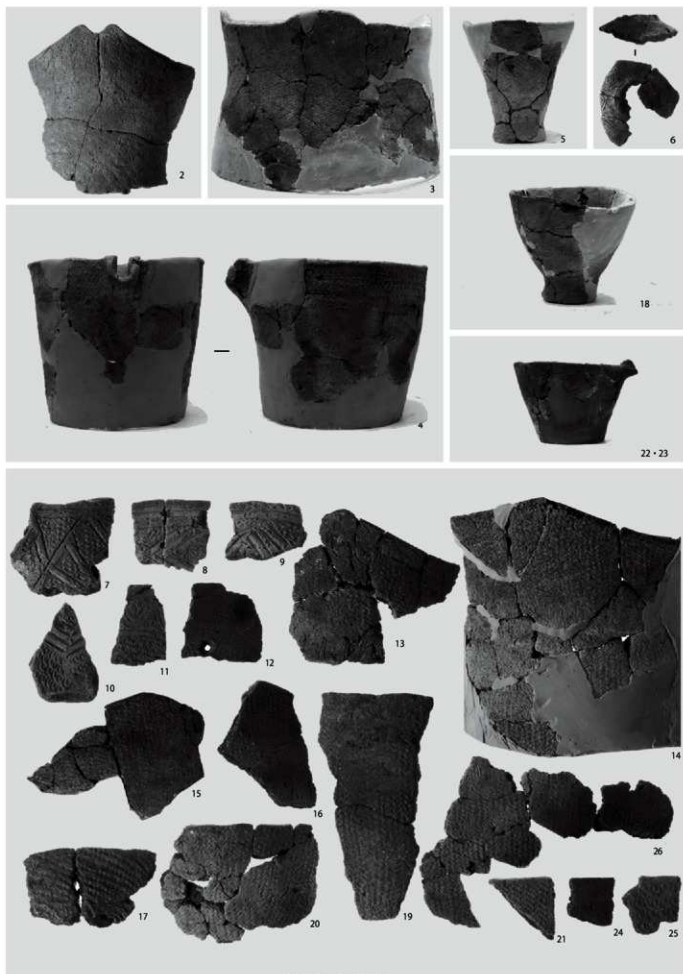
調査風景

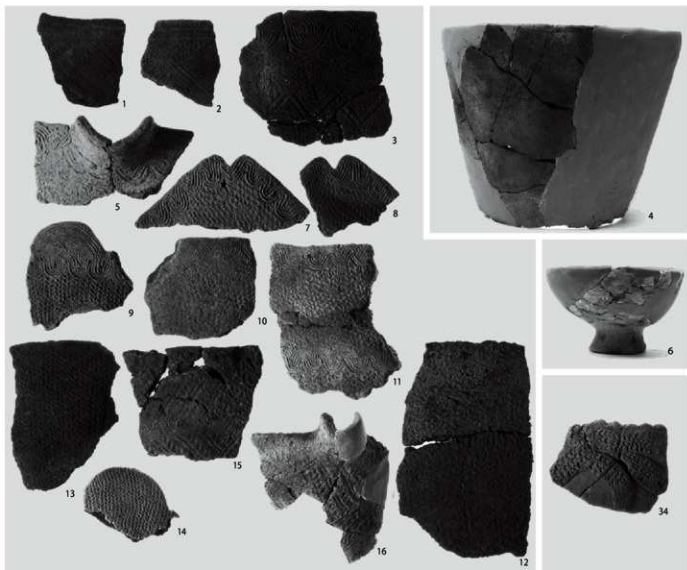


J10 号住居跡出土遺物 No.1

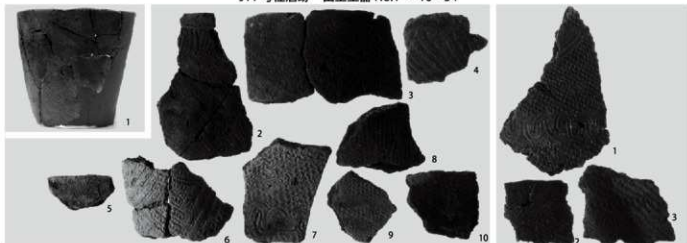


施文拡大





J11 号住居跡 出土土器 No.1 ~ 16・34



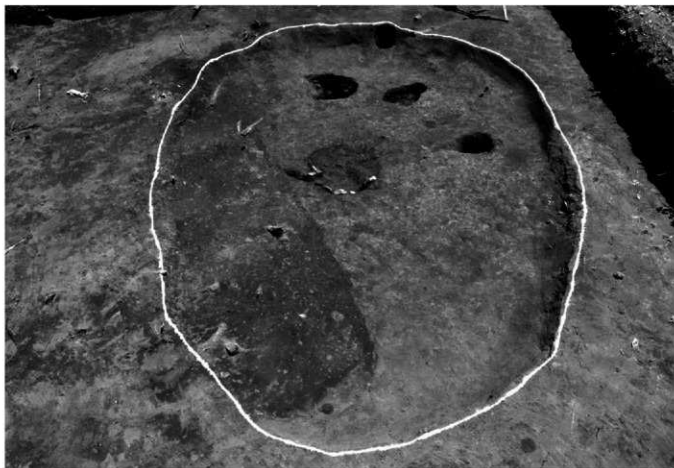
J12 号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 10

J13 号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 3



J14 号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 9

J15 号住居跡
出土遺物 No.1



J1 号住居跡 全景 (西から)



J1 号住居跡 遺物出土状況



J1 号住居跡炉 遺物出土状況



H30 号住居跡鉄器出土状況



J1 号住居跡炉



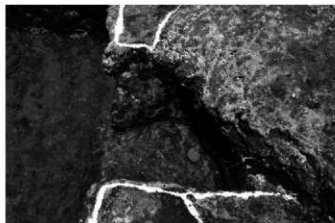
トレンチ 7 中央部 単独出土土器



溝 1 土層



溝 3



溝 2



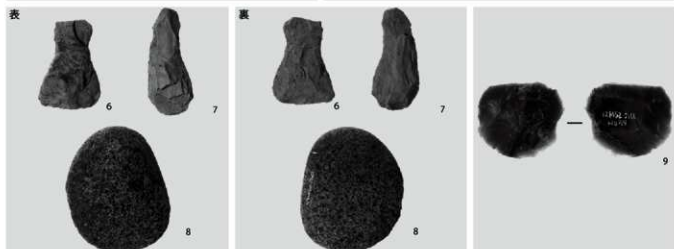
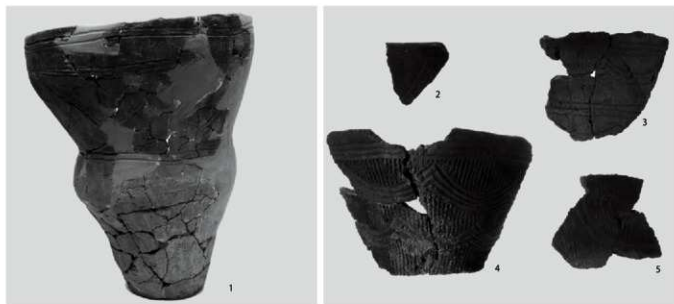
溝 4



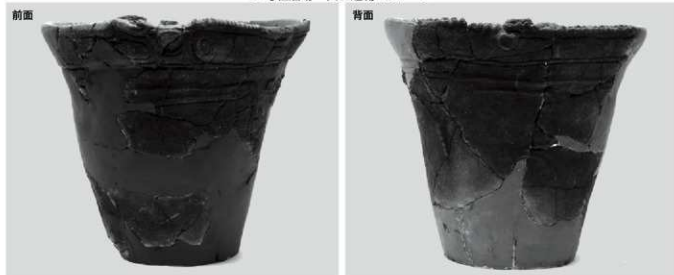
溝 5・6



調査風景



J1 号住居跡 出土遺物 No.1~9



トレンチ 7 中央部 単独出土土器 No.1

遺構外 出土遺物 No.9



トレンチ 5 (南から)



トレンチ 6・8(南から)



トレンチ 6 北半



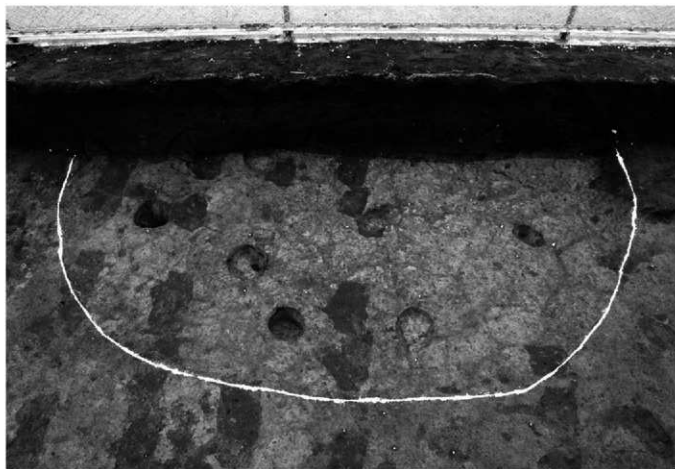
トレンチ 6 南側(南から)



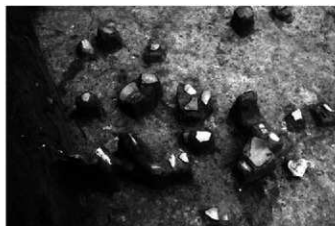
トレンチ 8 (南から)



トレンチ 7 (北から)



J6 号住居跡 完掘 (東から)



J6 号住居跡 遺物出土状況



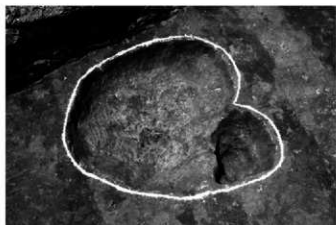
J6 号住居跡 遺物出土状況



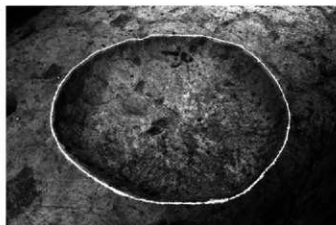
土坑 1



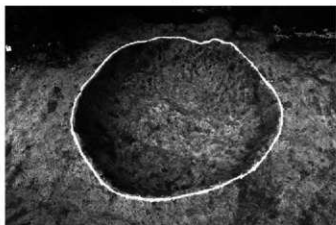
土坑 2



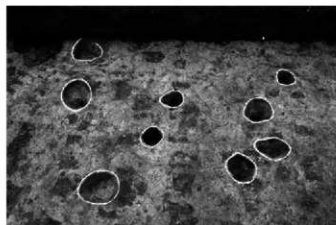
土坑 3



土坑 4



土坑 5



ビット 28 ~ 34・37・38



ビット 72 ~ 79



風倒木



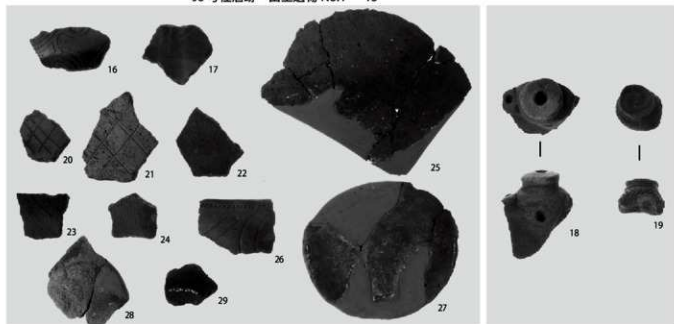
全景



調査風景

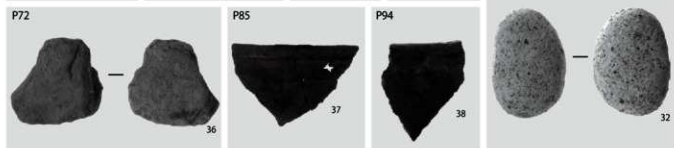


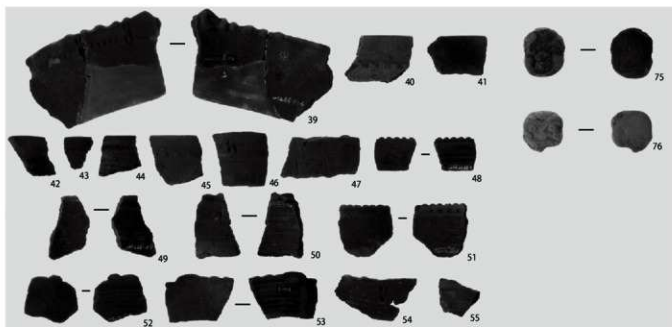
J6号住居跡 出土遺物 No.1～15



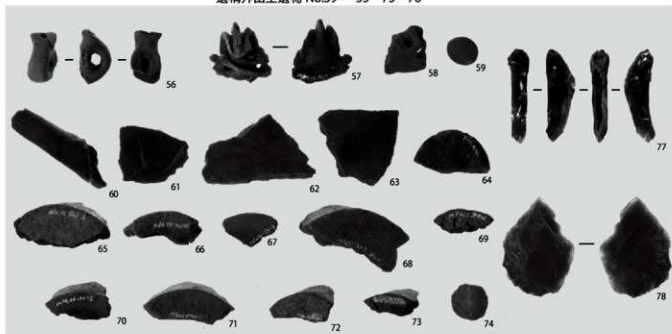
J6号住居跡 出土遺物 No.16・17・20～29

J6号住居跡 出土遺物 No.18・19

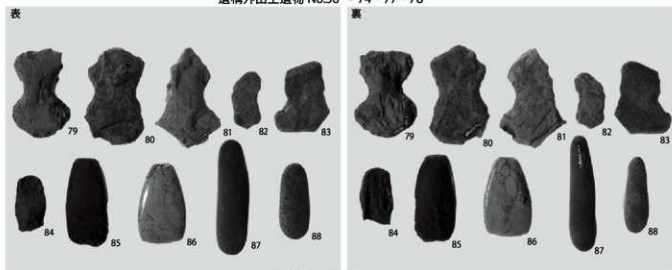




遺構外出土遺物 No.39 ~ 55・75・76



遺構外出土遺物 No.56 ~ 74・77・78



遺構外出土遺物 No.79 ~ 88

報告書抄録

書名	市内遺跡群 12	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 13 集			
編集者	高崎直成	著者	笹森健一・高崎直成			
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒 356-8501 ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号 TEL 049 (261)2611			
発行日	2014 年 (平成 26 年) 3 月 31 日					
ふじみ野市 所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	m	調査担当者
	種別 // 主な時代・主な遺構・主な遺物 特記事項					
ふじみ野市 滝 遺 跡 第 20 地 点	埼玉県ふじみ野市滝 1 丁目 1-8 の一部、1-9 の一部	112453 25-008	35° 52' 44" 139° 31' 35"	20120517 20120524	65	道路築造 高崎直成
	集落跡 // 奈良時代・住居跡 1 軒・須恵器、土師器、鉄器刀子、砥石 / 時期不明・井戸 2 基、土坑 2 基、ピット 7 基 遺跡範囲では最も西寄りに住居跡を検出した。古代の集落構成を見極める上で貴重である。					
ふじみ野市 滝 遺 跡 第 21 地 点	埼玉県ふじみ野市滝 1 丁目 1-7、 1-31 の各一部、1-26	112453 25-008	35° 52' 44" 139° 31' 35"	20120717 20120825	340	共同住宅建設 越村篤・高崎直成
	集落跡 // 奈良・平安時代・住居跡 3 軒 (1 軒本調査、2 軒確認のみ)、掘立柱建物跡 1 棟、井戸 1 基、土坑 2 基、ピット・須恵器、土師器、羽口、刀子鉄器、鉄釘 / 中近世・井戸 1 基、溝 4 条、土坑 18 基、ピット・瓦質鉢、焼締陶器、砥石 奈良時代の竪穴住居跡は 8×8 位の大型住居跡であり、住居からは鍛冶がも検出している。また、掘立柱建物跡は 3 間×5 間 (6×9.5 位) の規模があり、本調査地点が古代集落内において重要な場所であったことを示唆する。					
ふじみ野市 長 宮 遺 跡 第 41 地 点	埼玉県ふじみ野市福岡字丸橋 988 -1 ~ 3、989-2 ~ 5、990-3	112453 25-009	35° 52' 41" 139° 31' 53"	20120611 20120725	370	分譲住宅建設 越村篤・高崎直成
	集落跡 // 縄文時代・前期住居跡 6 軒、焼土 5 基、灰穴 10 基、落とし穴 2 基・縄文前期間山日式土器、石鏃、打製石斧、敲石 / 古代以降・溝 4 条、井戸 1 基、土坑 27 基、ピット 190 基・土師器、近世陶磁器 試掘調査により遺跡の範囲が拡大し、沖積低地の元水田面にまで縄文時代間山期の集落が広がっていることが確認出来た。また、中近世の遺構・遺物が確認されており、長宮遺跡の集落の起源とその広がり・配置があらためて確認された。					
ふじみ野市 松 山 遺 跡 第 62 地 点	埼玉県ふじみ野市築地 3 丁目 5-11・14・19	112453 25-010	35° 52' 19" 139° 31' 51"	20120723 20120801	173	分譲住宅建設 高崎直成
	集落跡 // 縄文時代中期・住居跡 1 軒、ピット 2 基・縄文中期前半土器、中期後半土器、打製石斧、磨り石、スクレーパー / 古代・住居跡 1 軒 (確認のみ)、溝 1 条・須恵器、土師器 / 中世以降・溝 5 条・陶器 本遺跡では初の縄文時代住居跡を検出した。縄文時代中期の集落分布を研究する上で重要な発見となった。また、南北方向の溝跡は、隣接地区でも検出する古代の溝跡であり、奈良・平安時代の住居跡の検出と合わせて、古代集落の配置を知る上で貴重な発見である。					
ふじみ野市 苗 間 東 久 保 遺 跡 第 26 地 点	埼玉県ふじみ野市苗間字東久保 637-3.34	112453 30-020	35° 52' 19" 139° 31' 51"	20100702 20100723	429	分譲住宅建設 越村篤
	集落跡 // 縄文時代後期・住居跡 1 軒、土坑 5 基、ピット 98 基、風倒木痕 1 基・縄文後期土器、中期後半土器、磨製石斧、打製石斧、敲石、スクレーパー 遺跡範囲では最も西寄りに住居跡を検出した。縄文時代中期から後期集落の集落構成を見極める上で貴重である。					

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第13集

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 12

2014年3月20日印刷

2014年3月25日発行

発行 埼玉県ふじみ野市教育委員会

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1丁目1番1号

TEL 049-220-2088

FAX 049-266-6271

印刷 関東図書株式会社
